

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

## 電子データの取扱いについて

### 電子データの内容について

- 本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

### 著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

### 保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

### お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

### 免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

小橋工業株式会社

## コバシあぜ塗り機 RM-2シリーズ取扱説明書 お役立ちガイド

このたびは作業機をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- 特に、はじめに (→p.2) および安全について (→p.4～p.14) は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
- お読みになった後も、必ず作業機の近くに保管し、いつでも読めるようにしてください。



# DYNER

## 目次

### 必ず読む▼

はじめに ▶p.2

詳細目次 ▶p.3

安全について ▶p.4

### 使いかた▼

各部の名称 ▶p.15

開梱・組付けについて ▶p.16

ジョイントの取付け準備 ▶p.17

トラクタへの装着 (JIS標準Sヒッチ (0・I形)) ▶p.18

トラクタへの装着 (JIS特殊オートヒッチ) ▶p.28

トラクタへの電源接続と配線 ▶p.32

カルコンについて ▶p.39

圃場の準備 ▶p.43

移動・圃場への出入り ▶p.44

畦塗り作業について ▶p.45

天場処理装置の使いかた ▶p.56

保守・点検 ▶p.58

消耗品一覧 ▶p.76

オプション一覧 ▶p.78

格納・運搬・保管 ▶p.83

### 必要に応じて▼

主要諸元 ▶p.85

トラクタ別装着表 ▶p.97

フロントウエイト装着表 ▶p.103

異常診断一覧表 ▶p.115

カルコンのトラブルシューティング ▶p.117

廃棄について／用語解説 ▶p.119

# はじめに

作業機を操作する前にこの取扱説明書をよく読み、正しい取扱い方法を理解してください。この取扱説明書は、作業機の近くに保管して、操作手順に不安が生じたときにはいつでも読み返せるようにしてください。

## 使用目的・使用範囲

この作業機は水田の畦塗り用です。使用目的以外の作業や作業機・部品の改造などは、決してしないでください。故障した場合は、保証の対象になりません。

## 取扱上の注意

- 当社は、以下のことを守らないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負うことができませんので厳守してください。
  - ・取扱説明書記載の指示事項を守ってください。
  - ・作業機・部品の改造しないでください。
  - ・操作・保守作業は、通常必要とされる注意または用心をして作業してください。
- 危険性に関する警告は、作業機の本体に貼付けた警告表示ラベル、およびこの取扱説明書に記載してあります。
- この取扱説明書には、知り得る限りの危険性を記載しています。したがって、この取扱説明書に記載した警告や指示を守ることにより安全性は向上します。  
また、これら以外にも事故防止対策に関して、十分な配慮が必要です。
- この取扱説明書は、日本語を母国語とする人を対象に作成されています。日本語を母国語としない人がこの作業機を取扱う場合は、必ずお使いになる方に安全指導を行ってください。
- 推奨外の条件で使用しないでください。作業機が持つ本来の性能を発揮できないだけでなく、作業機が破損する恐れがあります。使用条件を守り、正しい使いかたをしてください。

## 貸出時および譲渡時の注意

- 作業機を譲渡または貸与する場合は、この取扱説明書を十分理解してから作業するように指導してください。また、この取扱説明書を作業機に添付してお渡してください。
- この作業機は国内での使用を前提としています。したがって、海外諸国の規格への適応は保証できません。また、海外諸国では使用言語が違うため、国外への持ち出し・転売はしないでください。

## 取扱説明書について

- この取扱説明書は、作業機の組立て、操作、および保守の方法を説明するものです。
- この取扱説明書の内容は作業機の改良のため、予告なく変更する場合があります。
- この作業機とこの取扱説明書の図とは異なることがあります。  
また、作業機内部の説明を容易にするため、図の一部を省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を有します。当社の事前の文書による同意なしに、この取扱説明書の全体もしくは部分的にも複製、翻訳しないでください。また、読み取り可能でない電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い求めの販売店にご注文ください。
- この取扱説明書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたらお買い求めの販売店へお問い合わせください。

## カルコンについて

- 手持ちコントローラを「カルコン」と表記しています。  
本システムは電波を使用したコバシ作業機専用の無線コントロールシステムです。本製品は総務省の電波法に基づく基準認証を受けており、免許や資格なしでどなたでもご使用いただけます。
- 送信機（カルコン）と受信機（制御ボックス）の間で誤作動防止のため作業機固有のIDコードを使用した通信を行います。このため作業機に付属しているカルコン、制御ボックス以外の組み合わせ（ペア）では操作することができません。

# 詳細目次

はじめに	2
詳細目次	3
安全について	4
警告表示について	4
安全に作業するために	4
警告表示ラベルの種類と位置	12
サービスと保証について	14
各部の名称	15
本体	15
開梱・組付けについて	16
注意事項	16
開梱・組付け手順	16
標準装備品	16
ジョイントの取付け準備	17
注意事項	17
切断方法	17
トラクタへの装着 (JIS 標準 S ヒッチ (0・I 形))	18
注意事項	18
装着前の準備	18
セーフティカバーの取付け	21
トラクタへの装着	21
装着後のトラクタとの調整	24
フロントウエイトの装着	25
トラクタからの取外し	26
フロントウエイトの取外し	27
トラクタへの装着 (JIS 特殊オートヒッチ)	28
適用型式	28
注意事項	28
トラクタへの装着	29
装着後のトラクタとの調整	30
フロントウエイトの装着	30
トラクタからの取外し	30
フロントウエイトの取外し	31
保管・格納	31
トラクタへの電源接続と配線	32
注意事項	32
作業時確認	33
事前準備	33
配線のポイント	33
カルコンホルダの取付け	38
カルコンについて	39
注意事項	39
乾電池の交換	39
カルコンとボタン説明	41
電源の入れ方	42
その他の機能	42

圃場の準備	43
注意事項	43
圃場の準備	43
移動・圃場への出入り	44
注意事項	44
移動・圃場への出入り	44
畦塗り作業について	45
注意事項	45
作業状態の切替え方法	45
前進作業	48
後進作業	49
各機能の調整	49
上手な作業のしかた	54
高畦作業のしかた	54
天場処理装置の使いかた	56
注意事項	56
操作手順	56
耕深の調整方法	56
格納方法	57
保守・点検	58
注意事項	58
保守・点検の準備	58
保守・点検一覧表	59
作業内容	60
作業前点検	67
作業後の手入れ	68
部品交換方法	69
消耗品一覧	76
オプション一覧	78
格納・運搬・保管	83
注意事項	83
作業手順	83
主要諸元	85
トラクタ別装着表	97
S ヒッチ (4S)	97
S ヒッチ (4SD)	99
直装 (1S)	101
フロントウエイト装着表	103
異常診断一覧表	115
カルコンのトラブルシューティング	117
廃棄について	119
注意事項	119
用語解説	119

# 安全について

ここに示した注意事項は、作業機を安全に正しく使用していただき、使用者や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

## 警告表示について

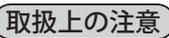
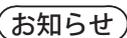
### 警告レベルの定義

誤った取扱いをすると、生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「危険」、「警告」、「注意」に区分して記載しています。

 <b>危険</b>	誤った取扱いをしたときは、死亡、後遺症などの大きな被害の可能性が高いことを意味します。
 <b>警告</b>	誤った取扱いをしたときは、死亡、後遺症などの大きな被害を負う恐れがあることを意味します。
 <b>注意</b>	誤った取扱いをしたときは、軽度の傷害が発生する可能性があることを意味します。

### その他の表示

上記以外の表示は、次のとおりです。

 <b>取扱上の注意</b>	誤った取扱いをしたときは、作業機が故障する可能性があることを意味します。
 <b>お知らせ</b>	作業機本来の能力が発揮できないこと、あるいは、特に知っておいていただきたいことを意味します。

### 絵表示

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。

	禁止（してはいけないこと）を示します。
	強制（すること）を示します。
	注意を示します。

## 安全に作業するために

### 全般

#### 危険



使用目的以外の作業や作業機・部品の改造をしないでください。

禁止

\* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

取扱説明書はいつでも読めるように、作業機と一緒に大切に保管してください。

\* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

取扱説明書をよく読み、作業機・部品の使いかたを理解してから使用してください。

トラクタの『取扱説明書』も併せてよく読んでください。

\* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

操作、作業しているときは周りの人はもちろん、本人も作業機から離れ、かつ周囲との距離が十分ある状態で行ってください。

\* 作業機に挟まれ、事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



#### 警告



禁止

適応トラクタ以外には装着しないでください。

主要諸元表を熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。

\* 特にトラクタ馬力が小さい場合、トラクタとの重量バランスが悪くなり、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



## ⚠ 警告



禁止

次のような状態では、運転しないでください。

- ・ 飲酒運転
- ・ いねむり運転
- ・ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ・ 若年者
- ・ 妊娠中の方



作業機の操作に熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。

- \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

作業機を他人に貸出す場合は、取扱説明書も添付し正しい取扱いを指導してください。

- \* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。

ボタンもキチンと留めてください。

- \* 回転部分に巻き込まれ、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



## ⚠ 注意



必ず実行

共同作業がある場合は、動作ごとに合図を徹底してください。

- \* 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。



## 作業前点検

## ⚠ 注意



必ず実行

各部のボルト、ナットなどの緩みや、ピンの脱落がないか確認してください。

- \* 事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。



## トラクタへの着脱

### ⚠ 警告



必ず実行

トラクタと作業機の着脱の際は、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、トラクタは必ずブレーキで止めてください。

- \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

作業機への着脱・調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。

特に夜間の作業機の着脱は、適切な照明を用いてください。

- \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

取付け各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。

- \* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



### ⚠ 注意



必ず実行

二人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。

- \* 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

ジョイントのノックピンが確実にPTO 軸溝、または作業機入力軸溝にはまったか確認してください。

- \* ジョイントが抜け、事故・ケガにつながる恐れがあります。



注意

トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。

- \* 事故・ケガにつながる恐れがあります。



必ず読む

安全について

## カバーの取付け

### ⚠ 危険



ジョイントなど、作業機のカバー類は必ず取付けてください。

必ず実行 \* 巻き込まれて、死亡事故・大ケガにつながる恐れがあります。



## トラクタへの装着

### ⚠ 危険



作業機とトラクタとの重量バランスを確認してください。

必ず実行

- ・トラクタの前輪に最低限 25% 以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。
- ・作業機に泥が付着して重くなる場合があるので、泥を取除いてください。
- ・アタッチメントなどを取付けて使用する場合も、バランスを確認しフロントウエイトを取付けてください。

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。  
作業機を装着すると、重量バランスが変わります。



### ⚠ 注意



作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの『取扱説明書』をよく読んでください。

必ず実行 \* 事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。



## トラックへの積み・降ろし

### ⚠ 危険



途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。

禁止 低速で積み・降ろししてください。  
\* 転倒などし事故・大ケガにつながる恐れがあります。



積み・降ろしの場所は、平坦で安全な場所で行ってください。

必ず実行 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



アユミ板は、滑り止めの付いている丈夫なものを使用してください。

必ず実行 確実に固定し、傾斜角度、平行度を確認してください。  
\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



積み・降ろしの際は、トラックが移動しないようしっかりとサイドブレーキをかけてください。

必ず実行 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないようにしてください。

必ず実行 \* ブレーキが片ぎし、転倒などし事故・大ケガにつながる恐れがあります。



作業機を装着しての積み・降ろしは、トラクタの重量バランスが変わります。泥の付着などあるので注意してください。

注意 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



積み・降ろしの際、折りたためる作業機は折りたたみ、トラックの荷台からはみ出さないように注意してください。

注意 また、強度が十分あるロープで確実に固定してください。  
\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



## 一般走行

### ⚠ 危険



高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

禁止

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



周囲の人やものに注意して旋回してください。

必ず実行

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



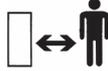
### ⚠ 警告



トラクタ・作業機には、運転者以外の人を乗せないでください。

禁止

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



走行するときは次のことを守ってください。

必ず実行

- ・ 左右のブレーキペダルを連結すること
  - ・ 作業機の回転を止めること
  - ・ 作業機の落下速度調節レバーを締めて、必ず油圧ロックをすること
- \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



坂道での走行は次のことを守ってください。

必ず実行

- ・ クラッチを切ったり、変速を中立にしないこと
  - ・ スピードを落とし、低速で走行すること
  - ・ エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないこと
- \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



### ⚠ 警告



注意

作業機は左右がトラクタの機体幅より広いため、走行時は注意してください。

移動時は、作業機の折りたたみための箇所は折りたたみ、走行してください。

また、スタンドが付いている場合も必ず取外してください。

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



### ⚠ 注意



必ず実行

トラクタで公道を走行する場合は、作業機を取外してください。

道路運送車両法違反となります。

\* 事故・ケガにつながる恐れがあります。



注意

路肩に草が茂っている場所を走行するときは、路肩の強度に注意してください。

\* 事故・ケガにつながる恐れがあります。



必ず読む

安全について

## 圃場への出入り

### ⚠ 警告

**!** 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げ、うねや段差に対して直角に進んでください。  
必ず実行 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



**!** 圃場の出口が傾斜している場合は、バックして上がるか、または丈夫なアユミ板を使用してください。  
必ず実行 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



**!** うねや段差に対しては、作業機を低くして重心を下げ、直角に進んでください。  
必ず実行 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



## 作業中

### ⚠ 危険

**!** いねわり運転、わき見運転をしないようにあらかじめ体調を整えてください。  
必ず実行 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



### ⚠ 警告

**⊘** 作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。  
禁止 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



**⊘** 作業中は、周りに人を近寄らせないでください。  
禁止 特に子供には十分注意すること。補助作業者がいる場合は、動作ごとに合図かわすこと。  
\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



### ⚠ 警告

**⊘** 回転部分など、動くところには触れないでください。  
禁止 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



**!** 次の作業をする場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、PTO 軸への動力が絶たれていることを確認してから作業してください。  
必ず実行 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 運転者が運転位置を離れて作業機を調整するとき
- 爪軸などへの草やワラのからみ付きを去除するとき



### ⚠ 注意

**!** 作業機のカバーは、土礫が飛散しないように調節してください。  
必ず実行 \* ケガにつながる恐れがあります。



#### 取扱上の注意

- むかみにはまっても作業機は絶対に外さないでください。  
牽引点を低くし、他の車に引き上げてもらってください。  
故障につながる恐れがあります。

## 作業中の点検

### ⚠ 警告

**!** 作業機の点検を行うときは以下のことを確認してから作業してください。

必ず実行

- ・トラクタの駐車ブレーキをかける
- ・エンジンを停止する
- ・PTO 軸への動力の伝導が絶たれている
- ・油圧ロックを行う

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



**!** 点検のために取外したカバー類は、必ず元通りに取付けてください。

必ず実行

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



### ⚠ 注意

**⊘** ラジエータやマフラには触れないでください。

禁止

\* 火傷をする恐れがあります。



**!** 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

必ず実行

\* 整備不良で事故につながる恐れがあります。



## トラクタ停車

### ⚠ 警告

**!** 傾斜に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。

必ず実行

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

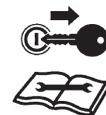


### ⚠ 注意

**!** 平らな場所に止め、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

必ず実行

\* 事故・ケガにつながる恐れがあります。



必ず読む

安全について

## カルコン

### ⚠ 注意



制御ボックスは機種専用のため、異なる機種  
の制御ボックスを使用しないでください。

禁止

\* 故障や予期せぬ作動の原因となり、ケガを  
する恐れがあります。



可燃性ガスが発生する可能性のある場所では  
使用しないでください。

禁止

\* 火災の原因になる恐れがあります。



制御ボックス内の配線の継替えは行わない  
でください。

禁止

\* 予期せぬ作動を起こし、ケガをする恐れが  
あります。



必ず実行

心臓ペースメーカーなどの医療用電子機器  
を使用されている方は、医師や医療用機器  
メーカーに電波の影響を確認してからご使用  
ください。

電波仕様

周波数 : 2.4 GHz 帯域

通信方式 : 双方向通信方式

出力 : 最大 1 mW

\* 心臓ペースメーカーなどの医療用電子機器  
に影響を与える恐れがあります。



必ず実行

必ず周囲の安全が確認できる位置で操作を  
行ってください。

電波の通信距離は使用条件、周囲の環境（屋  
外、屋内、障害物、天候、近くに強い電波  
を出す設備がある場合など）により大きく  
変わることがあります。

\* 作業機が急に動き、ケガにつながる恐れが  
あります。

### 取扱上の注意

- このコントロールシステムは日本国内の電波法に  
基づき作られています。  
国内でのみ使用できます。
- カルコン、制御ボックス（作業機に搭載）を分解、  
改造、異なった用途で使用しないでください。法  
律で罰せられることがあり、正常な作動、安全性  
を保障できなくなります。
- カルコンおよび制御ボックスには  
技術適合証明シールが貼付されて  
います。剥したり、その上に他の  
シールを貼るなど確認ができない状  
態で使用することも法律で禁止されています。  
技術適合証明シールにはマークが付いています。  

- 使用中にカルコンから煙が出たり、異臭がしたり  
操作と異なる動作をした場合や割れ、変形がある  
場合は、使用を中止し販売店にご連絡ください。
- カルコン、制御ボックスを金属などで覆ったり、  
塗装をしたりしないでください。電波が届きにく  
くなることがあります。
- 制御ボックスは樹脂カバーで覆われています。カ  
バーを外した状態での珪塗り作業、洗車作業をし  
ないでください。故障の原因になります。

## 電動油圧シリンダの取扱い

### ⚠ 危険



絶対に分解したり、修理・改造・調整をしないでください。

禁止

- \* 油が吹き出したり、異常動作してケガする恐れがあります。
- \* 調整ネジを緩めるとシリンダが急に伸縮し、作業機が落下する恐れがあります。



火気・熱気の中に投げないでください。

禁止

- \* タンク内には可燃物である作動油が加圧されて入っているため、火災・爆発の恐れがあります。



## その他

### ⚠ 警告



作業機指定の PTO 回転速度を守ってください。

必ず実行

- \* 低速回転用の作業機を高速回転で使用すると、作業機が異常作動し事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



トラクタのエンジン始動時は、周りに人がいないか、作業機が下がっているか確認してください。

必ず実行

- \* 作業機が不意に下がり、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



### ⚠ 注意



畦塗り作業をしないときは、電源カプラ 3P (白) を必ず取外してください。

必ず実行

- \* バッテリ上がりおよび誤作動する恐れがあります。

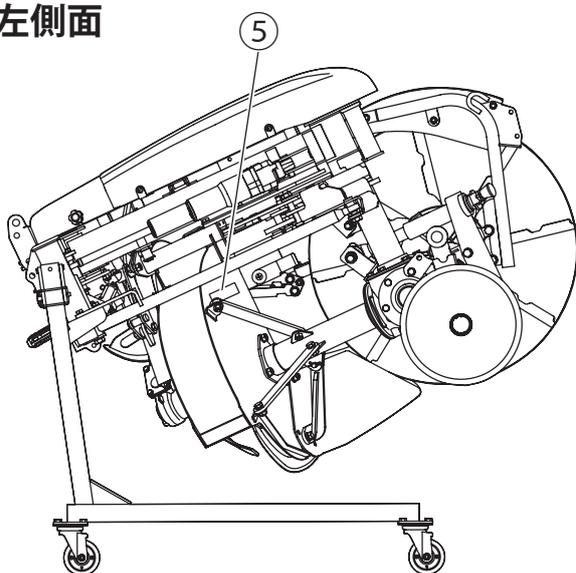


## 警告表示ラベルの種類と位置

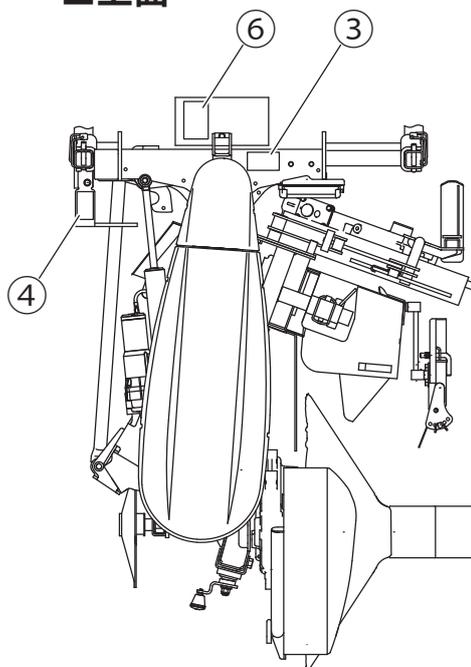
この作業機には、警告表示ラベルを貼って注意喚起しています。よくお読みになって、理解した上で作業してください。

- いつも汚れや泥を取り、警告表示ラベルがハッキリと見えるようにしてください。
- 警告表示ラベルが損傷したり破損したときは、新しいものと交換してください。
- 警告表示ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に警告表示ラベルを貼ってください。

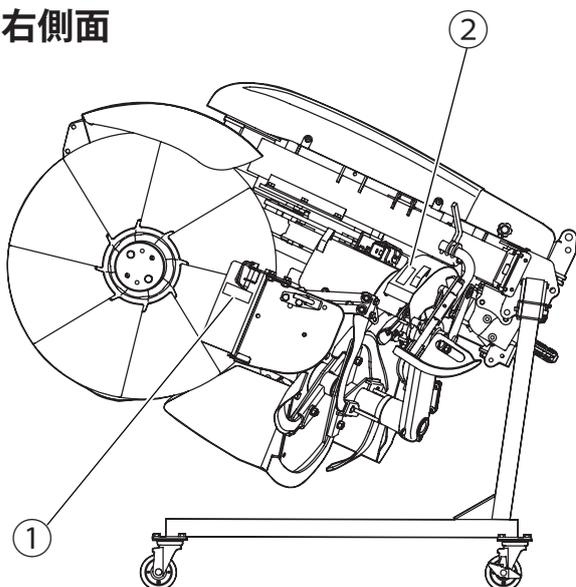
### ■左側面



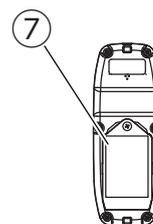
### ■上面



### ■右側面



### ■コントローラ裏側



① コードNo. 9994637

<b>▲ 注意</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ドラムには素手や素肌が直接触れないようにしてください。</li> <li>●ケガをするおそれがあります。</li> </ul>	
9994637	

② コードNo. 9994631

<b>▲ 警告</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ロータリの回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。</li> <li>●調整、整備する場合は、必ずエンジンを止めてください。</li> </ul>	
9994631	

③ コードNo. 9994714

<b>▲ 警告</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●カバーを外す場合は、必ずエンジンを止めてください。</li> <li>●カバーを外したままにするとケガをするおそれがあります。</li> </ul>	
9994714	

④ コードNo. 9994716

<b>▲ 注意</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。</li> <li>●トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。</li> </ul>	
9994716	

⑤ コードNo. 9994634

<b>▲ 警告</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように充分な前部ウェイトを取り付けてください。</li> <li>●ほ場への出入り及び移動(格納)する時は必ず作業機を中央に入れてから行ってください。</li> <li>●ほ場への出入りは、あぜや段差に対して直角に進んでください。</li> <li>●作業機にアタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。</li> </ul>	
<b>▲ 注意</b>	
<p>使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●作業機を着脱するときは、トラクタと作業機の間立たないでください。</li> <li>●エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。</li> <li>●作業機の上に人を乗せないでください。</li> <li>●点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてください。</li> </ul> <p>また、絶対に作業機の下にはいって作業をしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。</li> </ul>	

<b>▲ 注意</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●開閉操作は周囲に人がいないことと、十分なスペースがあることを確認して行ってください。</li> </ul>	
<b>▲ 注意</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●開閉操作時は、手などがはさまれないよう注意してください。</li> </ul>	
<b>▲ 注意</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。</li> <li>●トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。</li> </ul>	
9994634	

⑥ コードNo. 9992126

<b>▲ 危険</b>

<ul style="list-style-type: none"> <li>●セフティカバーは、常に装着して使用してください。</li> <li>●巻き込まれて、死傷するおそれがあります。</li> </ul>
9992126

⑦ コードNo. 9994243

<b>▲ 注意</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●操作は周囲の安全を十分確認して行ってください。</li> <li>●バッテリー上がり及び誤作動防止のため作業終了時は本機マスト付近にある電源カバーを外してください。</li> </ul>
9994243
アルカリ、マンガン電池専用 (充電式電池は装着できません)

## サービスと保証について

### 保証書

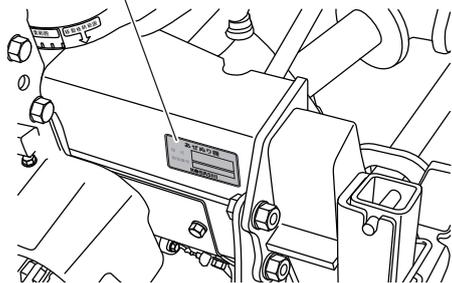
この作業機には保証書を添付しています。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

### アフターサービス

作業機の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店まで連絡してください。

- お客様名
- 作業機の型式と製造番号
- ご使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。

あぜぬり機	
型式	<input type="text"/>
製造番号	<input type="text"/>
KOBASHI	



### 補修用部品の供給年限について

この作業機の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。したがって、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

### 純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、作業機の不調や作業機の寿命を短くする原因になります。また、部品の改造はしないでください。

### 型式について

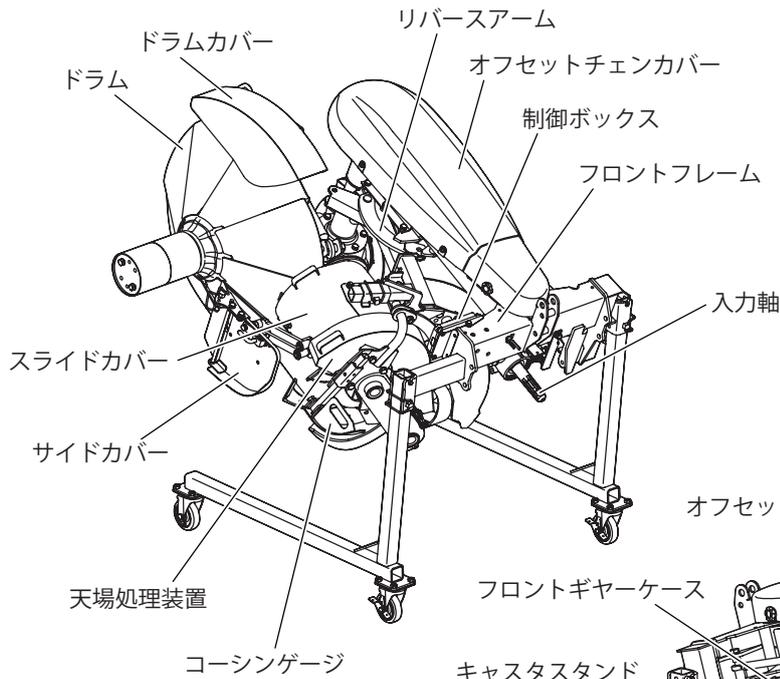
本書では、同じシリーズの型式の作業機について併記しています。お買い上げいただいた作業機の型式名を保証書で確認し、該当箇所をお読みください。

# 各部の名称

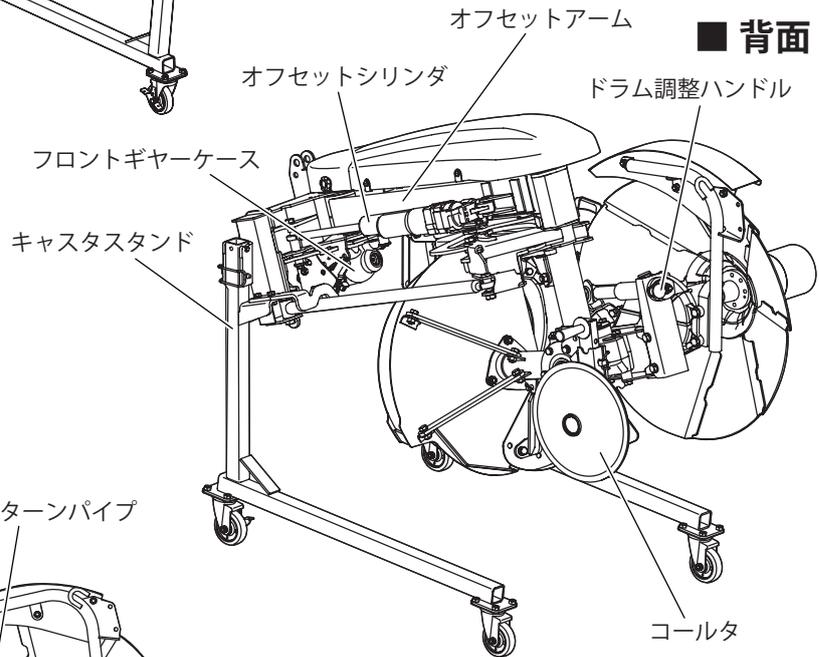
作業機本体の各部の名称を記載しています。

## 本体

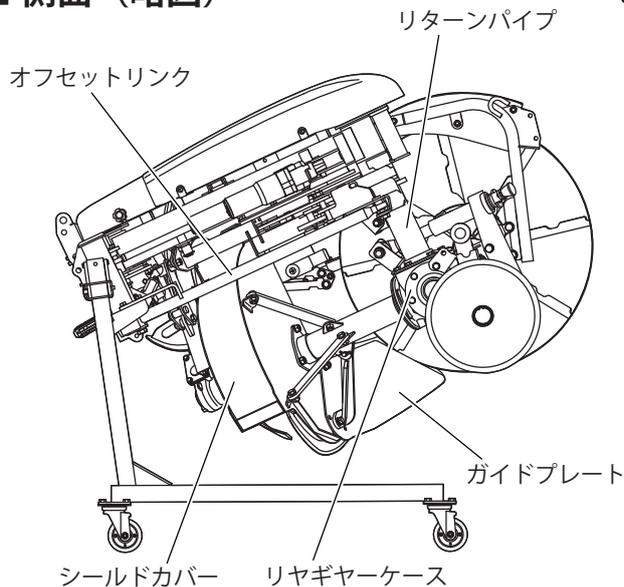
### ■ 前面（トラクタとの接続側）



### ■ 背面



### ■ 側面（略図）



使  
い  
か  
た

各  
部  
の  
名  
称

# 開梱・組付けについて

作業機は鉄枠梱包されていますので、『開梱・組付け要領書』に従って開梱・組付けを行ってください。

## 注意事項

### ⚠ 注意



作業は平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。

必ず実行 \* 事故・ケガにつながる恐れがあります。



開梱・組付けをするときは、丈夫な手袋を着用して行ってください。

必ず実行

鉄枠梱包には、スクリーンネジが使用されています。ネジの踏み抜きなどないように注意して開梱。組付けを行ってください。

\* ケガにつながる恐れがあります。



『開梱・組付け要領書』に従って開梱・組付けを行ってください。

必ず実行

\* 作業手順を誤ると、作業者がケガをしたり作業機が転倒する恐れがあります。



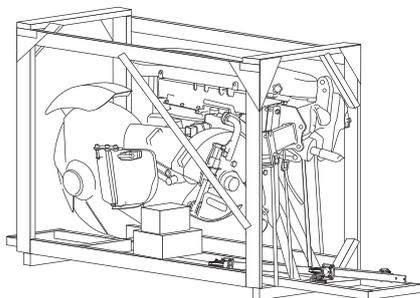
リフトやクレーンの操作は資格を持った人が行ってください。

必ず実行

\* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

## 開梱・組付け手順

作業機は鉄枠梱包されています。鉄枠に貼付けられている『開梱・組付け要領書』を参照の上、開梱・組付けを行ってください。



## 標準装備品

作業機本体と以下の付属品が梱包されています。

部品名	数量	摘要
オートヒッチアーム	1	4S, 4SD 仕様
4S キット	1	4S, 4SD 仕様
ジョイント	1	4S, 4SD, 1S 仕様
キャストスタンド L	1	
キャストスタンド R	1	
ハーネス固定用束線バンド	10	
コントローラ	1	
カルコンホルダ	1	
バッテリーハーネス ASSY	1	
コガタボルト M8 × 25 P1.25 ナイロンナット M8 P1.25 (F 仕様)	10	天場コーウンジク用 シャーボルト予備
シャーボルト M8 × 30 P1.25 ナイロンナット M8 P1.25	10	フロントシテンジク用 シャーボルト予備
EX ローラ	1	
EX ローラ A (H)	1	
EX ローラ 150C1	1	B 仕様
EX ローラ 105B2	1	B 仕様
ボルト M12 × 140 P1.5	4	
ボルト M12 × 140 P1.5	2	B 仕様
ボルト M12 × 160 P1.5	2	B 仕様
S ワッシャ M12	4	
取扱説明書	1	本書
品質保証書	1	
開梱・組付け要領書	1	

(注)

- あげ塗り機はトップマスト、ヒッチブラケットを交換することにより、JIS 標準 3P 仕様、JIS 特殊 3P 仕様 (A-1 形、A-2 形、B 形) にすることができます。
- 交換部品は別途購入してください。詳しくは販売店、農協にご相談ください。

# ジョイントの取付け準備

トラクタによっては、標準のジョイントが長い場合があります。  
以下の手順で、ジョイントの取付け準備を行ってください。

## 注意事項

### ⚠ 注意

**!** 高速カッタを使用する場合は、十分注意して作業してください。

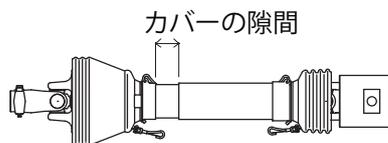
必ず実行 \* ケガにつながる恐れがあります。

**!** 高速カッタまたは金ノコを使用する場合は、手袋を着用してください。

必ず実行 \* ケガにつながる恐れがあります。

### 取扱上の注意

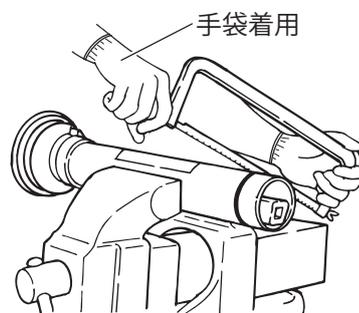
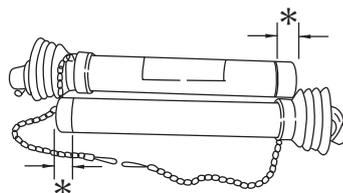
- ・ 長すぎるジョイントを装着すると、トラクタのPTO 軸と作業機の入力軸を突き、破損させます。
- ・ 短すぎるジョイントを装着すると、ジョイントの噛み合わせが不足して、チューブが破損します。



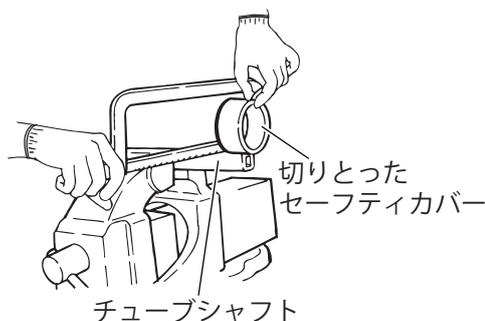
ヒッチ種類	ジョイントの種類	ジョイントの切断寸法 (mm)	カバーの隙間 (mm)
T-4SD	KHC79M	-	34 ~ 208
	TC84M	-	44 ~ 347
T-4S	TC74M	-	44 ~ 247
	TC71M	-	44 ~ 211
-1S	TC74	-	44 ~ 261
	TC69	-	44 ~ 211

## 切断方法

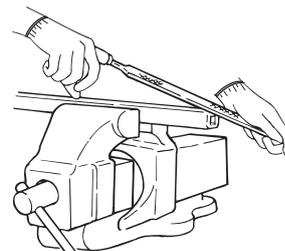
- 1 長い分だけセーフティカバーを金ノコまたはカッタでオスとメス両方切断(\*)します。



- 2 切りとったセーフティカバーと同じ長さで、チューブシャフトを金ノコまたはカッタで、オスとメス両方切断します。



- 3 切り口をヤスリでなめらかにして、切り粉を取除きます。



- 4 グリスを塗布して、オス、メスを組合わせます。

使  
い  
か  
た

開  
梱  
・  
組  
付  
け  
に  
つ  
い  
て  
/  
ジ  
ョ  
イ  
ン  
ト  
の  
取  
付  
け  
準  
備

# トラクタへの装着 (JIS 標準 S ヒッチ (0・I 形))

JIS 標準オートヒッチの S ヒッチ (0・I 形) について記載しています。

## 注意事項

### ⚠ 警告



平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。

必ず実行 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



スタンドを着脱する際は、トラクタのエンジンを停止し、作業機を持ち上げ、油圧ロックし、落下防止をしてから行ってください。

必ず実行

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



注意

作業機を着脱するときは、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

### ⚠ 注意



禁止

スタンドは、圃場内での使用や圃場内への放置はしないでください。

\* 泥の浸入により回転しにくくなる場合があります。泥が浸入して回転しにくくなった場合は、よく洗浄してグリスを塗布してください。



必ず実行

夜間の場合は適切な照明を用いてください。

\* 事故・ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

作業機の着脱は、基本一人で作業を行ってください。

\* 作業機が急に動き、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

二人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。

\* 作業機が急に動き、ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

スタンドで作業機を移動する際は、平坦な広い場所で、周囲に人がいないことを確認し、足元に注意して行ってください。

\* ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

キャストおよびスタンドが損傷した場合は、ただちに修理・交換を行ってください。

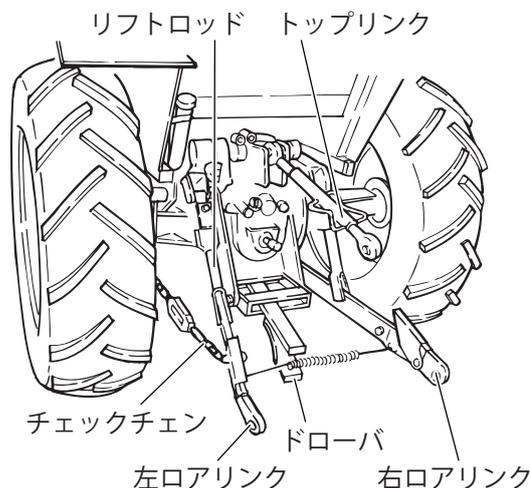
\* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

## 装着前の準備

### トラクタの準備

本機の装着方法は、標準 3 点リンク式のヒッチです。ドローバがジョイントに干渉する場合は、ドローバの位置を変えるか、取外してください。

取付け位置は、「トラクタ別装着表」(→ p.97 ~ 102) を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認し、取付けてください。



## オートヒッチアームの取付け

### ⚠ 危険

**!** 必ずトラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、PTO 軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。  
必ず実行 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

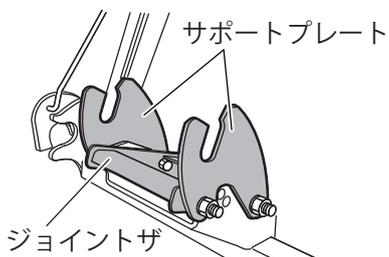
### ⚠ 注意

**!** オートヒッチアームは、JIS 規格に準拠したものを使用してください。  
必ず実行 類似規格のものは、使用しないでください。  
\* 故障につながる恐れがあります。

## 1 オートヒッチアームの状態を確認します。

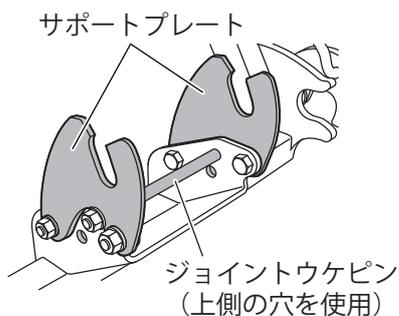
### (a) KHC ジョイントの場合

サポートプレートとジョイントザが確実に取付けてあることを確認します。  
オートヒッチアームにジョイントウケピンがないことを確認してください。

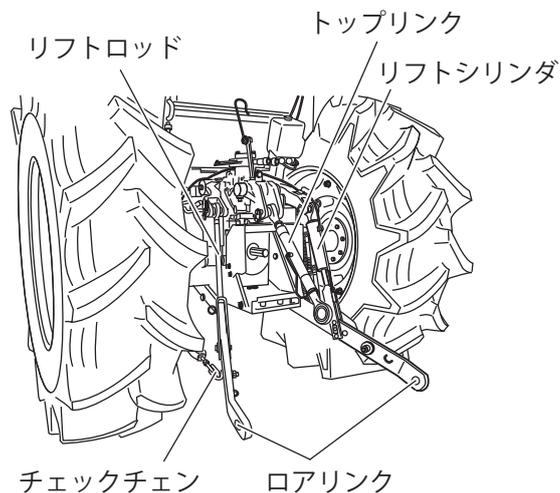


### (b) TC ジョイントの場合

サポートプレートとジョイントウケピンが確実に取付けてあることを確認します。  
オートヒッチアームにジョイントザがないことを確認してください。



## 2 トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ロアリンクをいっぱいまで下げます。



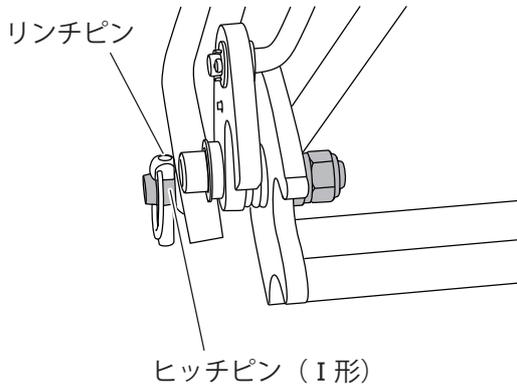
- 3点リンクの取付け位置は、「トラクタ別装着表」(→ p.97 ~ 102) を参照の上、トップリンク長やロアリンク、リフトロッドの穴位置を指定の位置に取付けてください。

### 取扱上の注意

- トップリンクは目安の長さです。作業時に再度水平を確認し調整を行ってください。

### 3 オートヒッチアームの左右ヒッチピンをトラクタのロアリンクに取付けます。

- ・取付け後は、リンチピンで抜け止めをしてください。

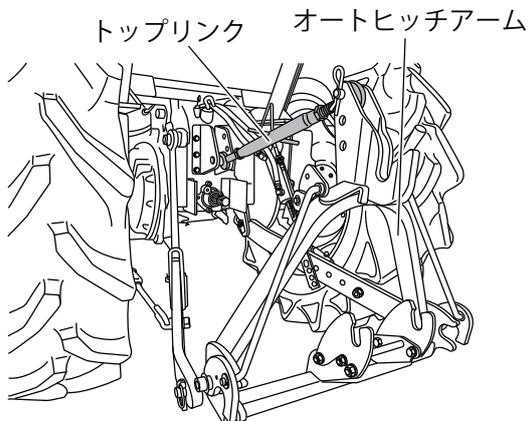


### 4 オートヒッチアームとトップリンクを取付けます。

#### ⚠ 注意

- ⚠ 取付け後は、各ピン部の抜け止めがされているか確認してください。
- 必ず実行 \* 作業機が脱落し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

- ・取付け後は、リンチピン (またはRピン) で抜け止めをしてください。トップリンクとリンチピン (またはRピン) はトラクタ付属品を使用してください。



## ジョイントの取付け

トラクタへの装着前にジョイントを取付けます。

#### ⚠ 警告



必ず実行

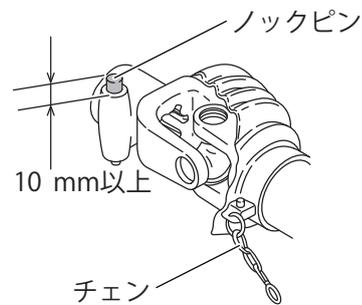
ジョイントを取付けるときは必ずトラクタのエンジンを止め、PTO チェンジレバーがニュートラル (OFF) の位置になっていることを確認してください。

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

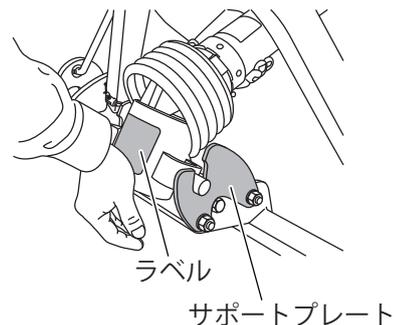
### 1 ジョイントの広角側をトラクタのPTO 軸に取付けます。

- (1) ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入し、軸の溝にノックピンをはめ込み、抜け止めをします。
- (2) トラクタ側と作業機側のノックピンの取付け状態を確認します。

- ・ノックピンが正確に軸溝にはまっているか。
- ・ピンの頭が **10 mm 以上** 出ているか。



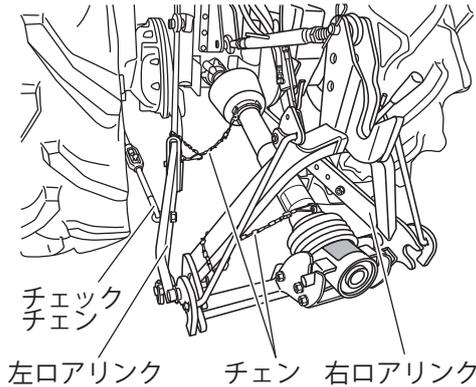
### 2 ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットします。



- 3** ジョイントセーフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。

**取扱上の注意**

- このとき作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないように、たるみを持たせてください。



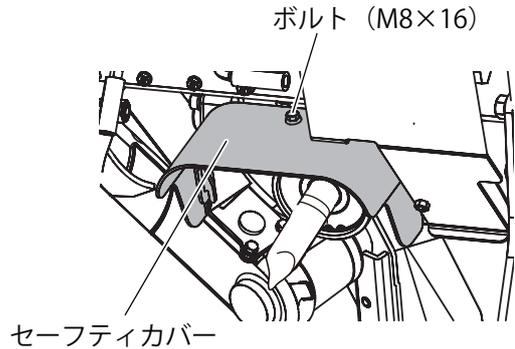
- 4** チェックチェンを張って、オートヒッチアームをトラクタの中心部に合わせます。また、ロアリンクの左右の高さも均等にします。
- 5** 各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実にされていることを確認します。

## セーフティカバーの取付け

**⚠ 危険**

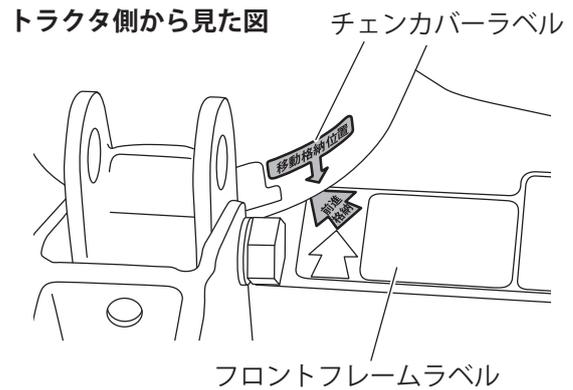
- !** セーフティカバーは必ず取付けてください。  
\* 巻き込まれて、死亡事故・大ケガにつながる恐れがあります。
- 必ず実行

- 1** ボルト (M8 × 16) を使用して、セーフティカバーとカバーブラケットを固定します。



## トラクタへの装着

- 1** フロントフレームラベルの「前進格納」矢印と、チェンカバーラベルの「移動格納位置」矢印が合っている状態にします。



**取扱上の注意**

- ズれている場合は、安全に装着することができないので、コントローラと電源を接続し、矢印を合わせてください。

使いかた

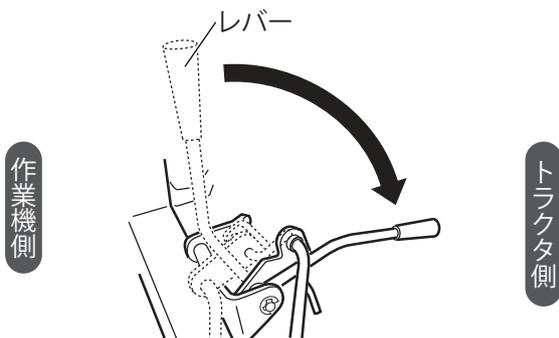
トラクタへの装着 (S 標準 S ヒッチ (0・I 形))

## 2 オートヒッチアームのロックを解除します。

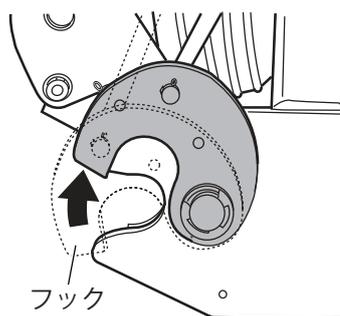
- (1) レバーロックピンを引っ張ります。
- (2) レバーロックピンを解除方向へ回します。  
⇒ レバーのロックが解除されます。



- (3) レバーをトラクタ側へ倒します。



⇒ オートヒッチフックのロックが解除され、フックが開きます。



### ⚠ 注意

**!** レバーを倒した状態で、作業機昇降装置を上下すると、レバーとトラクタが干渉する場合があります。干渉に注意して装着してください。

必ず実行

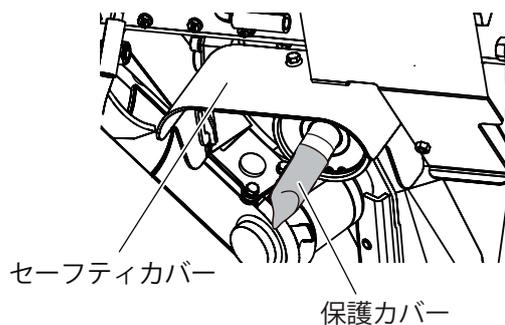
干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

\* トラクタの破損につながる恐れがあります。

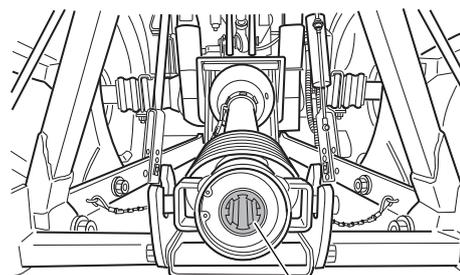
## 3 入力軸の保護カバーを取外します。

### 取扱上の注意

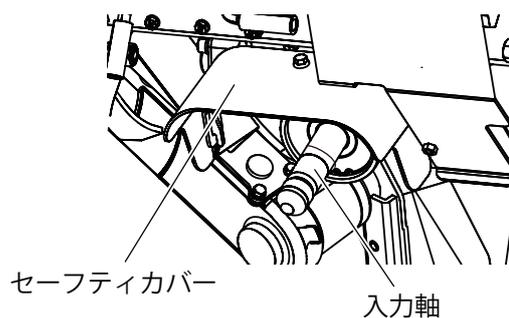
- ・ 入力軸の保護カバーを必ず取外してください。外さないで使用すると、破損につながる恐れがあります。



## 4 作業機の入力軸とジョイントの結合部に十分にグリスを塗布します。



ジョイントの結合部



## 5 作業機をトラクタに取付けます。

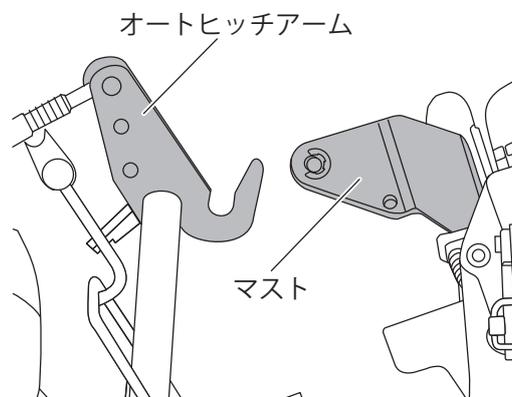
### 取扱上の注意

- 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。  
特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。  
また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- トップリンクやロアリンクの取付け位置、およびリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも、干渉の有無を確認してください。
- 左右の水平調節についても注意してください。
- 移動時に急ブレーキをかけた場合、反動で作業機が上がりトラクタに接触することがあるので注意してください。
- キャビン付きトラクタのリアガラスを開けたまま作業機を上げたり、開閉操作を行わないでください。
- 作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。

- トラクタの PTO の変速をニュートラルにします。
- オートヒッチアームを下げます。
- トラクタをゆっくりバックさせ、作業機に近づけます。  
作業機のマスト先端とオートヒッチアームを合わせます。

### 取扱上の注意

- トラクタと作業機が直角になるようにしてください。

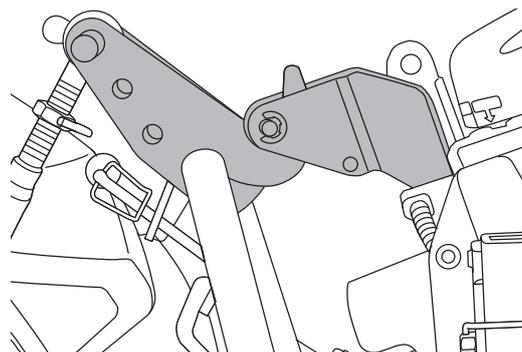


- ポジションコントロールレバーを「上げる」にし、フックに合わせて作業機をゆっくりとリフトアップします。

⇒ジョイントのスプライン部は、自動的に接続されます。

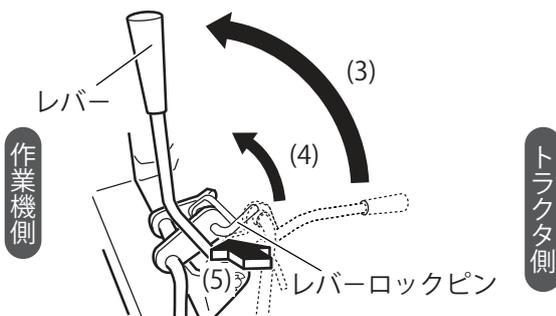
### 取扱上の注意

- ジョイントが噛み合わなかったなどの場合、ポジションコントロールレバーを下げ、一度トラクタを前進させてからやり直してください。  
また、トップリンクの長さが適切か確認してください。



## 6 オートヒッチアームをロックします。

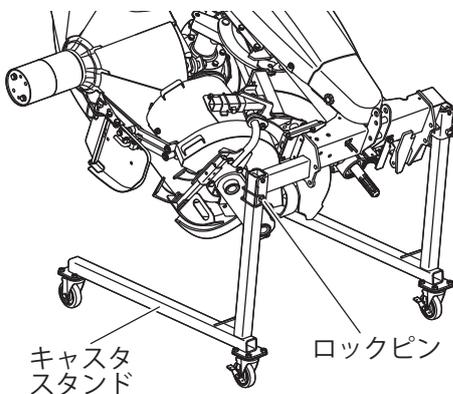
- (1) 作業機のガイドカラーとオートヒッチアームが、しっかりと入っていることを確認します。
- (2) 作業機の入力軸とジョイントのスプラインが、しっかりと入っていることを確認します。
- (3) 確認できたらレバーを上を起こします。  
⇒ 作業機とオートヒッチアームがロックされます。
- (4) レバーロックピンをロック方向に回します。
- (5) レバーがロックされます。



### 取扱上の注意

- レバーロックピンは作業中の作業機の誤解放を防止するものです。作業するときは、必ずロックしてください。

## 7 スタンドブラケットのロックピンを取外し、キャストスタンドを取外します。



## 装着後のトラクタとの調整

### チェックチェンの調整

左右の横振れを確認し、必要に応じてチェックチェンを調整してください。

- 1 作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタの PTO 軸を後方より見て直線上に合わせます。
- 2 左右の横振れが 10 mm 以内になっていることを確認します。10 mm を超える場合は、左右均等にチェックチェンを張ります。

### リフトロッドの調整

左右の水平を確認し、必要に応じてリフトロッドを調整してください。

- 1 作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるようにします。
- 2 トラクタの油圧水平スイッチを操作し、リフトロッドを調整します。油圧水平スイッチがない場合は、リフトロッドを回して調整します。

### トップリンクの調整

トップリンクの長さは「トラクタ別装着表」(→ p.97 ~ 102) を参照して調整します。後ほど作業中に微調整を行います。

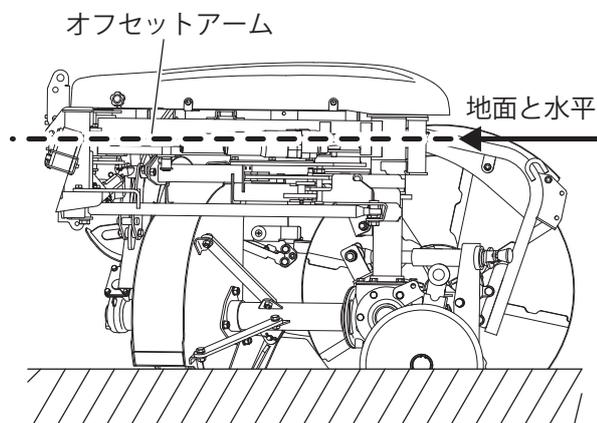
### 警告



トップリンクの調整は、作業機を接地させてから行ってください。

必ず実行 \* トップリンクが抜けて、作業機が落下し、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

作業機を接地させ、オフセットアームが地面に対して水平になるようにトップリンクを調整してください。※水平になっていない場合は、畦の土の量が不足して丈夫な畦ができません。



#### 取扱上の注意

- 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。
- 特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm 以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーで作業機を上下させてカバーの隙間が適正か確認してください。
- トップリンクやロアリンクの取付け位置、およびリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも、干渉の有無を確認してください。
- 左右の水平調節についても注意してください。
- 移動時に急ブレーキをかけた場合、反動で作業機が上がリトラクタに接触することがあるので注意してください。
- キャビン付きトラクタのリヤガラスを開けたまま作業機を上げたり、開閉操作を行わないでください。
- 作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。
- 推奨外の条件で使用しないでください。作業機が持つ本来の性能を発揮できないだけでなく、作業機が破損する恐れがあります。使用条件を守り、正しい使いかたをしてください。

## ジョイントの確認

広角ジョイントの場合、ジョイントと作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

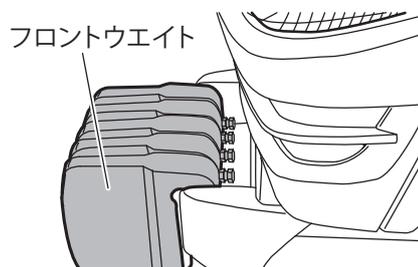
#### 取扱上の注意

- トラクタによっては、作業機を最上位置に上げた状態で回転させると、異音が発生することがあります。ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になる恐れがあります。この場合、回転しても振動や音が出ない位置に、トラクタのポジションコントロールレバーのストップをセットしてください。

- 1 ゆっくり作業機を上げます。
- 2 ジョイントが一番縮んだ状態で、軸を突かないことを確認します。
- 3 作業機を上下してカバーの隙間が「ジョイントの取付け準備」(→ p.17) の範囲であることを確認します。

## フロントウエイトの装着

トラクタ型式および装着方式によりフロントウエイトが必要になります。(→ p.103 ~ 114) 必ず、必要枚数および重量をご確認の上、ご購入先にご相談ください。



使いかた

トラクタへの装着 (S 標準 S ヒッチ (0・I 形))

## トラクタからの取外し

作業機のトラクタからの取外しについて記載しています。

### 警告



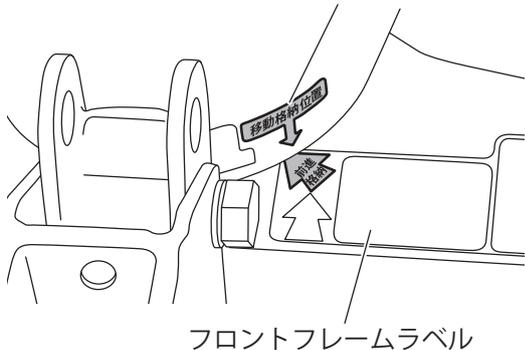
必ず実行

作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした場所で、取外しのためのスペースが十分にとれる場所で行ってください。

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 1 フロントフレームラベルの「前進格納」矢印と、チェンカバーラベルの「移動格納位置」矢印が合っている状態にします。

トラクタ側から見た図      チェンカバーラベル

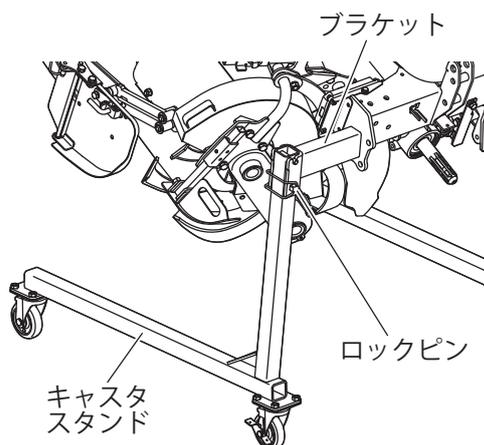


### 取扱上の注意

- ・ズれている場合は、安全に装着することができないので、コントローラと電源を接続し、矢印を合わせてください。

- 2 キャスタスタンドを取付けます。

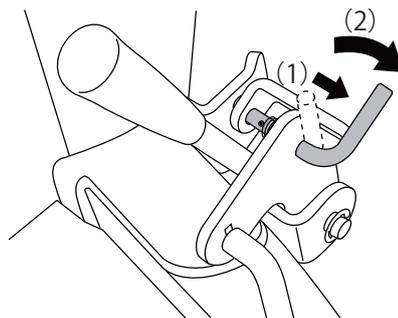
- (1) 作業機を持ち上げます。
- (2) キャスタスタンドを作業機両側のブラケットに取付け、ロックピンで固定します。



- 3 オートヒッチアームのロックを解除します。

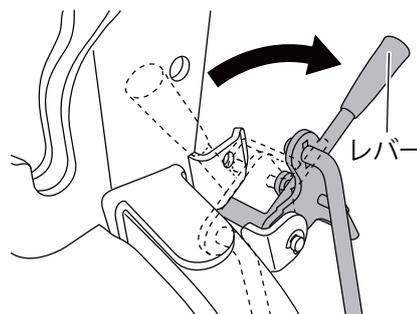
- (1) レバーロックピンを引っ張ります。
- (2) レバーロックピンを解除方向へ回します。

⇒ レバーのロックが解除されます。



- (3) レバーをトラクタ側へ倒します。

⇒ オートヒッチフックのロックが解除され、フックが開きます。



### 注意



必ず実行

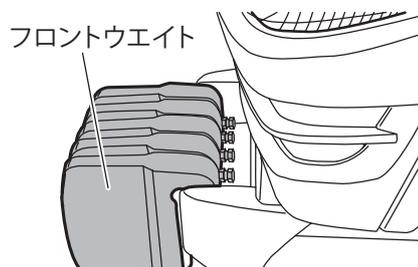
レバーを倒した状態にしたまま、作業機昇降装置を上下しますと、レバーとトラクタが干渉する場合がありますので、干渉に注意して装着してください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

\* トラクタの破損につながる恐れがあります。

## フロントウエイトの取外し

作業前に取付けたフロントウエイトを取外します。



### 4 作業機を下げます。

- (1) トラクタの PTO の変速をニュートラルにします。
- (2) ポジションコントロールレバーを「下げる」にします。
- (3) 作業機を下げ、トラクタをゆっくり前進させます。

外れない場合は、場所が平坦でないかトラクタがまっすぐ前進していないなどの原因があります。再度動作をやり直してください。

⇒ 作業機は外れます。

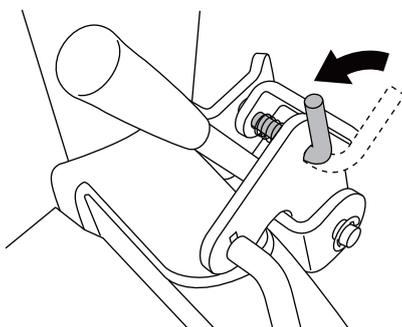
#### 取扱上の注意

- ・ 作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。

#### ⚠ 注意

**!** 必ず実行 トラクタから作業機を外し、オートヒッチアームを作業機に取付けて格納する場合には、レバーに付いているロックピンを図のようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に必ず挿入してください。

\* オートヒッチアームの落下につながる恐れがあります。



# トラクタへの装着 (JIS 特殊オートヒッチ)

JIS 特殊オートヒッチについて記載しています。

いずれの型式も、トラクタに装着されている純正ロータリと同様の手順で、作業機の取付けと取外しができます。また、純正ロータリのオートヒッチ、トップリンク、ジョイントがそのまま使用できます。

◆メーカーによりオートヒッチの呼び名が異なりますので注意してください。

## 適用型式

以下の型式が適用となります。

RM752H (B) -S  
-T  
-U (MU)

RM752F (B) -S  
-T  
-U (MU)

RM852H -S  
-T  
-U (MU)

RM852F -S  
-T  
-U (MU)

## 注意事項

### 警告



平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。

必ず実行 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



スタンドを着脱する際は、トラクタのエンジンを停止し、作業機を持ち上げ、油圧ロックし、落下防止をしてから行ってください。  
\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行



注意

トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

### 注意



禁止

スタンドは、圃場内での使用や圃場内への放置はしないでください。

\* 泥の浸入により回動しにくくなる場合があります。泥が浸入して回動しにくくなった場合は、よく洗浄してグリスを塗布してください。



必ず実行

夜間の場合は適切な照明を用いてください。

\* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

### 注意



二人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。

必ず実行 \* 作業機が急に動き、ケガにつながる恐れがあります。



スタンドで作業機を移動する際は、平坦な広い場所で、周囲に人がいないことを確認し、足元に注意して行ってください。

\* ケガにつながる恐れがあります。



キャストおよびスタンドが損傷した場合は、ただちに修理・交換を行ってください。

必ず実行 \* 事故・ケガにつながる恐れがあります。



作業機を装着する際は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」にしてください。

必ず実行 \* ケガにつながる恐れがあります。



トラクタメーカーの純正ウエイトを取付けてください。

必ず実行  
トラクタ型式および装着方式によりフロントウエイトが必要になります。

\* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

# トラクタへの装着

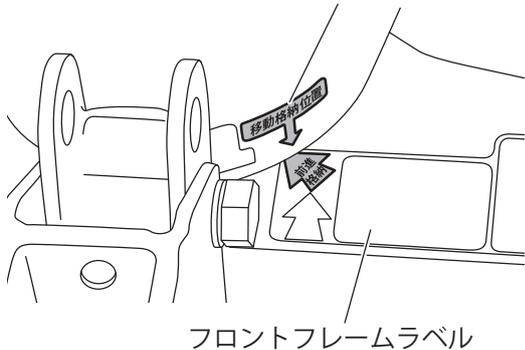
## トラクタの準備

ロアリンク、リフトロッドは、純正ロータリと同じ位置（特殊 3P）で、またオートヒッチはロアリンクに取付けた状態で本作業機は装着できます。

## 作業機の確認・装着

- 1 フロントフレームラベルの「前進格納」矢印と、チェンカバーラベルの「移動格納位置」矢印が合っている状態にします。

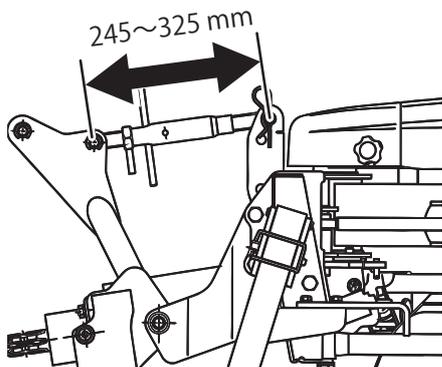
トラクタ側から見た図      チェンカバーラベル



### 取扱上の注意

- ・ズれている場合は、安全に装着することができないので、コントローラと電源を接続し、矢印を合わせてください。

- 2 入力軸を前傾にし、装着しやすいようにターンバックルの長さを調整します。（出荷時 245 ~ 325 mm：機種によって異なります。）



- 3 作業機をトラクタに取付けます。

トラクタにより、装着手順が異なります。お手持ちの、トラクタおよび、純正ロータリの『取扱説明書』に従って装着してください。

## ⚠ 危険



禁止

作業が終わって作業機を取外すまでは、特殊 3P オートヒッチアームのロックレバーには絶対に手を触れないでください。

\* ロックが解除し作業機が外れ、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

装着後は、特殊 3P オートヒッチアームのロックが確実にされていることを確認してください。

\* ロックされていない場合、走行中や作業中に作業機が外れて事故・大ケガにつながる恐れがあります。

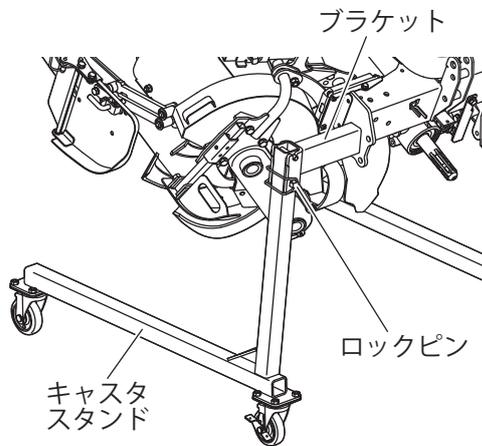
### 取扱上の注意

- ・作業機装着時はオートヒッチアームのフックでハーネスを挟まないようにしてください。破損の原因につながります。
- ・最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- ・トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手で干渉の有無を確認してから使用してください。また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm 以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ・ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- ・トップリンクやロアリンクの取付け位置、およびリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも、干渉の有無を確認してください。
- ・左右の水平調節についても注意してください。

使いかた

トラクタへの装着 (C) 特殊オートヒッチ

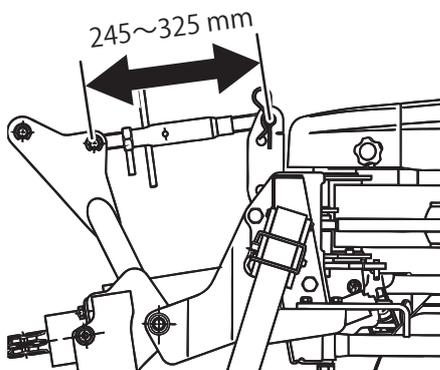
- 4 スタンドブラケットのロックピンを取外し、キャストスタンドを取外します。



## 装着後のトラクタとの調整

### ターンバックルの調整

作業機を接地させ、オフセットアームが地面に対して水平になるように、ターンバックルを調整してください。



### 警告

**!** ターンバックルの調整は、作業機を接地させてから行ってください。  
必ず実行 \* ターンバックルが抜けて、作業機が落下し、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

## フロントウエイトの装着

トラクタ型式および装着方式によりフロントウエイトが必要になります。「フロントウエイト装着表」(→ p.103 ~ 114) を参考にして装着してください。



## トラクタからの取外し

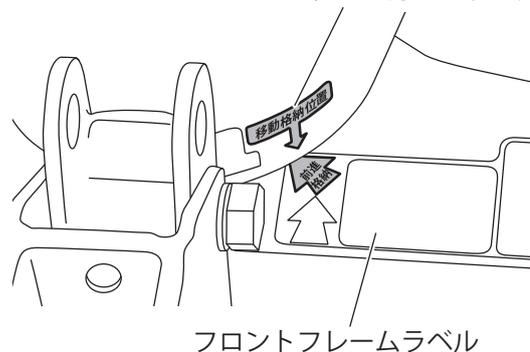
作業機のトラクタからの取外しについて記載しています。

### 警告

**!** 作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした場所で、取外しのためのスペースが十分にとれる場所で行ってください。  
必ず実行 \* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 1 フロントフレームラベルの「前進格納」矢印と、チェンカバーラベルの「移動格納位置」矢印が合っている状態にします。

トラクタ側から見た図      チェンカバーラベル

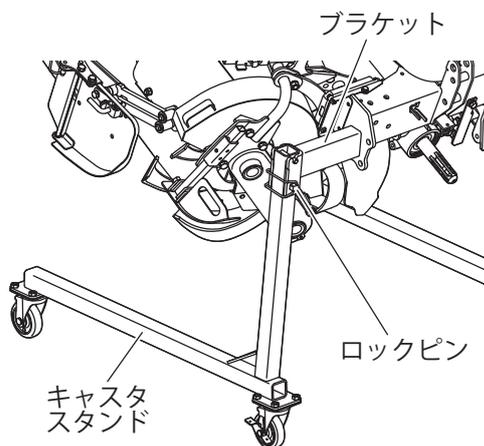


### 取扱上の注意

- ・ズレている場合は、安全に装着することができないので、コントローラと電源を接続し、矢印を合わせてください。

## 2 キャスタスタンドを取付けます。

- (1) 作業機を持ち上げます。
- (2) キャスタスタンドを作業機両側のブラケットに取付け、ロックピンで固定します。

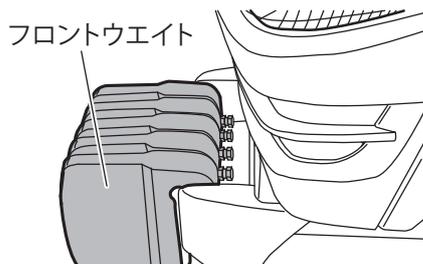


## 3 作業機を取外します。

純正ロータリの『取扱説明書』に従い同様の手順で取外してください。

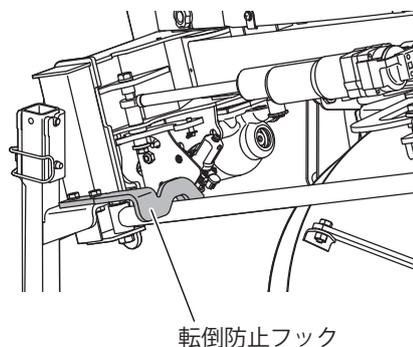
## フロントウエイトの取外し

作業前に取付けたフロントウエイトを取外します。



## 保管・格納

保管・格納時は転倒防止フックがかかっていることを確認してください。



### ⚠ 注意



キャストスタンドは曲がったまま使用しないでください。

禁止

\* 作業機が転倒する恐れがあります。



キャストスタンドは保管・格納時のみ使用してください。

必ず実行

\* 運搬時などで使用すると、キャストスタンドおよび作業機の損傷する恐れがあります。

使いかた

トラクタへの装着 (C) 特殊オートヒッチ

# トラクタへの電源接続と配線

トラクタへの電源接続と配線について記載しています。

## 注意事項

### ⚠ 警告

**!** バッテリーハーネスのスローブローヒューズが切れた場合は、必ず純正部品に交換してください。  
必ず実行 \* ショートして火災になる恐れがあります。

**!** バッテリーハーネスをバッテリーに接続するときは、(+) (-) に注意してください。  
注意 \* 逆に接続すると、ショートして火災になる恐れがあります。

### ⚠ 注意

**⊘** バッテリーハーネスが損傷している場合は、絶対に使用しないでください。  
禁止 \* ショートして火災になる恐れがあります。

**⊘** 6V、24Vなどのバッテリーには絶対に接続しないでください。  
禁止 接続できるバッテリー電圧は12Vです。  
\* 制御ボックスなどを破損し、ショートする恐れがあります。

**⊘** ぬれた手でバッテリーや接続部に触れないでください。  
禁止 \* 感電する恐れがあります。

**!** バッテリー (+) 端子への取付けおよび取外し作業は、アース側の (-) 側ケーブルがターミナルから取外されていることを確認した上で、行ってください。  
必ず実行 \* 工具などがトラクタのボディに当たった場合にショートする恐れがあります。

**!** バッテリーハーネスの取付けおよび取外し手順は、必ず取扱説明書通りに行ってください。  
必ず実行 \* 工具などがトラクタのボディに当たった場合にショートする恐れがあります。

**!** 哇塗り作業をしないときは、電源カブラ 3P (白) を必ず取外してください。  
必ず実行 \* バッテリー上がりおよび誤作動する恐れがあります。

### ⚠ 注意

**!** 他のトラクタのバッテリーや充電器を接続してエンジンをかける場合、必ず制御ボックスの電源カブラ 3P (白) を取外してください。  
必ず実行 \* 過電流がかかり故障の原因となる恐れがあります。

**!** トラクタのバッテリーを充電する場合、必ず制御ボックスの電源カブラ 3P (白) を取外してください。  
必ず実行 \* 過電流がかかり故障の原因となる恐れがあります。

**!** 長期間使用しない場合は、必ずトラクタのバッテリーからバッテリーハーネスを取外して保管してください。  
必ず実行 \* バッテリーハーネスを損傷し、ショートする恐れがあります。

## 作業時確認

以下の内容を確認しながら作業を行ってください。

- (a) トラクタのエンジンキー ON/OFF
- (b) バッテリーの+/-は間違えていないか
- (c) バッテリーは上がっていないか
- (d) スタータは軽く回るか
- (e) 各カプラが確実にはまっているか
- (f) カプラ内部の端子が抜けかけていないか
- (g) ヒューズが切れていないか
- (h) バッテリー端子部の接触不良はないか  
(接触不良の場合は磨いてください。)
- (i) ハーネスを座席やヒッチ部に挟み込んで断線していないか

## 事前準備

- 外部電源取出しの有無を確認してください。  
(→ p.34)
- バッテリーハーネス M2 で作業機側の電源ハーネスまで届かない場合は、エンチョウハーネス M を使用してください。

部品名	品目コード	個数
エンチョウハーネス M (オプション)	4910588	1 m

- 外部電源取出し CN2P を他の機器などで使用している場合は、次の部品を準備してください。

部品名	品目コード	個数
CN2P ブンキハーネス (オプション)	4500036	1 個

## 配線のポイント

- トラクタの外部電源取出しカプラを、必ず「トラクタへの電源接続と配線」のように接続してください。(→ p.34)  
制御ボックスのコンピューターが起動しません。
- バッテリーハーネスは確実に取付けてください。
- バッテリー電圧を確認してください。  
トラクタのスタータを回しても、電動油圧シリンダが動かせない場合があります。  
電気が足りなくなると、制御ボックスのコンピューターがダウンします。

## トラクタへの電源接続と配線

確実に取付けてください。  
確実に取付けてあるようでも端子の酸化皮膜で電気が流れにくいことがあります。作動しない、作動が正常でないときは端子を磨いてください。

スローブローヒューズ  
(60A)

バッテリーハーネス

カプラCN2P (青)

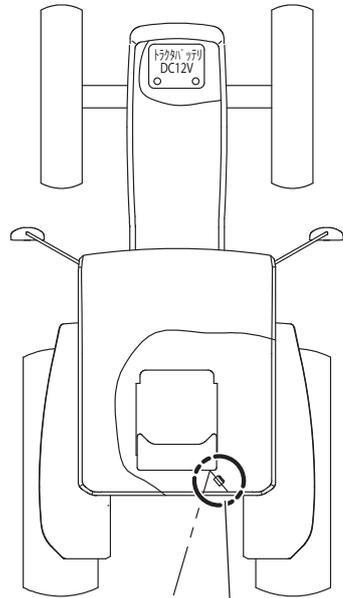
開梱時は  
接続されています。

バッテリーハーネスM2

電源カプラ3PF (白)

作業機カプラ  
3PM (白)

トラクタバッテリー  
DC12V



トラクタ外部電源取出し

カプラCN2P (黒)

トラクタ外部電源取出しCN2P

CN2Pブッキハーネス  
(コード:4500036オプション)

トラクタの外部電源取出しを使用している場合は別途ブッキハーネスを使用してください。

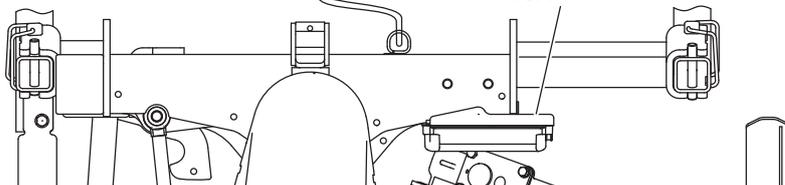
### 【トラクタキーON/OFF連動 対応】

制御ボックスの電源入/切がトラクタのキーON/OFFと連動します。

カプラCN2P (黒) を外し、トラクタの外部電源取出しに接続します。  
(この場合、CN2P (青) には何も接続しません)

\*トラクタにキー連動の外部電源取出しがない場合はカプラCN2P (黒) を接続したままで使用してください。  
制御ボックスの電源が常時入っている状態になります。

制御ボックス

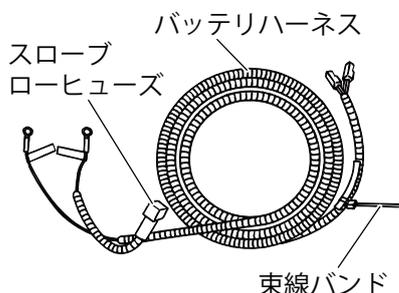
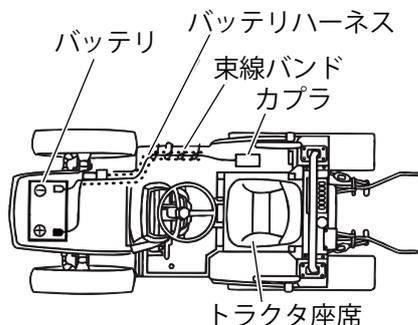


### 取扱上の注意

- ・トラクタの外部電源取出しがキー連動していない場合は作業終了後電源カプラ3P (白) を抜いてください。
- ・トラクタの外部電源仕様については、トラクタ取説で確認してください。

## バッテリーへの取付け・取外し

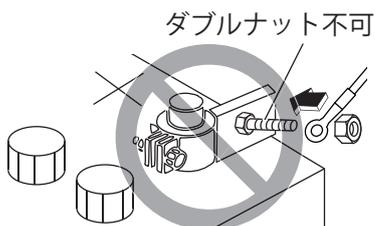
### ■ バッテリーへの取付け



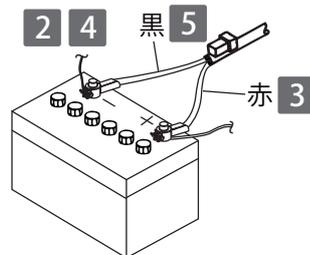
- 1 トラクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜きます。
- 2 バッテリーに取付けられているアース側の(-)側ケーブルをターミナルから取外します。
- 3 バッテリーハーネスの(+ )側(赤色線)丸端子を、バッテリーの(+ )側のターミナルのネジ部に取付けた後、確実に締まっていることを確認します。
- 4 アース側の(-)ケーブルをバッテリーの(-)側ターミナルに取付けます。

#### 取扱上の注意

- ・ケーブルは、直接ターミナルに取付けてください。ナットの上からダブルナットで取付けると、電気が流れにくくなります。テスターで12V出ていても、電流が足りないことがあります。



- 5 バッテリーハーネスの(-)側(黒色線)丸端子を、バッテリーの(-)側ターミナルのネジ部に取付けます。確実に締まっていることを確認します。



#### 取扱上の注意

- ・丸端子取付け部のサビ・汚れの除去を行わないと接触不良となり、作業機が正常に動かない恐れがあります。

- 6 ハーネスがたるまないように付属の束線バンドでトラクタに固定します。ハーネスの引っ張り、折り曲げ、挟まりなどが無いか確認します。

### ⚠ 注意



必ず実行

バッテリーハーネスを固定するには、以下のことを守ってください。

- ・トラクタの高温部箇所(マフラなど)には、取付けない。
  - ・回転物(ファンベルト、冷却ファンなど)や可動するものに接触しない。
  - ・バッテリーハーネスが鋭利なものに接触したり、カバー、座席、キャビンのドアなどに挟み込まれない。
  - ・トラクタフレームの下側にバッテリーハーネスが垂れ下がった状態にしない。
  - ・油圧配管にバッテリーハーネスを固定しない。
  - ・トラクタ可動部にバッテリーハーネスを固定しない。
  - ・運転席の足元でバッテリーハーネスがたるまない。
- \* 守らないと、バッテリーハーネスが破損し、ショートする恐れがあります。

使いかた

トラクタへの電源接続と配線

## ■ バッテリからの取外し

### ⚠ 注意

**!** カプラを取外す場合は、ロック用の爪部分を押さえながら取外してください。このとき、絶対に配線を引っ張って取外さないでください。

必ず実行

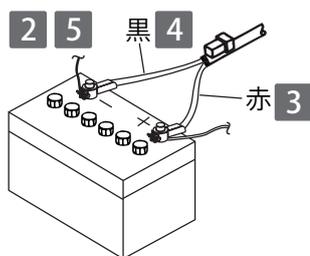
\* カプラが破損し、端子が剥き出しになりショートする恐れがあります。

### 取扱上の注意

・ 制御ボックスへの配線を必ず外してから行ってください。誤作動、故障の原因になります。

- 1 トラクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜きます。
- 2 バッテリに取付けられているアース側の(-)側ケーブルをターミナルから取外します。
- 3 バッテリハーネスの(+ )側(赤色線)丸端子を、バッテリーの(+ )側ケーブルから取外します。

ネジを元通りに確実に締付けます。

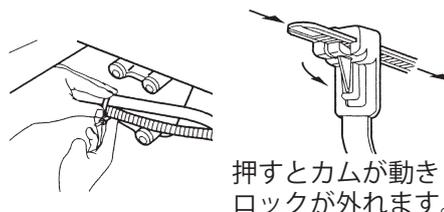


- 4 バッテリハーネスの(-)側(黒色線)丸端子をバッテリーの(-)側ケーブルから取外します。
- 5 アース側の(-)ケーブルをバッテリーの(-)側ターミナルに取付けます。ネジが確実に締まっていることを確認します。

- 6 束線バンドを取外してから、バッテリーハーネスを取外します。

### 取扱上の注意

・ ハサミなどで切らないでください。



- 7 取外した部品は、安全な場所に大切に保管します。

## ハーネスの取出し

バッテリーハーネス M2 のカプラをトラクタ後部のケーブル取出し穴から引き出します。

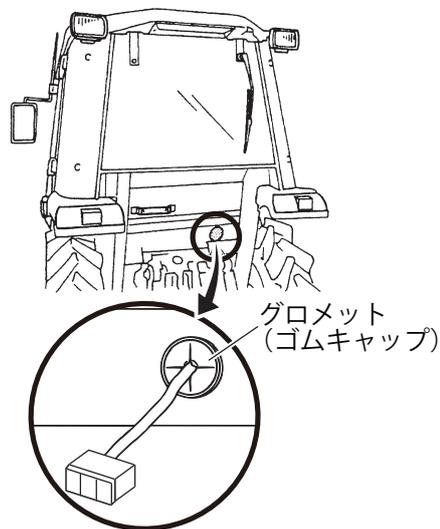
### ⚠ 注意



必ず実行

バッテリーハーネス M2 をトラクタ後部のケーブル取出し穴に通す場合、必ずグロメット(ゴムキャップ)の中を通してください。グロメットで塞がれている場合はカッターなどで切り、その中を通してください。

\* グロメットを外してケーブルを通すとケーブルが鋭利なコーナーで切断され、ショートする恐れがあります。

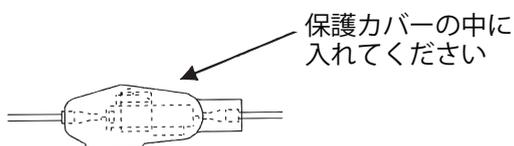


## 電源カプラの接続

- 1 トラクタから取出したバッテリーハーネス M2 の電源カプラ 3PF (白) と、作業機カプラ 3PM (白) を接続します。

### お知らせ

- 電源ハーネスのカプラは、保護カバーの中にあります。
- 接続したカプラは保護カバーをずらして両方を覆ってください。
- トラクタの外部電源取出しを使用せず直結にしている場合は、接続時に制御ボックスから「ピ」と音が鳴ります。



- 2 配線後は作業機を上下させてハーネス (コード) が引っ張られたり、ジョイントやタイヤなどに接触しないか確認します。

### 取扱上の注意

- 作業機カプラ 3PM (白) は、下に垂れ下がらないようにしてください。  
巻き込まれや水没など損傷の原因になります。

- 3 配線を束線バンドによりオートヒッチアーム上方に固定します。

### 取扱上の注意

- このとき、トラクタおよび作業機の鋭利なコーナーに接触しないよう、またポジションコントロールレバー上下操作により電源コードが張らないよう余裕を持たせてください。

## 格納

### ⚠ 注意



畦塗り作業をしないときは、電源カプラ 3P (白) を必ず取外してください。

必ず実行 \* バッテリ上がりおよび誤作動する恐れがあります。

- 作業終了時はバッテリーハーネス M2 の電源カプラと作業機カプラを取外してください。
- 作業機のカプラは保護カバーの中に入れてください。
- バッテリーハーネス M2 の電源カプラは水がかかったりショートしないようにトラクタ内に引き込んで保護してください。
- 長期にわたり使用しないときはハーネス M2 をトラクタから取外し大切に保管してください。(バッテリーハーネスを使用している場合はバッテリーハーネスも取外して大切に保管してください。)

## カルコンホルダの取付け

カルコンホルダの取付けは、カルコンホルダ裏側に貼っている両面テープで行います。

カルコンホルダの取付け位置はフェンダーやピラー（支柱）などの安全に操作しやすく、カルコンと制御ボックスとが見通せる箇所に取付けてください。

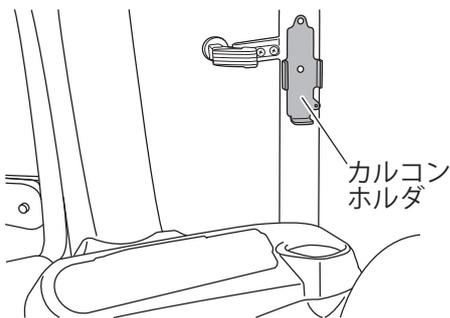
### 取扱上の注意

- 座席の前方や人体の前などで操作を行うと、電波が遮断され、操作に影響が出る可能性があります。
- カルコンは、なるべく制御ボックスが見通せる位置に設置してください。
- 高温になる場所への設置はしないでください。
- 路上走行時にフロントガラスに設置することは、法令により禁止されています。

＜カルコンホルダ裏側＞



＜キャビン仕様の場合＞



### 1 取付け面の清掃、脱脂を行います。

#### お知らせ

- 取付け面に汚れ、油などが付着しているとテープの粘着力がなくなり剥がれやすくなります。

### 2 両面テープの保護フィルムを剥がし、カルコンホルダを取付け面に押付けます。

#### お知らせ

- 押付け（圧着）を十分に行うことで、初期接着性が向上します。

### 3 カルコンをカルコンホルダの上側から挿入します。

#### お知らせ

- 貼付け直後は、本来の接着力が得られません。  
十分な時間（1日以上）をおいて、挿入することをお勧めします。

# カルコンについて

ここではカルコンの説明と操作方法について詳しく記載しています。  
作業前によく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

## 注意事項

### ⚠ 危険



ストラップを首にかけたまま作業機の可動部に近づかないでください。

禁止

\* 作業機の回転部分などに巻き込まれる恐れがあり危険です。



カルコンを転がりやすい位置に放置しないでください。

禁止

\* プレーキペダルの下に入り込むと、運転操作を妨げ、危険です。

### ⚠ 注意



必ず実行

不必要に電源を入れないようにしてください。カルコンの電源を ON にした時点で、制御ボックスの状態にかかわらず、電波を発信します。

\* 故障や予期せぬ作動の原因となり、ケガをする恐れがあります。



必ず実行

カルコンは必ず子供の手の届かない場所で保管してください。

\* 故障や予期せぬ作動の原因となり、ケガをする恐れがあります。

### 取扱上の注意

- 精密部品ですので落としたり、トラクタの座席に挟み込んだり、激しい振動を与えないでください。
- 樹脂部品のため溶剤（ガソリン、灯油、シンナーなど）を付けないでください。割れたり、溶けたりすることがあります。
- 生活防水（JIS 防水保護等級 4 級相当）のため、水、洗浄機に入れたり、流水で洗ったりしないでください。
- カルコン裏面に空気穴を設けています。この部分を塞いだり、細いもので突いたりしないでください。内部の防水シールが破れ故障の原因になります。
- 磁気を帯びたキーホルダを付けたリ金属系シールなどを貼付けないでください。電波が飛びにくくなることがあります。
- 直射日光の強い場所や炎天下の車内などの高温の場所で使用、放置、保管をしないでください。

## 乾電池の交換

### 注意事項

### ⚠ 注意



禁止

新しいアルカリ乾電池と一度使用した古いアルカリ乾電池を混ぜて使用しないでください。

\* 乾電池が液漏れ、破裂を起こし、機器の故障・ケガの原因となる恐れがあります。



禁止

乾電池の＋極、－極を逆に接続しないでください。

\* 乾電池が液漏れ、破裂を起こし、機器の故障・ケガの原因となる恐れがあります。



必ず実行

内部のパッキンが正常に装着されているか確認し、蓋を締めてください。

\* 水や異物が入り、故障や予期せぬ作動の原因となります。



必ず実行

長期間使用しない場合、カルコンの乾電池を取出し、直射日光のあたる場所、水のかかる場所を避け保管してください。

\* 乾電池が液漏れ、機器の故障の原因となる恐れがあります。

### 取扱上の注意

- アルカリ乾電池の寿命は連続使用で約 18 時間です。ただし、操作頻度により大きく異なります。
- 乾電池は「アルカリ乾電池」「マンガン乾電池」が使用できます。「マンガン乾電池」は消耗が早いため、「アルカリ乾電池」を推奨します。

### お知らせ

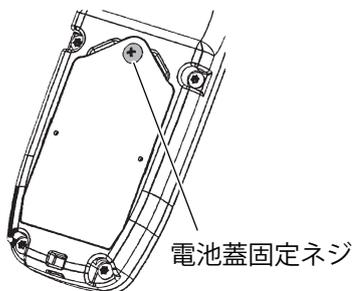
- 充電式乾電池、無メーカーの乾電池は、電池ボックスに入らない場合があります。
- 「電池交換」ランプが点滅（ゆっくり）している場合、速やかに乾電池を交換してください。

使いかた

カルコンについて

## 乾電池の交換

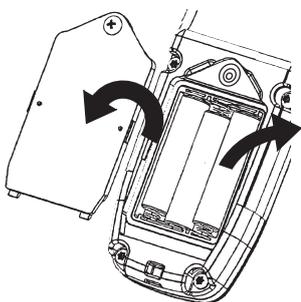
- 1 カルコン裏側にある電池蓋固定ネジを+（プラス）ドライバで緩めます。



- 2 電池蓋を取外し、使用済み乾電池を取出します。

### お知らせ

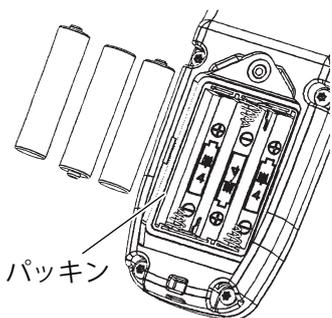
- 出荷状態では、乾電池が入っていません。同梱の乾電池を3以降の手順でセットしてください。



- 3 単4乾電池×3本を、電池ボックスの+極、-極の表示に合わせてセットします。

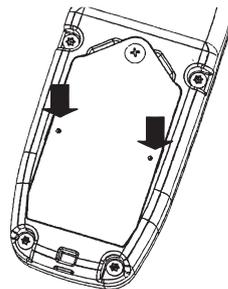
### 取扱い上の注意

- このとき、以下の確認をしてください。
  - (a) 電池ボックス外周のパッキンに亀裂、よじれ、ゴミなどの付着がないか
  - (b) 電池ボックス外周のパッキンが正しく装着されているか

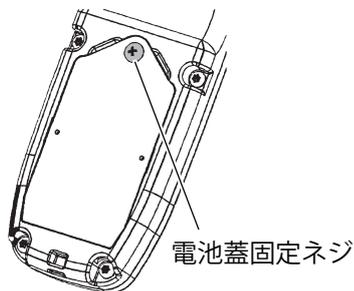


- 4 電池ボックスに水や異物が入らないように、取外すときと逆の手順で電池蓋を閉めます。

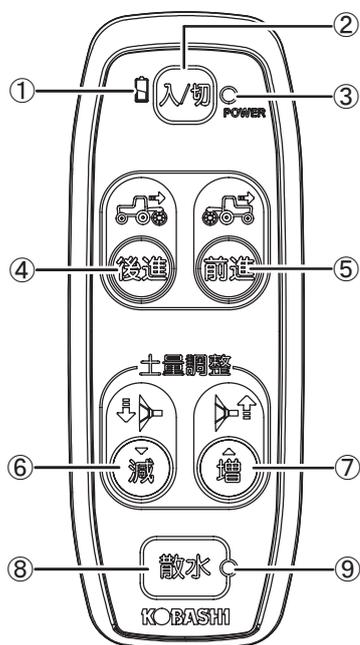
- 5 電池蓋の浮上りを少なくするため、電池蓋の両端を指で押込みます。



- 6 カルコン裏側にある電池蓋固定ネジを+（プラス）ドライバでしっかり締めます。



## カルコンとボタン説明



No.	名称	説明
①	「電池交換」ランプ (赤)	電池残量が少なくなったことを示すランプです。 点滅：電池残量低下状態
②	「電源」ボタン	押すごとにカルコンの電源を入り切りすることができます。(制御ボックスの電源はこの操作で入り切りできません)

No.	名称	説明
③	「電源」ランプ (赤)	電源状態、通信状態を示します。 点灯：電源「入」、通信確立 消灯：電源「切」 点滅 (ゆっくり)：省電力モード 点滅 (早い)：通信エラー (通信状態が悪い状態) ・制御ボックスの電源が入っていない ・制御ボックスから離れすぎている ・電波障害 これらのときは、操作はできません。 <b>お知らせ</b> ・電源を入れた後、操作ボタンを押すと「電源」ランプが消える場合は、電池が消耗しています。電池交換をしてください。(→ p.40)
④	「後進移動」ボタン	作業機を後進作業方向にオフセットします。押している間作動し、離すと止まります。(押し続けると、後進作業位置に作業機が旋回します。)
⑤	「前進移動」ボタン	作業機を前進作業方向にオフセットします。押している間作動し、離すと止まります。
⑥	土量「減」ボタン	ドラムコウシンキット (オプション) 装着時に使用します。
⑦	土量「増」ボタン	ドラムコウシンキット (オプション) 装着時に使用します。
⑧	散水装置「入/切」ボタン	押すごとに散水装置を入/切することができます。(オプションの散水キットを取付けた場合に使用します。通常は「切」にしてください。)
⑨	「散水装置」ランプ (赤)	点灯：電源「入」 消灯：電源「切」

使いかた

カルコンについて

## 電源の入れ方

### ⚠ 注意

-  **作業機は完全に開く、もしくは閉じてください。**  
必ず実行 \* 途中の位置で止めると事故・ケガにつながる恐れがあります。
-  **作業終了時はキーを抜いてください。**  
必ず実行 \* バッテリ上がりおよび誤作動により事故・ケガにつながる恐れがあります。
-  **キー連動の外部取出し電源を使用していない場合、配線途中のカプラを外して制御ボックスの電源を確実に切ってください。**  
必ず実行 \* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

### お知らせ

- ボタン操作は1か所ずつ行ってください。2か所以上同時に押すと作動が止まります。この場合はボタンを離し、操作し直してください。
- 制御ボックスから離れすぎると作動が止まり、カルコンの「電源」ランプが点滅します（通信エラー）。この場合、制御ボックスにカルコンを近づけて再度操作してください。
- 作業が終わったら電源を切ってください。カルコンは無操作の時間が3分経過すると、自動的にパワーオフになります。

安全のために以下の手順で操作してください。

- 1** **トラクタの操作レバーをニュートラルにし、エンジンをかけます。**  
⇒ 制御ボックスの電源がオンになります。
- 2** **カルコンを制御ボックスに近づけて電源ボタンを押します。**  
⇒ カルコンの電源ランプが点灯します。制御ボックスから通信確立を示す「ピ、ピ」というブザー音が鳴り、操作可能（スタンバイ状態）となります。

### お知らせ

- 安全のため電源投入時は電波の出力を下げています。カルコンの電源ランプが点滅（早い）している場合は電波が届いていません。
- 「ピ、ピ」と音がするまで、カルコンを制御ボックスに近づけてください。
- エンジンをかけるときトラクタによっては、外部電源出力が一時的に切れます。そのため、制御ボックスの電源が一度オフになります。その後、オンになります。カルコンの電源をオフし、再度オンしてください。

## その他の機能

### 省電力モード

電源を入れた状態で何も操作しない場合、1分間で省電力モードに変わります。点灯している全てのランプがゆっくりと点滅し始めます。このとき、電源ボタン以外のボタンを押すと、通常状態に戻り、ランプは点灯に戻ります。また、何もしない状態がさらに2分間続くと、自動的に切れます。通信エラー（電源ランプが早く点滅）時は、無操作30秒で電源が切れます。

### ブレーカ機能

各作動部の電流を監視しています。負荷が大きい場合は自動で電流をカットし、作動を止めることがあります。この場合、操作ボタンを押している間、連続したブザー音が鳴ります。

### 取扱上の注意

- ブレーカ作動時は電源を切り、安全に気を付けて以下を確認してください。
  - 作業機に大量の土が付着していないか
  - トラクタが極端に前下がりにないか
  - 干渉物はないか

# 圃場の準備

圃場の準備についての注意事項を以下に示します。  
よく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

## 注意事項

仕上がりの良い畦を塗るため、畦草、飛散ワラを取除いてください。また、石などの障害物があると作業機が傷み、故障、事故の原因となりますので、取除いてください。

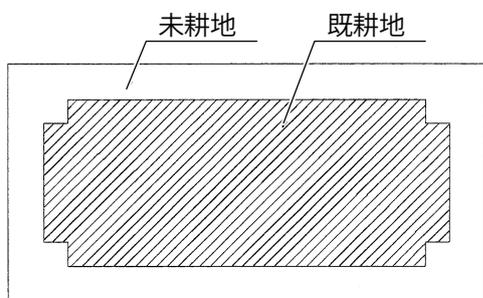
圃場は耕うんしないでください。耕うんするとトラクタが沈み込み直進性、旋回性が悪くなります。また、土量が減り、堅い畦ができにくくなります（特に畦際が片培土された状態）。耕うんする場合は、下図のように、直進部はトラクタ後輪外幅、角部はトラクタ旋回直径幅を残してください。

## 圃場の準備

(a) 仕上がりの良い畦を塗るには畦際の草、飛散ワラを取除いてください。また、石などの障害物による作業機の損傷、故障、事故が起る可能性があるため、取除いてください。

(b) 圃場は耕うんしないでください。トラクタが沈み込み直進性、旋回性が悪くなります。また、土量や水分量が安定せず均一な畦を成形することができなくなります（特に畦際が片培土され溝がある状態は土量が足りなくなります）

耕うんする場合は、下図のように、直線部はトラクタ後輪外幅、角部はトラクタ旋回直径幅を残してください。



(c) トラクタのタイヤ（ラグ）跡が付くか、土を丸めて手のひらで転がしても崩れない程度の水分量のときに良い畦が作れます。



土を握って土塊を作る



手のひらで転がしても崩れない程度

(d) 特に圃場の角付近の雑草、ワラ、石などではできるだけ処理してください。

(e) 圃場に水が溜まっているときは、水を落とし適度の湿りになるまで、乾かしてから作業を行ってください。

(f) 作業を行う際は天候に十分注意して行ってください。畦塗りをした後で雨が降ると畦が柔らかくなり崩れる恐れがあります。

(g) 重粘土質で水分の多い圃場、または極端に水分が少ない圃場、極度の砂質の圃場では畦が成形できないことがあります。

使いかた

圃場の準備

# 移動・圃場への出入り

移動・圃場への出入りについての注意事項を以下に示します。  
よく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

## 注意事項

### ⚠ 警告

- !** 移動の際は、必ずフロントフレーム矢印が格納位置に入っていることを確認して移動してください。  
必ず実行 \* 転倒事故につながる恐れがあります。
- !** 移動の際は作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、左右のブレーキを連結し、チェックチェンが張れていることを確認してください。  
必ず実行 \* 転倒事故につながる恐れがあります。
- !** トラクタの『取扱説明書』に沿って走行してください。  
必ず実行 \* 転倒事故につながる恐れがあります。
- !** 前後左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。  
必ず実行 高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。  
\* 転倒事故につながる恐れがあります。
- !** 圃場に入るときは、必ず速度を下げ、畦や段差に対して直角に進んでください。畦が高いときは丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14°以下になるようにしてください。  
必ず実行 \* 転倒事故につながる恐れがあります。
- !** 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは路肩に注意してください。  
注意 \* 転倒事故につながる恐れがあります。

### ⚠ 注意

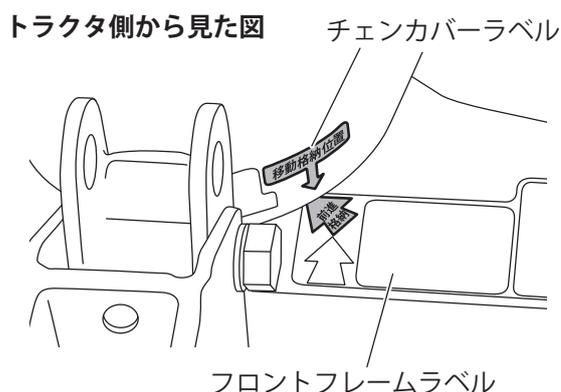
- !** 傾斜している圃場から出るときは、バックで上がるか、丈夫なアユミ板を使用してください。  
必ず実行 \* 転倒事故につながる恐れがあります。
- !** 作業機を低くして重心を下げ、直角に進んでください。  
必ず実行 \* 畦や段差に対して斜めの方向に進むと、横滑りや転倒する恐れがあります。
- !** 常に前・後輪のバランスを考え、移動、圃場への出入りに注意してトラクタ操作をしてください。  
必ず実行 \* 転倒事故につながる恐れがあります。

### ⚠ 注意

- !** 移動時にはトラクタのPTOを「切」にし、作業機の回転を止めて走ってください。  
必ず実行 \* 巻き込み事故につながる恐れがあります。

## 移動・圃場への出入り

圃場への出入りおよび、移動（格納）する場合は、必ず作業機を下図のように移動格納状態にし、矢印を合わせた位置（→←）にしてから行ってください。



# 畦塗り作業について

ここでは作業のしかたについて詳しく記載しています。  
作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

## 注意事項

### ⚠ 危険



禁止

運転中トラクタと作業機の周囲には、補助作業員や他の人を絶対に近づけないでください。

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



禁止

傾斜地、凹凸がある圃場での急旋回は、しないでください。

\* 転倒の恐れがあります。



必ず実行

次の作業をする場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、PTO 軸への動力が絶たれていることを確認してから作業してください。

- ・ 運転者が運転位置を離れて作業機を調整するとき
- ・ 爪軸などへの草やワラのからみ付きを取除くとき

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

### ⚠ 注意



必ず実行

操作時は、必ず人やものがないか周囲の安全を十分確認してから、操作を行ってください。

\* ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

オフセット操作は、必ずキャストスタンドを取外してから行ってください。

\* 作業機の損傷につながる恐れがあります。

### 取扱上の注意

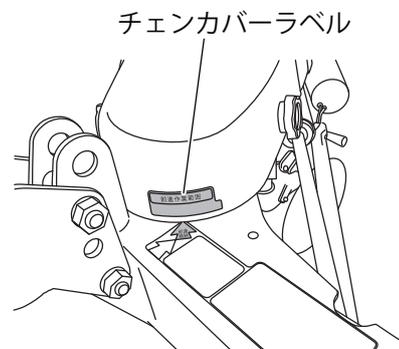
- ・ PTO 回転速度 600 rpm 以上および「逆転」での作業はしないでください。作業機が破損する恐れがあります。
- ・ 圃場条件に応じた作業速度、PTO 回転速度、作業機の調整を行ってください。
- ・ 石が多い圃場、畦が崩れやすい圃場では、作業速度、PTO 回転速度を下げて作業を行ってください。
- ・ メインシャーボルト、天場シャーボルトが切れた場合は、ただちにトラクタを止めエンジンを止め、速やかに交換してください。

## 作業状態の切替え方法

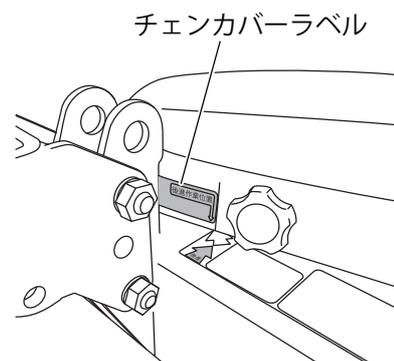
### 取扱上の注意

- ・ 下図のように矢印がチェンカバーラベルの「前進作業範囲」「後進作業位置」以外では絶対に作業しないでください。ロックアームがロックされていないため、作業機が破損する恐れがあります。
- ・ 後進作業はオフセット機構はないため、電動シリンダは必ず最縮で使用してください。

### 前進作業位置



### 後進作業位置

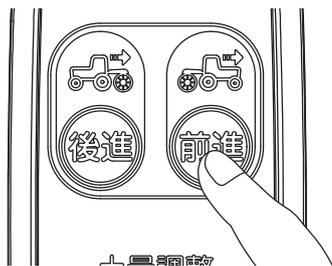


使いかた

移動・圃場への出入り／畦塗り作業について

## ■ トラクタ装着→前進作業状態

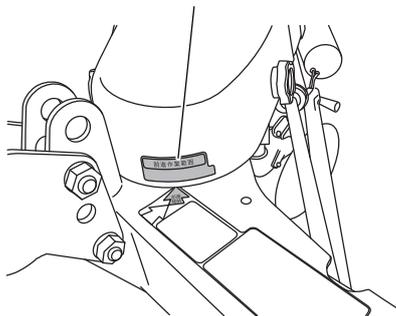
- 1 油圧を下げ、作業機の重心を低くします。  
(地面とドラムの高さを 20 cm 程度確保します)
- 2 コントローラの「前進」ボタンを押します。  
⇒ 作業機が平行移動して前進作業状態になります。



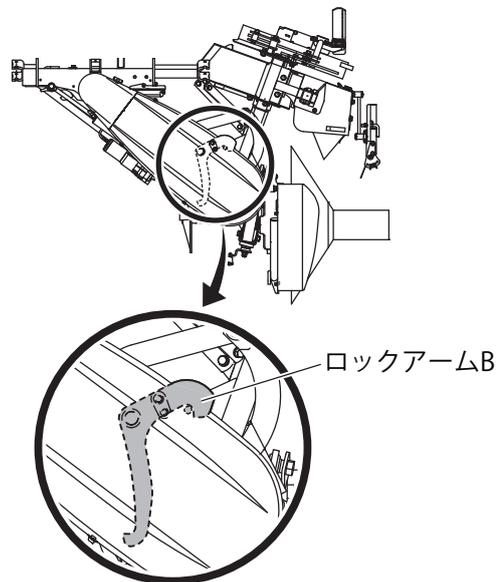
### 取扱上の注意

- 前進作業は、チェンカバーラベルの「前進作業範囲」で行ってください。

チェンカバーラベル



- 3 ロックアーム B がロックされていることを確認します。

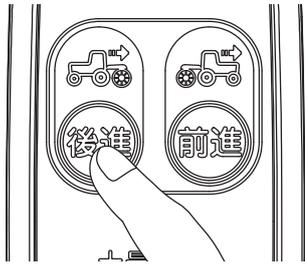


### お知らせ

- 「前進」ボタン操作時に、最大オフセットになりシリンダに負荷がかかった場合や、作業機最上げ状態などでシリンダに負荷がかかった場合に、シリンダが一瞬縮まるように動作することがありますが、誤動作ではありません。  
引き続き前進操作を行う場合は、トラクタの油圧ポジションで作業機の重心を下げるなどして、シリンダの負荷を小さくしてから「前進」ボタンを押してください。

## ■ 前進作業状態→後進作業状態

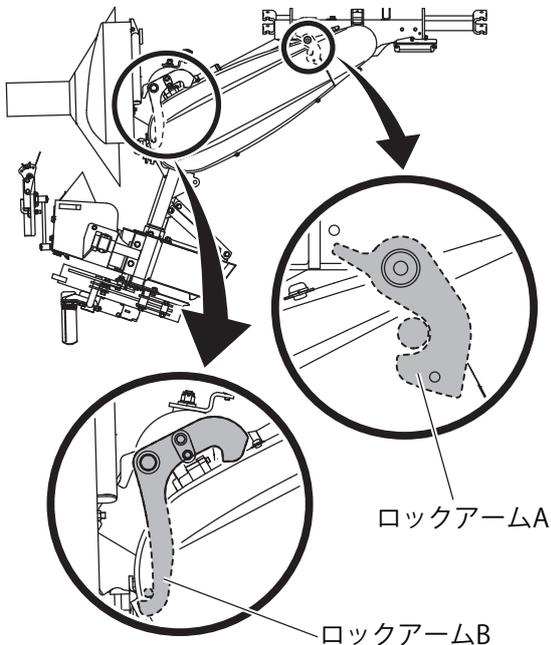
- 1 油圧を下げ、作業機の重心を低くします。  
(地面とドラムの高さを 20 cm 程度確保します)
- 2 コントローラの「後進」ボタンを、作業機が動かなくなるまで押し続けます。  
→ 作業機が平行移動→旋回して後進作業状態になります。



### お知らせ

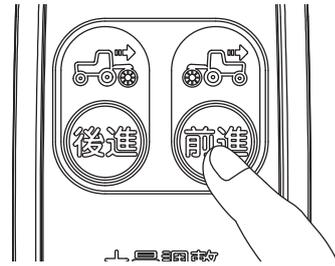
- ・ 後進作業でのオフセット調整はありません。

- 3 ロックアーム A およびロックアーム B の両方がロックされていることを確認します。



## ■ 後進作業状態→移動・格納状態

- 1 油圧を下げ、作業機の重心を低くします。  
(地面とドラムの高さを 20 cm 程度確保します)
- 2 コントローラの「前進」ボタンを押し、作業機を旋回させ、フロントフレームラベルの「前進格納」矢印と、チェンカバーラベルの「移動格納位置」矢印を合わせます。



トラクタ側から見た図

チェンカバーラベル



フロントフレームラベル

### お知らせ

- ・ 後進作業状態からコントローラの「前進」ボタンを押すと、シリンダが縮まるように動作し、フックを解除します。これはフックを外すための動作であり、誤動作ではありません。
  - ・ 「前進」ボタン操作時に、最大オフセットになりシリンダに負荷がかかった場合や、作業機最上げ状態などでシリンダに負荷がかかった場合に、シリンダが一瞬縮まるように動作することがありますが、誤動作ではありません。
- 引き続き前進操作を行う場合は、トラクタの油圧ポジションで作業機の重心を下げるなどして、シリンダの負荷を小さくしてから「前進」ボタンを押してください。

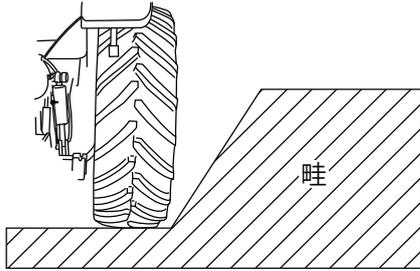
使  
い  
か  
た

畦  
塗  
り  
作  
業  
に  
つ  
い  
て

## 前進作業

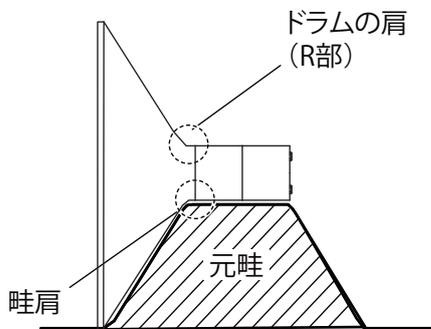
### 作業手順

- 1 トラクタの後輪タイヤを元畦に寄せて、トラクタと元畦が平行になるように、トラクタをセットします。



- 2 以下を参考にしながら、畦を成形したい位置に「前進」ボタンと「後進」ボタンで調整します。

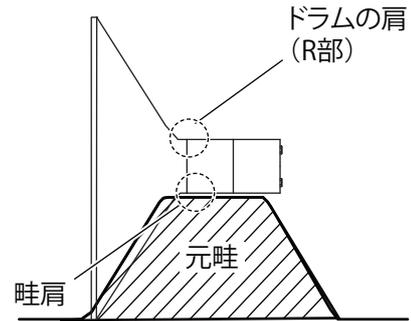
- (a) 畦と同じ位置に畦を作る場合  
ドラムの肩 (R部) 位置が畦肩よりやや右 (畦が細くなる方向) になるように調整します。



- (b) 元畦を細くする場合  
ドラムの肩 (R部) の位置が畦肩より右 (畦が細くなる方向) になるように調整します。

#### 取扱上の注意

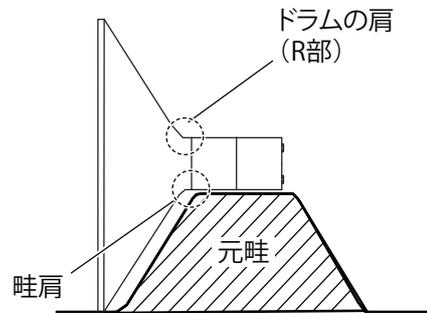
- ・あまり元畦を細くしすぎる (元畦を削りすぎる) と、作業機の振動が多くなり故障の原因になります。



- (c) 元畦を太くする場合  
ドラムの肩 (R部) の位置が畦肩より左に離れるように調整します。

#### お知らせ

- ・あまりドラムが元畦から離れすぎると土が不足し畦ができません。



- 3 作業機の水平を確認します。  
作業機が水平でない場合、トップリンク (ターンバックル) を伸縮させて調整を行います。  
水平になるまでこの作業を行います。
- 4 できた畦に穴凹 (巣) や未成形部分がないかどうか確認し、「各機能の調整」 (→ p.49) を参考にしながら、しっかりした畦を作ります。

## 後進作業

後進作業は前進作業の塗り終わりより約1m手前よりスタートすると、断継の少ないきれいなつなぎ目に仕上がります。

- 1 トラクタを元畦から少し離れた位置にセットします。

### 取扱上の注意

- ・ 前進作業時にできた溝にタイヤが落ちないようにしてください。

- 2 オフセットアームが地面に対して水平になるように、ポジションコントロールレバー（トラクタ側）で微調整します。（コルタ、ドラム、トップリンクでの調節は不要です。）

- 3 ドラムを元畦に押付けるようにハンドルを少し切りながら後進作業を行います。

⇒ より締まった畦に仕上がります。

### 取扱上の注意

- ・ 後進作業時は、角まで行きすぎないように注意して作業してください。作業機が破損する恐れがあります。

## 各機能の調整

### ⚠ 危険



必ず実行

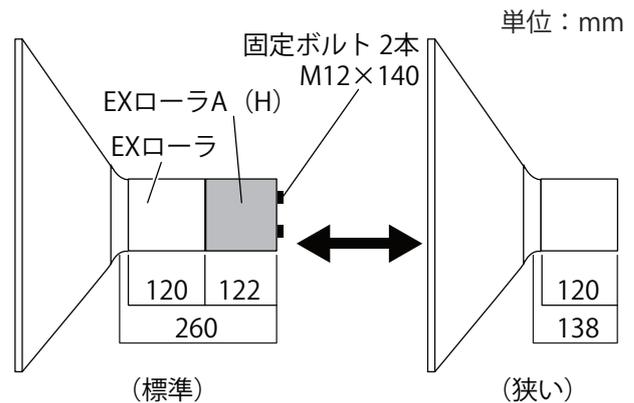
各部の調整を行う場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、PTO 軸への動力が絶たれていることを確認して行ってください。

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

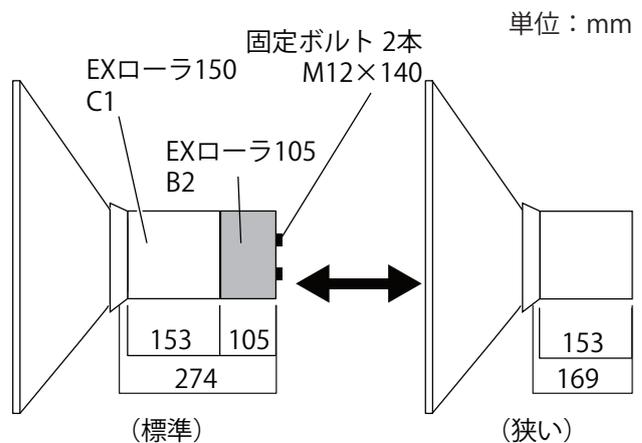
## EX ローラ

天場（上面）の塗り幅の調整を行います。高畦、天場を狭くしたい場合は、下図の固定ボルト2本を外し、外側のEX（標準）ローラA（H）を取外してください。取外したボルト、ローラは大切に保管してください。

（EX（標準）ローラ仕様）



（大径ローラ仕様）



### 取扱上の注意

- ・ EX ローラ、EX ローラ A（H）の両方を取外しての作業はしないでください。

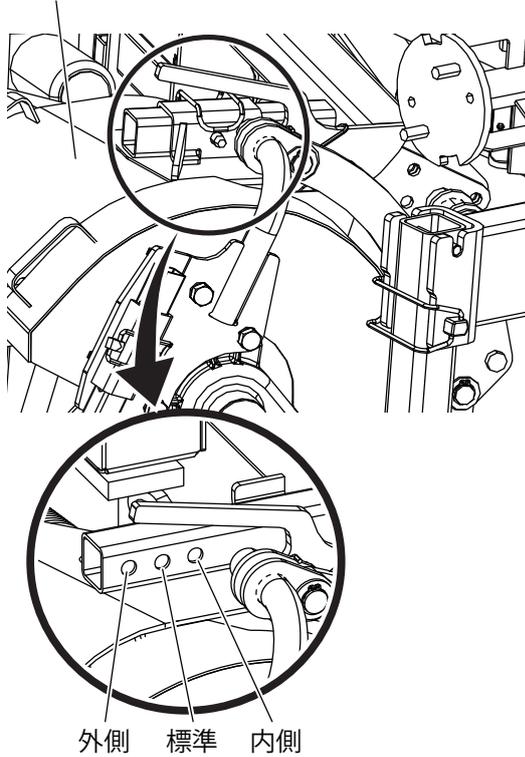
使いかた

畦塗り作業について

## スライドカバー

スライドカバーは、成形畦の法面、天場への土量の調整を行う装置です。

スライドカバー

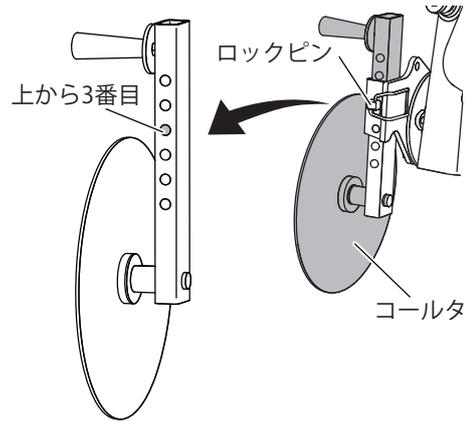


外側 標準 内側

状況	フレーム穴位置
法面への土量が少ない	内側へスライドさせます
法面への土量が多い	外側へスライドさせます
天場への土量を多くしたい	外側へスライドさせます
天場への土量を少なくしたい	内側へスライドさせます

## コールタ

コールタで「作業機の深さ調整」と「作業機の左右方向の水平調整」「作業機の直進性向上」を行います。基本は「標準位置（上から3つ目の中央の穴）」のままで作業します。



### ⚠ 注意



必ず実行

コールタを調整する場合は、作業機を持ち上げた状態でトラクタの油圧ロックを行ってください。

\* 作業機が落下する恐れがあります。

### 取扱上の注意

- コールタが効かない湿田では、ポジションレバーで深さ調整をします。
- コールタは作業機を持ち上げ、ロックピンを通す穴の位置を変えて調整してください。

状況	対策
作業機の水平が取れていない	作業機が水平になるようにコールタを調整します。
土量を増やす操作をしても土量が増えない	コールタを上にも動かします。
大径ローラを装着しても低畦（25 cm 以下）の天場成形ができない	コールタを最上げにします。
極端に直進性が悪い	コールタを下にも動かします。

## ドラム

ドラムへの供給する土量の調整を行う装置です。ドラム調整ハンドル右回りで「少なく」（ドラム下へ移動）、左回りで「多く」（ドラム上へ移動）なります。深さはラベル数字を目安にします。標準深さは「標準位置」にセットしてください。

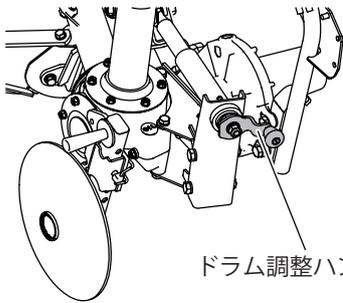
### ⚠ 注意



注意

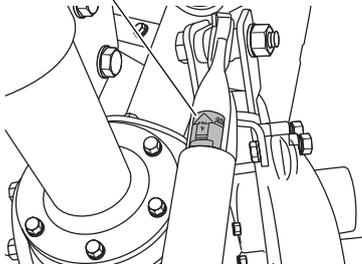
ドラム調整ハンドルを操作する場合は、手などが周辺の部品に接触しないように注意してください。

\* ケガをする恐れがあります。

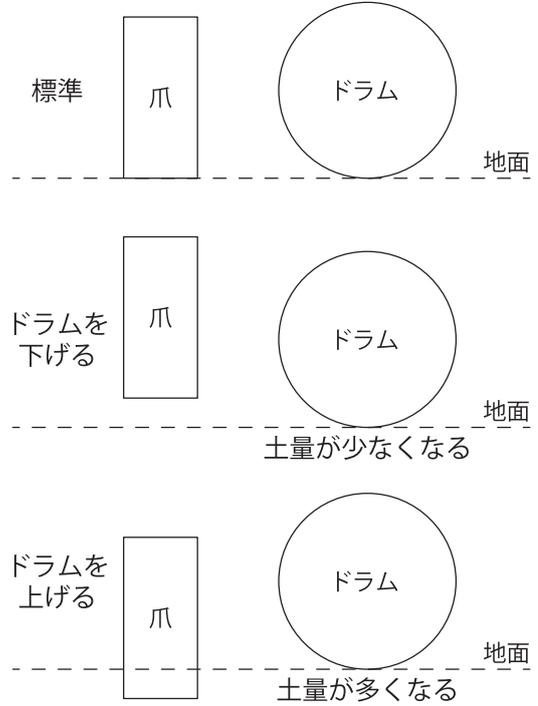


ドラム調整ハンドル

ラベル（標準位置）



### ドラム位置と爪位置の関係



使いかた

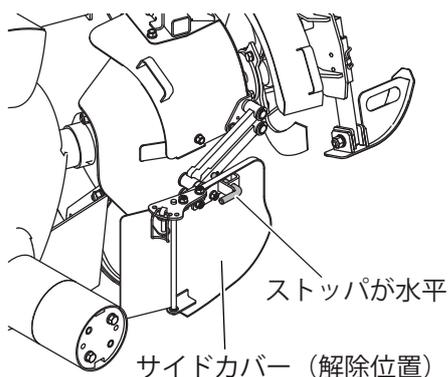
畦塗り作業について

## サイドカバー

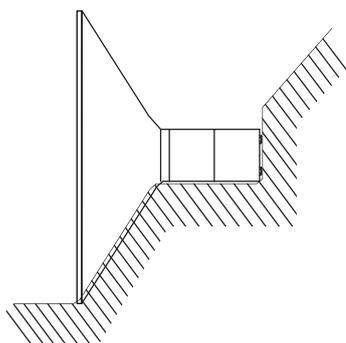
サイドカバーは天場や隣の圃場への土の飛散を防止する装置です。

通常作業時はストッパを解除状態にして、天場の上面を自由に追従するようにしておきます。

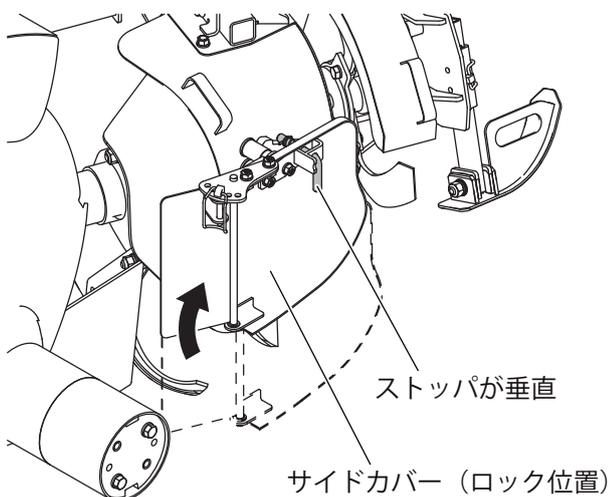
(ストッパ解除状態)



下図のような高畦作業をする場合は、「高畦作業のしかた」(→ p.54)を参照してください。



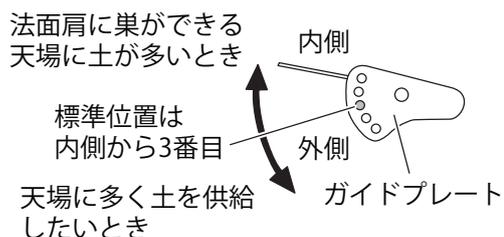
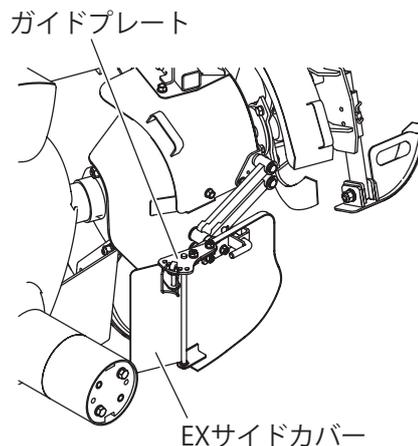
(ストッパロック状態)



## EX サイドカバー

EX サイドカバーは成形畦の法面、天場への土量の調整を行う装置です。

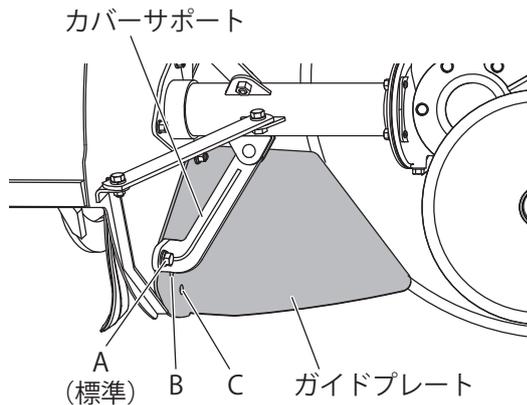
(標準位置は内側から3番目の穴位置です。)



状況	対策
法面の肩部分に巣ができる場合や天場に土が多い	図のように内側方向へ調整します。
天場に多くの土を供給したい	図のように外側方向へ調整します。

## ガイドプレート

ガイドプレートはドラム調整、スライドカバー調整で土量を調整しきれないときに調整を行います。ドラム、スライドカバーと併用して使用します。Aが標準位置になります。



状況	対策
天場への土量が多すぎる。(粘土で水分が多いときなど)	カバーサポートをとめているボルトを外し、B位置までガイドプレートをスライドさせ再度、ボルトを固定してください。Bの位置でも土量が多い場合は、同様の手順でC位置に固定してください。
圃場内の溝が気になる	固定位置がAまたはBのとき、以下のように固定位置を変更してください。 Aのとき：BもしくはC Bのとき：C

### お知らせ

- 火山灰土系や砂系、乾いている土質などの土流れが良い土質の場合、法面の成形ができなくなる可能性がありますので、調整できない場合もあります。
- 高畦などでドラムに供給される土の量が少なくなるときにB、Cに調整すると畦ができなくなる場合があります。

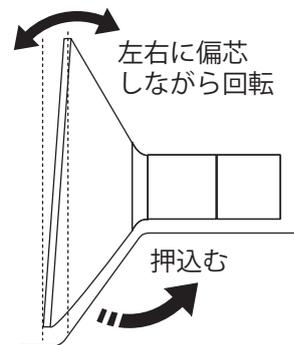
## ドラム偏芯量

ドラムは左右に偏芯しながら回転を行い、畦を成形していきます。成形畦の締まり具合を調節するときには偏芯量を調整します。

偏芯量はドラムボスとドラムの取付ける位置を変更することによって、偏芯量 5 mm、10 mm、20 mm にすることができます。

出荷時は 5 mm に設定してあります。

「ドラム偏芯量調整方法」(→ p.73)



使  
い  
か  
た

畦  
塗  
り  
作  
業  
に  
つ  
い  
て

## 上手な作業のしかた

### 注意事項

畦塗り作業は圃場の状態（水分、土質）に大きく左右されます。同じ圃場内でも変化します。以下の調整を目安に作業を行ってください。

### 作業速度（直進作業時）

作業速度は、0.2～1.0 km/h です。

状況	対策
水分が多い	車速を早くし、きれいな成形を優先します。（車速が遅いと、法面に凹凸ができます）
水分が少ない	車速を遅くし、締付けを優先します。

### 畦高さ

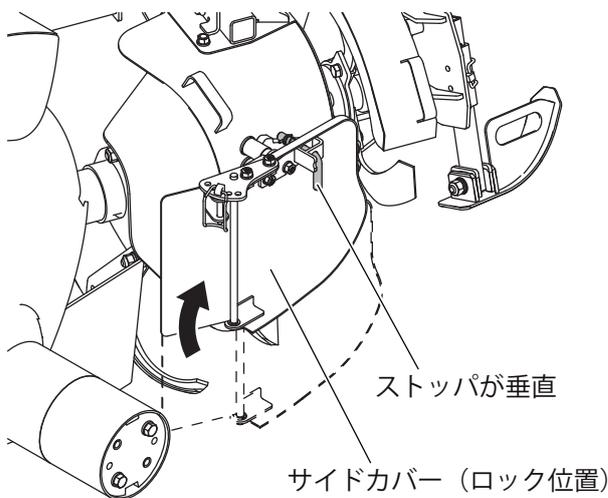
畦高さはドラムの種類および EX ローラの種類で決まります。目安は以下のとおりです。

ドラム	EX ローラ	畦高さ (目安)
750 ドラム	標準	20～30 cm
	大径ローラ (オプション)	15～25 cm
850 ドラム	標準	25～35 cm
	大径ローラ (オプション)	20～30 cm

## 高畦作業のしかた

畦高さが左表を越える場合や、法面作業を行う場合に、以下の調整を行ってください。

- 1 天場処理装置を格納します。  
（「天場処理装置の使いかた」（→ p.56）参照）
- 2 サイドカバーを上を持ち上げ、ロックします。



- 3 外側の EX ローラを 1 つ取外します。

#### 取扱上の注意

- ・必ず内側の EX ローラは、取付けた状態で作業を行ってください。作業機が破損します。

## 各部の調整（こんなときは？）

条件による各部の調整の目安は以下のとおりです。  
あくまでも目安ですので、条件にあった調整を行ってください。

### 取扱上の注意

- ・ 下記調整前に、作業機姿勢が前後水平（→ p.24）、チェックチェンの調整（→ p.25）ができているか確認してください。

状態	調整方法
元畦が低い	(1) コールタ：上げる（爪が深くなるよう調整） 上記調整で天場に土が多すぎる（EX ローラより土がこぼれる）場合は、 (2) ドラム：下げる <b>お知らせ</b> ・ 調整しても畦がうまく成形できない場合は、低畦用ローラ（オプション）を使用してください。
天場の土が不足する	(1) トラクタ車速：下げる（車速が速い場合） (2) ドラム：上げる（爪が深くなるよう調整） コールタ：上げる (3) EX サイドカバー：外側に開く (4) スライドカバー：外側に調整
畦のり面に土が不足する 畦肩が塗れない	(1) トラクタ車速：下げる（車速が速い場合） (2) ドラム：上げる（爪が深くなるよう調整） コールタ：上げる (3) EX サイドカバー：内側に閉める (4) スライドカバー：標準より内側に調整
天場の締まりが悪い	(1) トラクタ車速：下げる（車速が速い場合） (2) コールタ：上げる（爪が深くなるよう調整） (3) ドラム：少し下げる (4) トラクタ水平制御：畦側に傾ける <b>お知らせ</b> ・ ドラムを下げすぎると土が足りなくなります。 低畦の場合で調整してもうまく成形できないときは、樹脂ローラ（オプション）を使用してください。
シールドカバー前に土が溜まる	(1) ドラム：下げる（爪が浅くなるよう調整） コールタ：下げる (2) トラクタ車速：上げる（車速が遅い場合） (3) ポジションレバー：少し上げる
畦がまっすぐ行かない （ハンドルが取られる）	(1) コールタ：下げる (2) ドラム：上げる（爪が深くなるよう調整）
畦のり面に蹴り出しが出る	圃場条件（土質や水分状態など）により、新品ドラムで初期作業を行うと蹴り出しが発生する場合があります。土質により距離は異なりますが、作業を行うと蹴り出しは徐々に消えていきます。ただし、粘土質の圃場では常に蹴り出しが発生し畦ができません。その場合、散水装置（オプション）を使用して畦塗り作業を行ってください。

使いかた

畦塗り作業について

# 天場処理装置の使いかた

「天場の高さ調整」「簡単な草刈り」に使用します。天場を削ることにより頑丈な天場を成形することができます。

## 注意事項

### ⚠ 注意

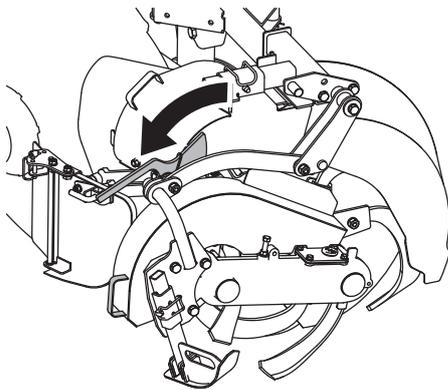
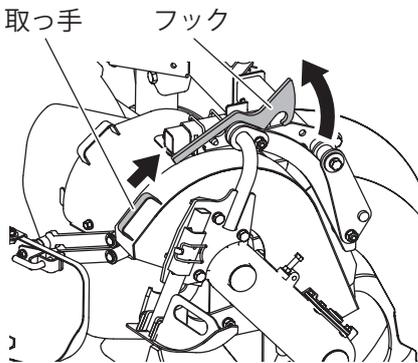


調節の際はエンジンを止め、爪が回転していない状態で行ってください。

必ず実行 \* ケガにつながる恐れがあります。

## 操作手順

- 1 取っ手を持ち上げ、フックを解除しゆっくり降ろします。



## 耕深の調整方法

天場処理の耕深は、コーシンゲージの高さを調整することで変更できます。

### ⚠ 注意



調節の際はエンジンを止め、爪が回転していない状態で行ってください。

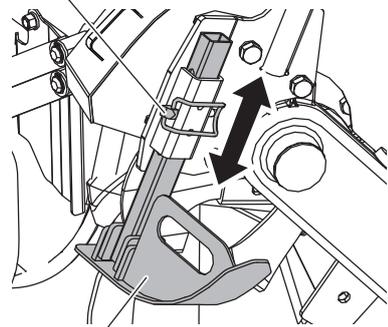
必ず実行 \* ケガにつながる恐れがあります。

- 1 ロックピンを取外し、コーシンゲージの高さを調整します。

### 取扱上の注意

- 上面の削り量が7 cm 以上にならないように調節してください。7 cm 以上になると、爪取付け部で耕うんしてしまうため、作業機の破損の原因となります。

ロックピン



コーシンゲージ

### お知らせ

- 標準位置は真ん中（上から4番目）の穴で固定しているときです。
- 標準位置から上下に15 mm × 3段階ずつの計7段階調整となっています。
- 削り量を増やしたい場合は、コーシンゲージを上方向に調整します。削り量を減らしたい場合は、下方向に調整します。
- 耕深は3 ~ 5 cmの間になるように調整してください。
- 耕深はコーシンゲージが同じ位置でも、畦の高さにより変化します。目安として各畦高さでの耕深を示します。

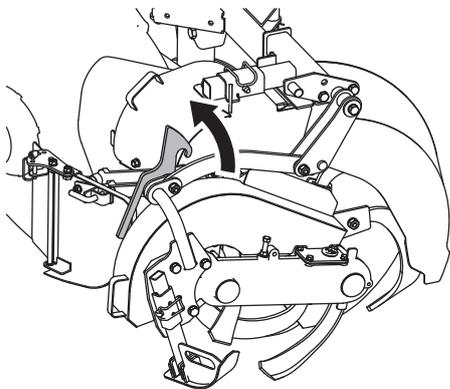
（コーシンゲージが標準位置にある場合）

畦高さ (cm)	耕深 (cm)
20	2.5
25	4
30	6
35	(8) (注)

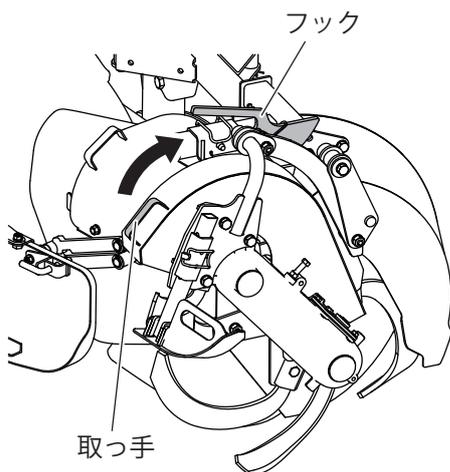
(注) 上面の削り量が7 cm 以上にならないように、コーシンゲージを標準位置より1段階以上、下方向に調整してください。

## 格納方法

### 1 フックを解除します。



### 2 フックを解除したまま取っ手を持ち、矢印の方に持ち上げ、フックでロックします。



### ⚠ 注意

- !** 格納後はフックが確実にかかっていることを確認してください。
- 必ず実行 \* フックがピンに中途半端にかかっていると、不意に天場処理部が落下し、ケガや作業機の破損につながる恐れがあります。

### 取扱上の注意

- 上面の削り量が7 cm 以上にならないように調節してください。7 cm 以上になると、爪取付け部で耕うんしてしまうため、作業機の破損の原因となります。
- 畦に障害物がある場合は、格納するか作業機を持ち上げ、コーシングゲージが接触しないようにしてください。破損する恐れがあります。
- シャーボルトが切れたときは、ただちにトラクタとエンジンを止め、速やかに交換してください。そのままの状態で使用すると、作業機の破損の原因となります。
- 極端に草が多いときには、事前に草刈りをしてください。草が巻付いて作業機の破損の原因となります。
- 畦に石などがある場合は取除いてください。シャーボルトが切れる原因となります。

### お知らせ

- 高い畦や作業姿勢によっては天場処理部が格納状態になる場合があります。また、作業時に石などがあると天場処理部が跳ね上がり、格納状態になる場合があります。
- 格納時に激しい振動が加わると作業状態になる場合があります。
- 使用しない場合は格納状態にしてください。
- 移動する場合は、天場処理部を格納し、確実に固定されていることを確認してください。移動中に落下する恐れがあります。
- コーシングゲージが高畦などに接触する場合は取外してください。
- 一度塗った畦を二度塗りする場合など、畦肩がしっかりした畦を塗る場合はコーシングゲージにて上面の削り量を少なめに調整してください。チェンケースと畦肩が干渉する場合があります。

# 保守・点検

作業機本来の性能を、十分にまた長期間にわたって発揮させるためには、定期的な保守・点検が必要です。また、故障を未然に防ぐため、作業機の状態を常に知っておくことも大切です。

## 注意事項

### ⚠ 危険



必ず実行

作業機をトラクタに装着して点検を行う場合は、トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

作業機を地面に降ろしてから行ってください。

作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して油圧ロックを行い、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

\* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

### ⚠ 注意



必ず実行

平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。

\* ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

作業機単体で点検を行う場合は、スタンドのロックを行ってください。

\* ケガにつながる恐れがあります。

## 保守・点検の準備

### トラクタに装着しての場合

- 1 トラクタを平坦な広い場所に置きます。
- 2 エンジンを止め、駐車ブレーキをかけます。
- 3 作業機を地面に下ろしてから行います。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧ロックを行ってください。
- 4 台などを耕うん軸の下に置き、作業機が落下しないようにします。

### 作業機単体での場合

- 1 作業機を平坦な広い場所に置きます。
- 2 スタンドのロックを行います。

# 保守・点検一覧表

No.	作業項目	周期							参照ページ	
		新品の場合		作業前	作業後	シーズン初め	150時間ごとまたはシーズン終了後	随時		1年または300時間(いずれか早い方)
		使い始め	50時間使用後							
1	オイル量・オイル漏れの点検 (フロントギヤケース、リヤギヤケース)		○					○		p.60
	オイルの交換 (フロントギヤケース、リヤギヤケース)		○					○		p.60
2	グリスアップ・塗布									
	① ジョイント			○						p.61
	② トラクタ側 PTO 軸 / 作業機側入力軸				○					p.61
	③ オートヒッチアーム			○						p.61
	④ 各チェン、各支点部のオイル注油 (滴下)				○					p.62
	⑤ チェン部				○					p.62
	⑥ オフセット・旋回作動部				○					p.62
	⑦ 調整部				○					p.65
3	オイルシールの組替え							○		p.66
4	チェンの張り調整 (テンシヨナボルトの調整)	○	○			○				p.66
5	各部のボルト、ナットの点検			○	○					p.67
6	ジョイントのノックピンの点検			○	○					p.67
7	空転、暖気運転による動作確認			○						p.67
8	作業機の水洗い				○					p.68
9	耕うん爪、爪ホルダの点検				○					p.68
10	警告表示ラベルの点検						○			p.68
11	消耗部品の早期交換						○			p.68
12	シャーボルト							○		p.69
13	耕うん爪							○		p.70
14	ドラム							○		p.72
15	スローブローヒューズ							○		p.75

使いかた

保守・点検

## 作業内容

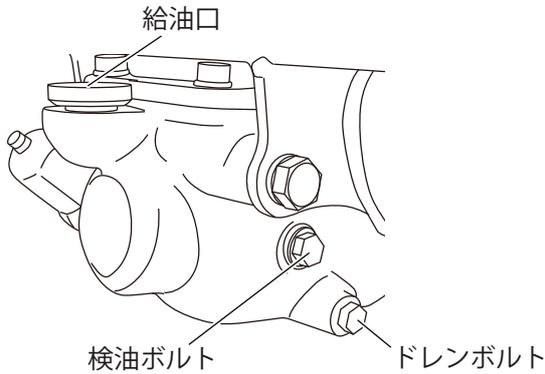
### オイル量点検

#### ■ フロントギヤーケース ／リヤギヤーケース

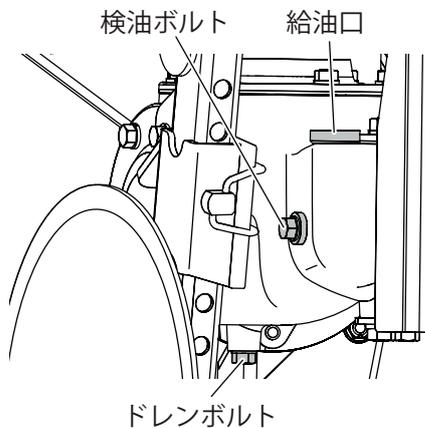
##### 取扱上の注意

- ・ 油量を点検するときは、作業機を水平にした状態で確認してください。作業機が傾いていると正確に点検できません。

- 1 フロントギヤーケース／リヤギヤーケースの各検油ボルトを緩めます。
- 2 緩めた検油ボルトからオイルが漏れない場合は補給します。  
(ギヤーオイル# 90)  
(フロントギヤーケース)



(リヤギヤーケース)



- 3 周囲からオイル漏れがないか確認します。  
(オイルシール、パッキンなど)

### オイルの点検・交換

#### ■ フロントギヤーケース ／リヤギヤーケース

使用オイル	ギヤーオイル# 90	
オイル量	フロント	目安 0.3 L
	リヤ	目安 0.9 L
点検・交換時期	初回 50 時間 以降 150 時間、シーズン終了後	

##### 取扱上の注意

- ・ 点検・交換作業は、平坦な広い場所で行ってください。
- ・ トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- ・ 落下防止調整レバーを回して、油圧をロックしてから行ってください。

##### お知らせ

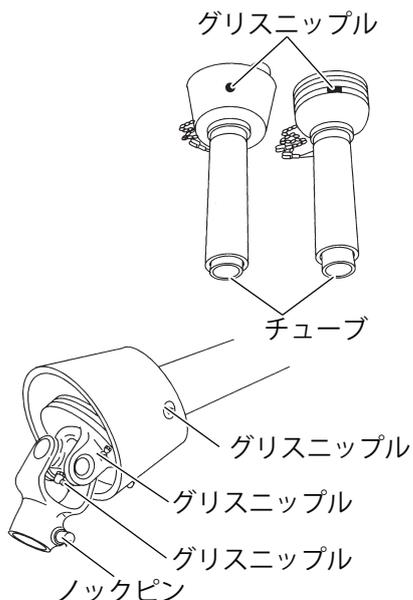
- ・ 給油量の確認は、作業機を水平にした状態で行ってください。

- 1 ドレンボルトを外して古くなったオイルを抜きます。
- 2 古くなったオイルを抜いたら、ドレンボルトを取付けます。
  - ・ シールワッシャが損傷している場合などは新品に交換してください。損傷しているとオイル漏れの原因になります。
- 3 検油ボルトを外し、検油ボルト穴より油が出てくるまで、給油口からオイルを入れます。出てきたら給油をやめ、検油ボルトを取付け、給油口にキャップを付けます。

## 各部へのグリス補給と注油

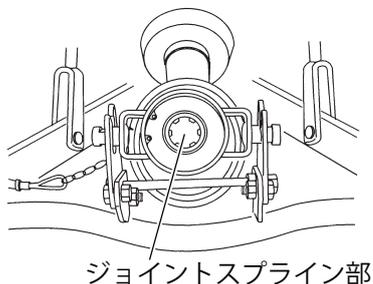
### ■ ジョイント

- 1 ジョイントは分解して、チューブの噛み合い部分およびノックピン部にグリスを塗布します。また、同時にグリスニップルの部分にも適量注油します。



#### 取扱上の注意

- ・ ジョイントスプライン部がサビたり、キズ付いたりすると、装着ができなくなります。必ず掃除を行いグリスを塗布しゴミがかからないようにしてください。



### ■ ジョイント (特殊 3P)

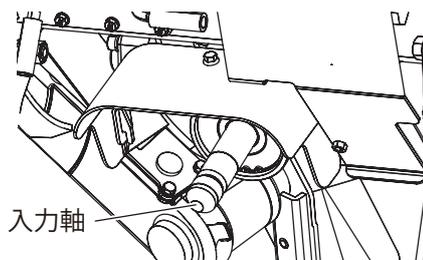
次の4か所にグリスアップまたは注油を行ってください。

- ・ ジョイントのスプライン部
- ・ 各部グリスニップル
- ・ ノックピン
- ・ 摺動部

詳しくは純正ロータリの『取扱説明書』をご覧ください。

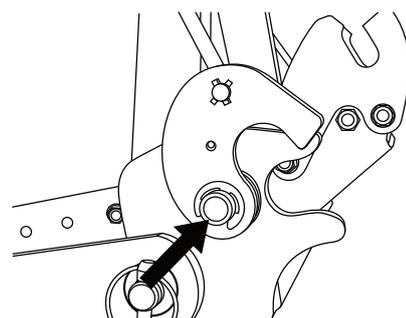
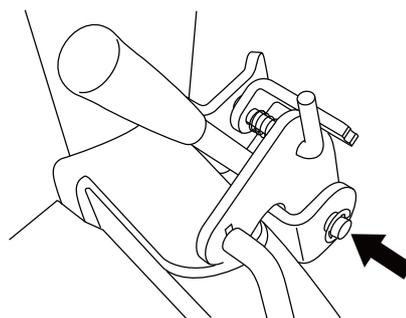
### ■ トラクタ側 PTO 軸 / 作業機側入力軸

トラクタの PTO 軸と作業機の入力軸へグリスを塗布します。



### ■ オートヒッチアーム (JIS 標準オート S ヒッチ)

オートヒッチの各支点部分にオイルを適量塗布してください。



使いかた

保守・点検

## ■ オートヒッチアーム (特殊 3P)

フックの支点部や各回転部に注油を行います。詳しくは純正ロータリの『取扱説明書』をご覧ください。

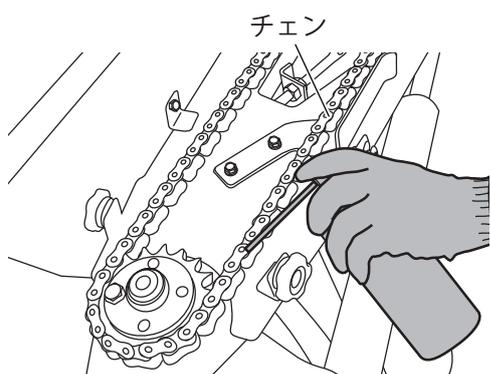
## ■ 各チェン、支点部のオイル注油 (滴下)

各部への注油 (滴下) を怠るとスムーズな動作ができなくなります。

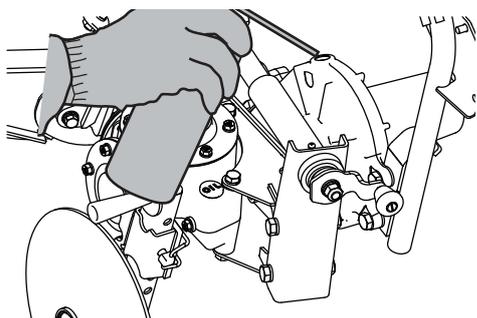
### (a) チェン部

チェンケースはいずれもオイルバス構造でなく、密閉されていないので、オイルを入れすぎると漏れます。チェンには適量のオイルを注油してください。

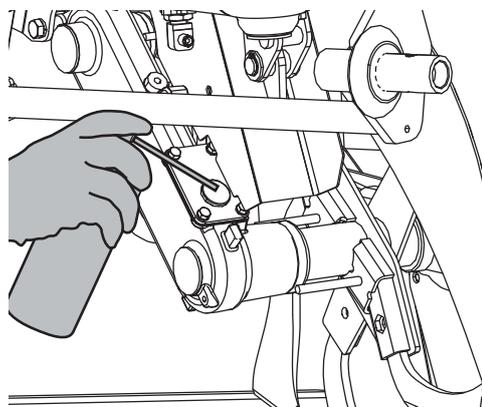
#### ・ チェン (メイン) への注油



#### ・ チェン (ドラム) への注油



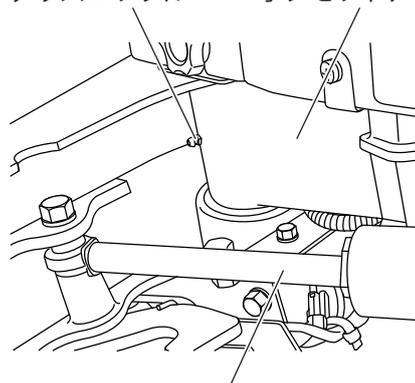
#### ・ チェン (天場) への注油



### (b) オフセット・旋回作動部

#### ・ オフセットアーム前側グリスニップル

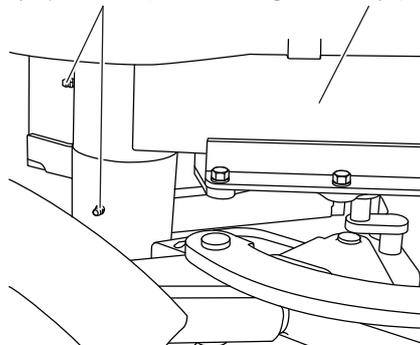
グリスニップル      オフセットアーム



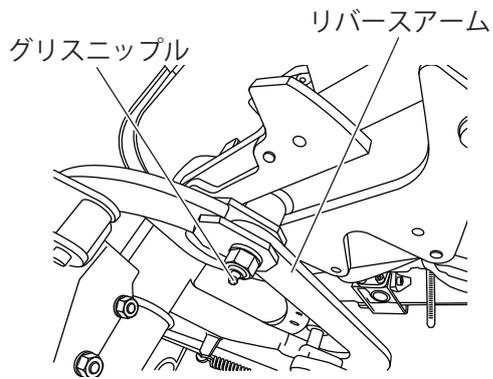
オフセットシリンダ

#### ・ オフセットアーム後側、リヤフレームグリスニップル

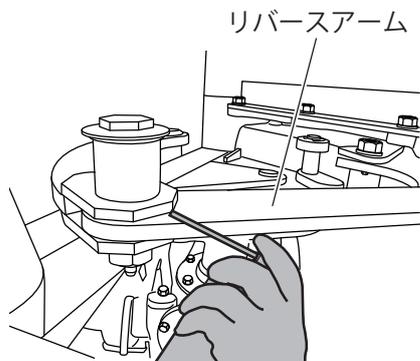
グリスニップル      オフセットアーム



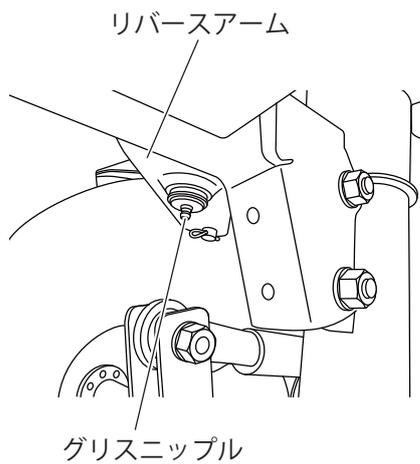
- ・ シテンボルトのグリスニップル



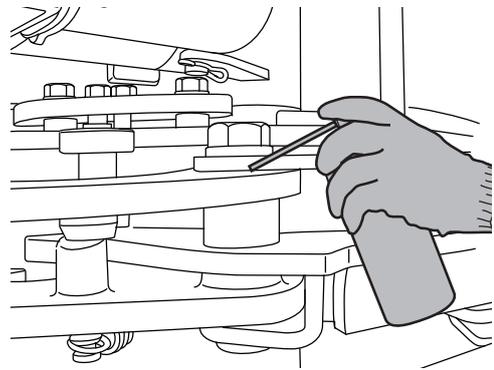
- ・ シテンボルトの支点



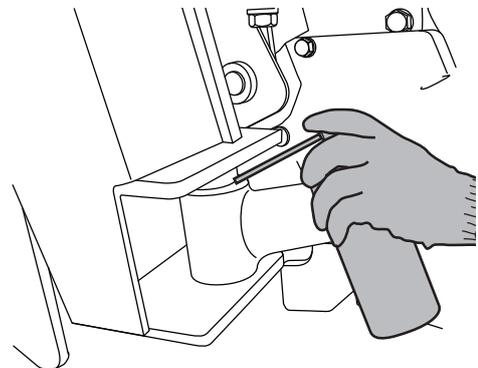
- ・ リバースアームのグリスニップル



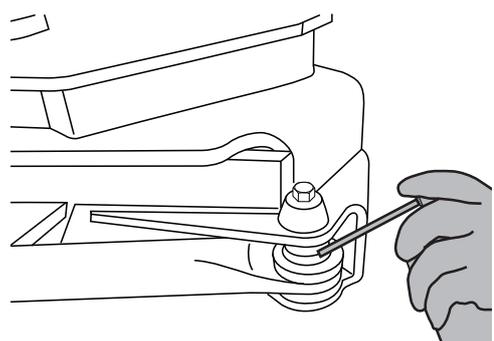
- ・ リバースアームの摺動面および支点



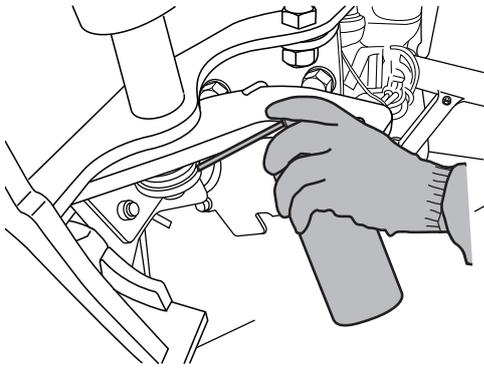
- ・ オフセットリンク (前側)



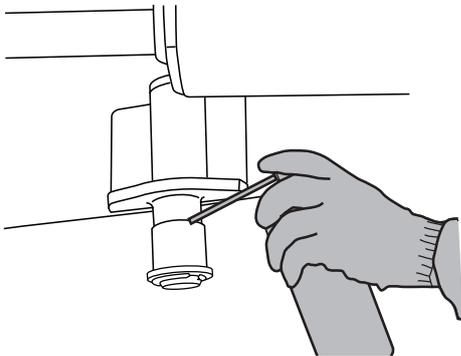
- ・ オフセットリンク (後側)



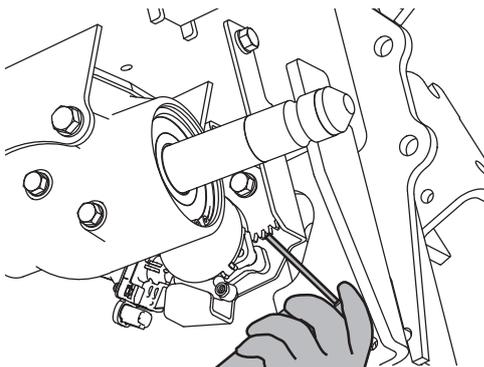
- ロックアーム A の支点部および摺動面



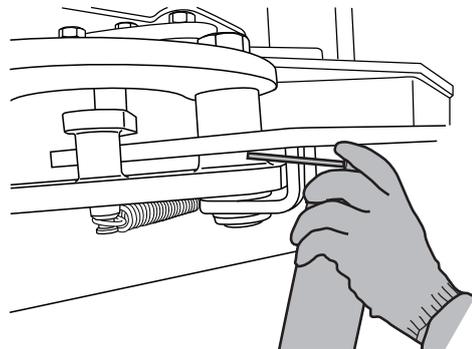
- ロックアーム A のピン側支点部



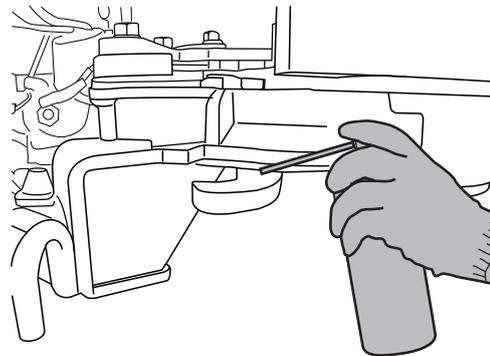
- モータギヤーアーム部



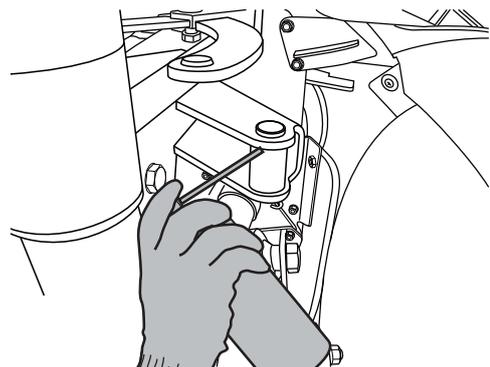
- ロックアーム COMP.B の支点部



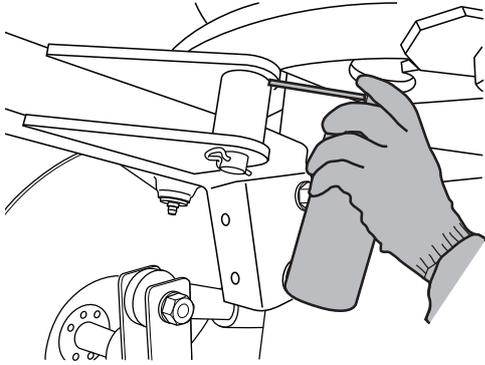
- ロックアーム COMP.B の摺動面



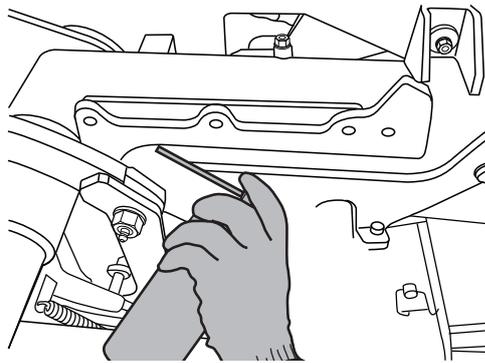
- ロックアーム COMP.B ピン側支点部  
(後進側)



- ロックアーム COMP.B ピン側支点部 (前進側)

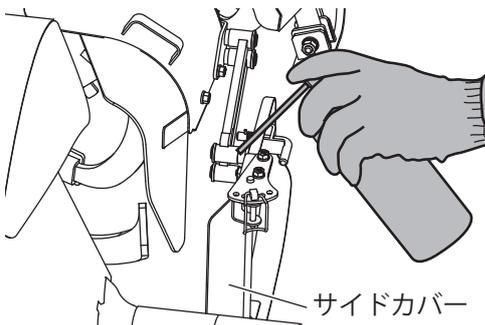


- ガイドレール

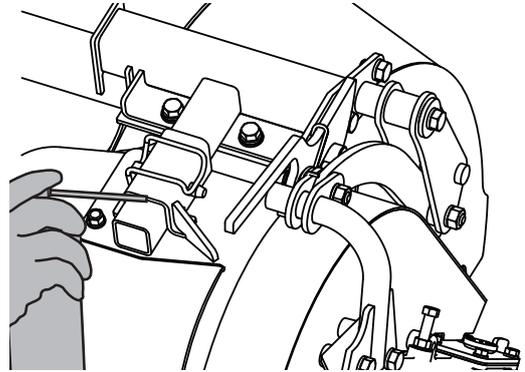


(c) 調整部

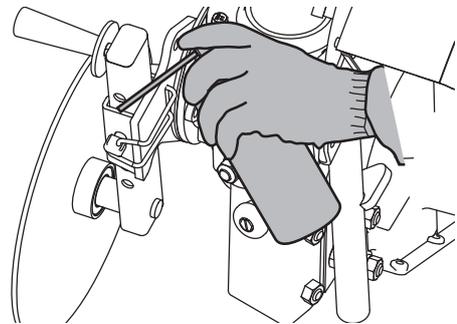
- スイングアーム支点 (4か所)



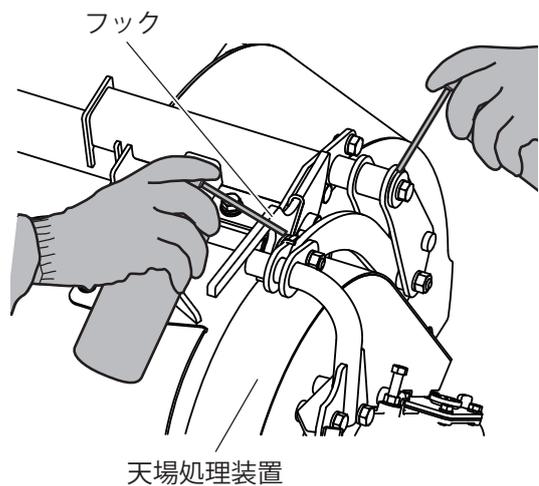
- スライドカバー (スライド部)



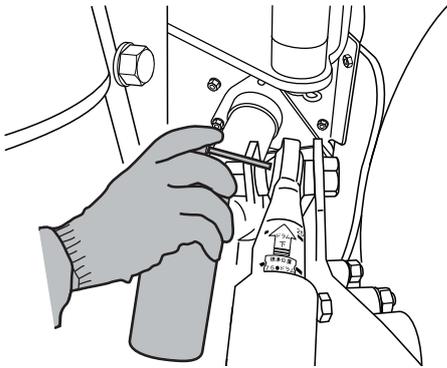
- コールタ (スライドロッド部)



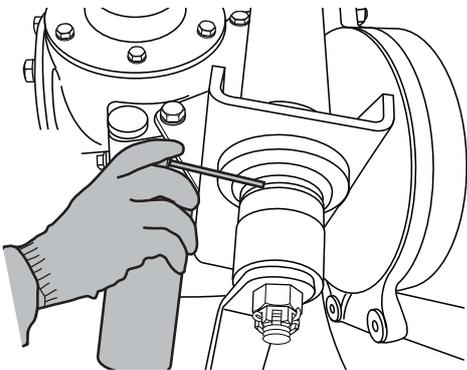
- 天場処理調整部 (F仕様のみ)



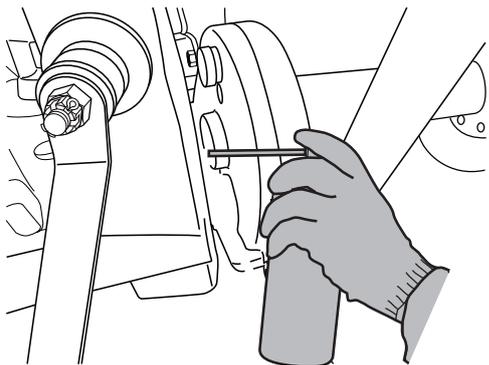
- ・ チョウセイパイプ支点部



- ・ ガイドシテンザ支点部



- ・ ドラム調整部 (内外両面)



## オイルシールの組替え

整備などの目的でチェンケースなどを分解する場合は、必ず新しいオイルシール、パッキン、液状ガスケットと交換してください。  
オイル漏れの原因になります。

## チェンの張り調整 (テンシヨナボルトの調整)

### ⚠ 警告

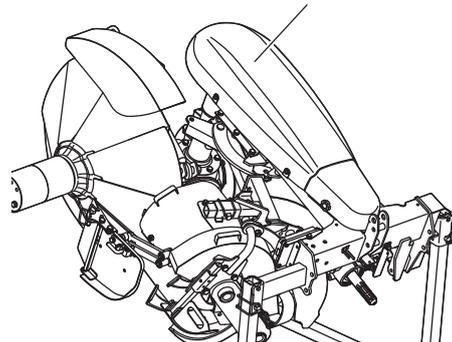


調整後は、必ずオフセットチェンカバーを装着してください。

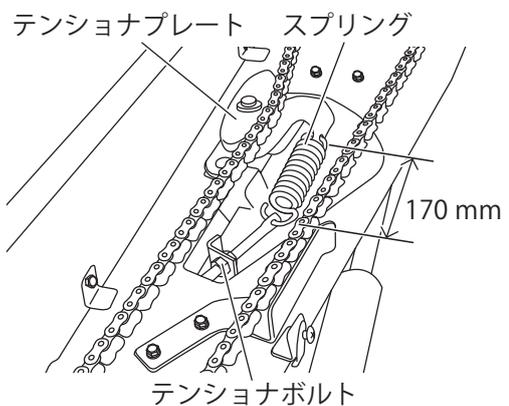
必ず実行 \* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

- 1 オフセットチェンカバーを外します。

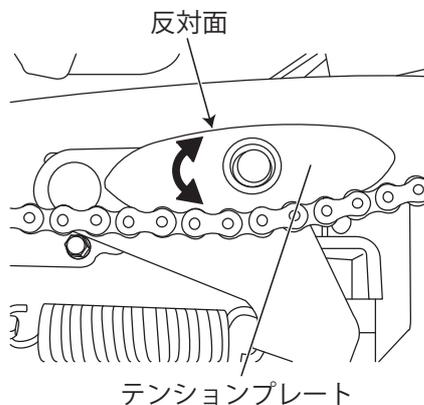
オフセットチェンカバー



- 2 チェンの張りをテンシヨナボルトでスプリング長さ (フック内-内) を 170 mm に調整します。



- 3 テンショナプレートが摩耗した場合は、テンショナプレートを180°回転させ、反対面を使用します。



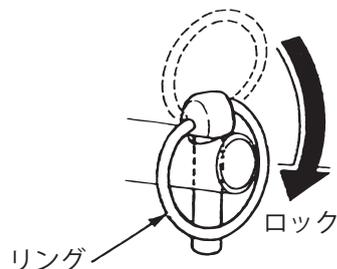
- 4 オフセットチェンカバーを取付けます。

## 作業前点検

### 各部のボルト・ナットの点検

以下のことを確認してください。

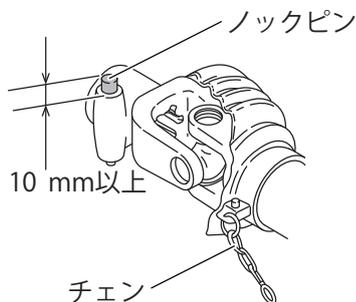
- 各部のボルト・ナット類に緩みはないか。増し締めしながら点検してください。(特に、耕うん爪取付けボルトは緩みやすいため、点検が必要です。新品の場合は使用1時間で点検を行うこと。)
- ピン類が全てそろっているか。
- リンチピンのリングが確実にロックされているか。



### ジョイントのノックピンの点検

トラクタ側と作業機側のノックピンについて、以下のことを確認してください。

- ノックピンが正確に軸溝にはまっているか。
- ピンの頭が **10 mm 以上** 出ているか。



### 空転、暖気運転による動作確認

空転させ、各部から異音、異常振動など異常が発生していないことを確認してください。また、暖気運転を5～10分行ってください。

## 作業後の手入れ

### 作業機の水洗い

作業後には、作業機を水洗いし、ゴミや汚れを取除きます。水洗いが終了後、水分を拭き取ってください。高圧洗車機を使って水洗いする場合は、十分注意してください。

高圧洗車機の使用方法を誤ると、人をケガさせたり、作業機を破損・損傷・故障させたりすることがあります。高圧洗車機の『取扱説明書・ラベル』に従って、正しく使用してください。

#### ⚠ 注意



必ず実行

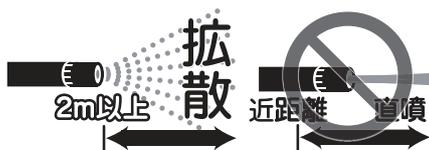
高圧洗車機で水洗いする場合

作業機を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2m以上離して洗車してください。

\* 直射や不適切に近距離から洗車すると作業機の破損・損傷・故障や事故つながる恐れがあります。

例)

- 電気配線被覆の損傷・断線によるショート・火災の発生
- シール・ラベルの剥がれ
- 電子部品などへの水侵入による故障
- 樹脂類（カバーなど）の破損
- 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



### 耕うん爪、爪ホルダの点検

「耕うん爪」(→ p.70) に従って、以下のことを確認してください。

- 耕うん爪が摩耗していないか。
- 爪ホルダが摩耗、折損していないか。

異常が見つかった場合、新しいものと交換してください。

### 警告表示ラベルの点検

「警告表示ラベルの種類と位置」(→ p.12) に従って、警告表示ラベルを点検してください。

- 警告表示ラベルが損傷したり破損していないか。
- 警告表示ラベルが汚れていないか。
- 警告表示ラベルが剥がれていないか。

異常が見つかった場合、新しいものと交換してください。

### 消耗品の早期交換

「消耗品一覧表」(→ p.76) に記載の消耗品を点検してください。

必要に応じて、新しいものと交換してください。早期の交換をお勧めします。

## 部品交換方法

### シャーボルト

作業機に大きな衝撃がかかるとシャーボルトが切れ、作業機を保護します。

- シャーボルトが切れたときは、ただちにトラクタを止めエンジンを止め、ボルトの交換をしてください。
- シャーボルトはコバシ純正ボルト以外使用しないでください。指定外のボルトを使用すると、シャーボルトが早く切れたり、作業機が破損したりします。
- シャーボルトが切れた場所にある石や障害物を取除くか避けて作業を再開してください。

### 種類と本数

作業機に使用するシャーボルトの種類と本数は下記のとおりです。

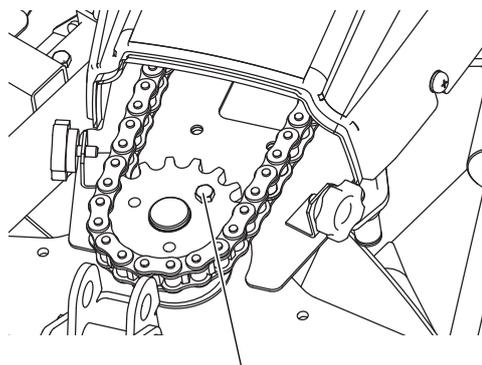
場所	規格		コード	使用本数
オフセット	シャーボルト	M8 × 30 P1.25 (対辺 13) 半ネジ 12.9T	7662957 (10セット入)	1
	ナイロンナット	M8 P1.25		
天場爪軸	シャーボルト	M8 × 25 P1.25 全ネジ 7T	7663109 (10セット入)	1
	ナイロンナット	M8 P1.25		

付属部品として以下のものが各 10 個入っています。

- メインのシャーボルト
- ナイロンナット
- 天場のシャーボルト
- ナイロンナット

### 交換方法 (オフセット (メイン))

- 1 トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンが切れ、PTO が切れていることを確認します。
- 2 オフセットチェンカバーを外し (ノブボルト 2 か所)、折れているシャーボルト、ナットを取除きます。



シャーボルト

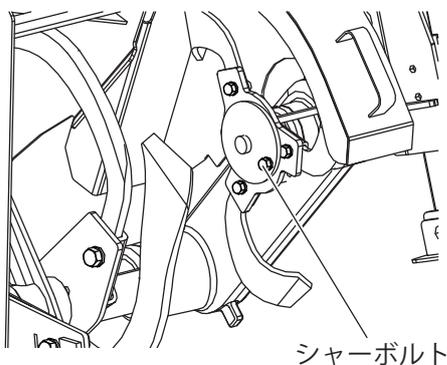
- 3 前方部分に位置するフランジとスプロケットの間にフランジの穴からオイルを十分注油します。
- 4 フランジの穴とスプロケットの穴を合わせ、下方にナット、上からボルトを入れ、ボルトを締めます。(ナットは回転しないようになっていますので、ナット側は工具不要です。)
- 5 オフセットチェンカバーを取付けます。

使  
い  
か  
た

保  
守  
・  
点  
検

## ■ 交換方法（天場処理装置）

- 1 トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンが切れ、PTO が切れていることを確認します。
- 2 スライドカバーを取外します。
- 3 フランジの穴と爪軸の穴を合わせます。
- 4 爪軸裏側の花形プレート部にナットを入れ、表のフランジ側からボルトを締付けます。（ナットは花形プレートにより回らないようになっています。）



- 5 スライドカバーを取付けます。

## ■ 耕うん爪

爪が摩耗してくると、土が上がらなくなり畦の仕上がりが悪くなったり、爪軸前に土が溜まってトラクタが前に進みにくくなります。早めのコバシ純正爪への交換をお勧めします。

## ■ 種類と本数

作業機に使用する爪、ボルトの種類と本数は下記のとおりです。

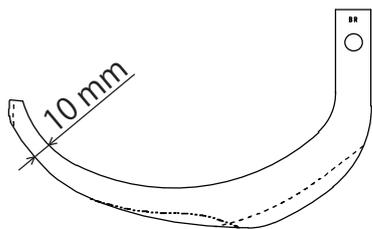
場所	規格	コード	使用本数
前処理部	ナタツメ R BR3060ZR (黒色)	67811	4
	ボルト M12 × 30 P1.5 8T	0050059	4
	ナット M12 P1.5 6T	9140080	4
	ワッシャ M12	9210012	6
	ナタツメ L BL3060ZL (赤色)	68232	2
	スクレーパ —	7560655	2
	ボルト M12 × 40 P1.5 8T	7560659	2
	U ナット M12 P1.5 6T	9290050	2
天場処理部	ツメ M24L	60412	3
	ボルト M10 × 25 P1.5 8T	9011157	3
	ナット M10 P1.5	9140511	3
	ワッシャ M10	9210010	3

## ■ 爪の交換時期（前処理部）

### ・ ナタツメの交換目安

ナタツメ L/R は爪幅が 10 mm 程度になったら交換を行ってください。

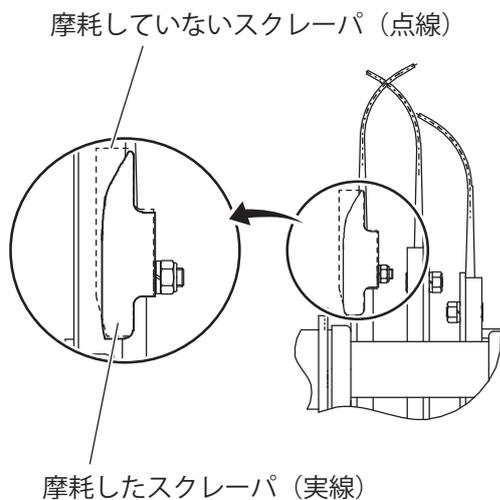
使用限界を超えた爪を使用しますと土量不足や碎土性など仕上がりに影響をおよぼす恐れがあります。



### ・ スクレーパの交換目安

スクレーパは図のように摩耗したら交換を行ってください。

使用限度を超えた状態で使用すると、爪軸の摩耗につながる恐れがあります。

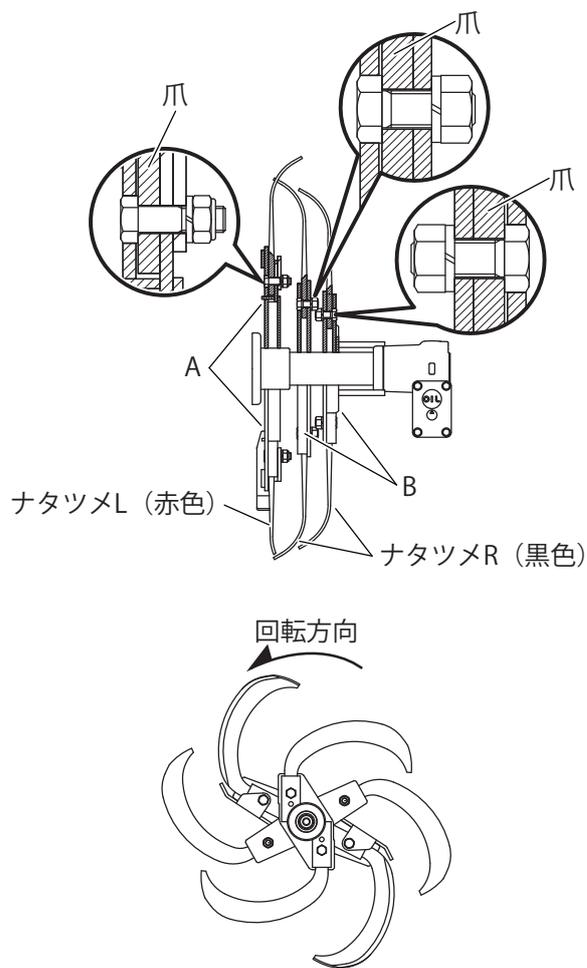


## ■ 爪の交換方法（前処理部）

一度に全て外して交換するのではなく、1本ずつ外して交換していくと、爪の種類、配列の間違いを防ぐことができます。

### 取扱上の注意

- 爪は、爪軸の回転方向を確認して正しい方向に取付けてください。取付け方向を誤ると、爪や作業機が破損する恐れがあります。



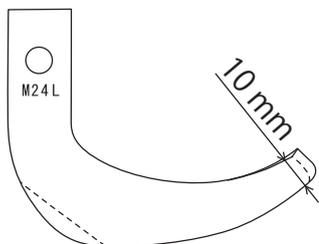
- 1 A のホルダにナタツメ L（赤色）を差込み、ボルトを六角穴に入れ、丸穴側にスクレーパを取付け、U ナットとワッシャで締付けます。（締付けトルク 160 N・m）
- 2 B のホルダにナタツメ R（黒色）を差込み、ボルトを六角穴に入れ、ナット、ワッシャで締付けます。（締付けトルク 94 N・m）
- 3 全て交換し終わったら増し締めを行います。

使いかた

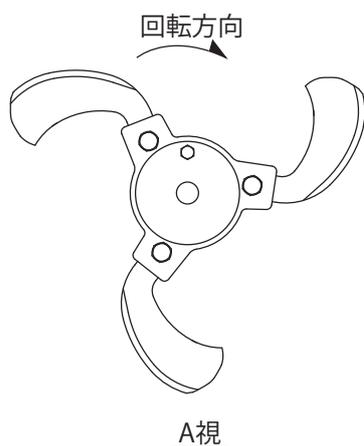
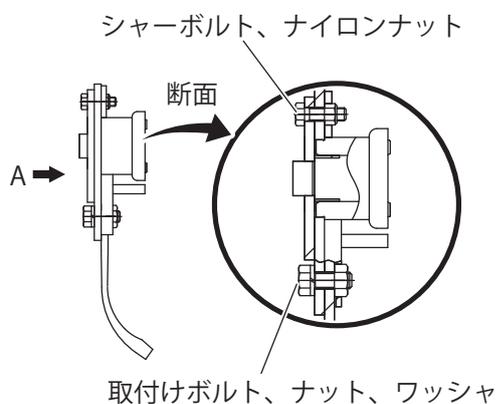
保守・点検

## ■ 爪の交換時期（天場処理装置）

- ツメ（M24L）の交換目安  
ツメ（M24L）は爪幅が 10 mm 程度になったら交換を行ってください。



## ■ 爪の交換方法（天場処理部）



- ホルダにツメ（M24R）を差込み、ナットを六角穴に入れ、ボルト、ワッシャで締付けます。（締付けトルク 50 N・m）
- 全て交換し終わったら増し締めを行います。

## ドラム

### ■ ドラム交換方法

#### ⚠ 注意



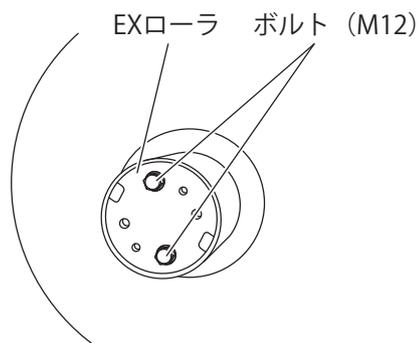
丈夫な手袋をし、身体に接触しないようにしてください。

必ず実行 \* 使用したドラムは外周が鋭利になっており、直接触れるとケガにつながる恐れがあります。

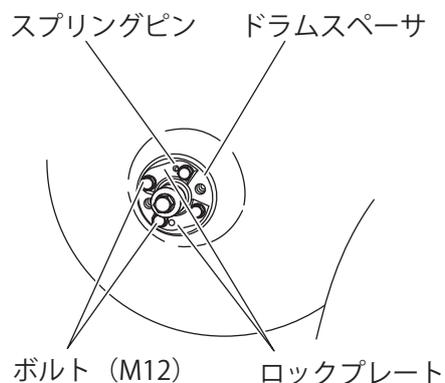
#### 取扱上の注意

- 使用限度を超えた状態で使用すると、作業機の破損につながる恐れがあります。

- 1 スライドカバーを取外します。
- 2 ドラム部の EX ローラを固定しているボルト（M12）2 本を取外します。



- 3 ロックプレートのツバを曲げ、ボルト（M12）4 本を取外します。

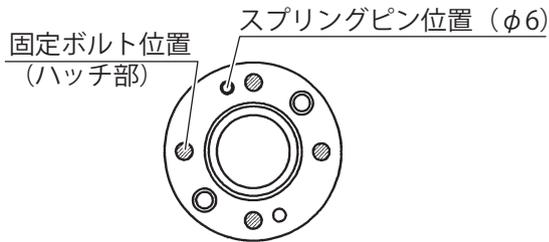


- 4** ドラムスペーサを取り、ドラムの真正面に立ち、ドラムの左端と右端を持ち、右手側を手前に引き、斜め右後に引っ張り出します。

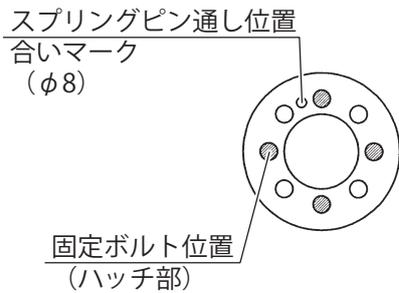
- ・ドラムボスに組付けてあるスプリングピンは外さないでください。
- ・ドラムボスが付いていると外れません。

- 5** 新品ドラムをドラムカバーサポート、ドラムカバーの間に右後方から斜めに入れ、ドラムボスのスプリングピンの位置にドラムとドラムスペーサの合マークを合わせます。

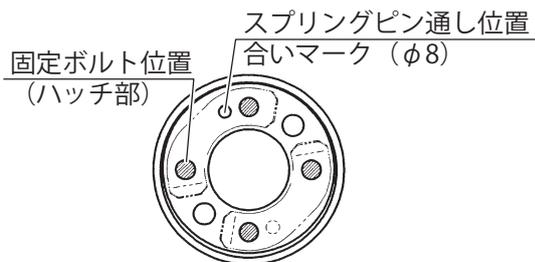
(ドラムボス)



(ドラム)



(ドラムスペーサ)



- 6** 新品のロックプレート、M12のボルトで固定し、ボルト締付け後はロックプレートのツバを曲げボルトの頭を固定します。

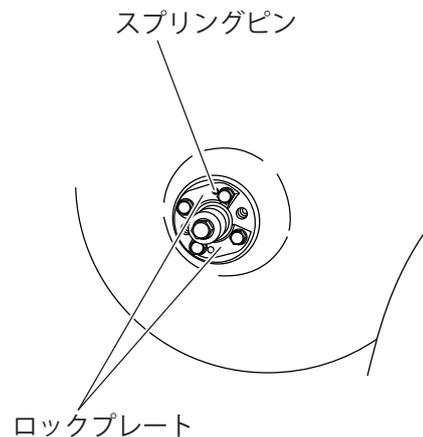
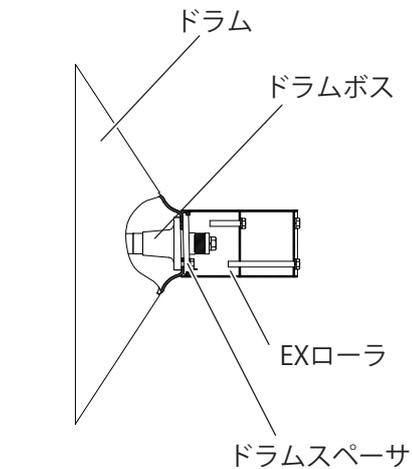
**取扱上の注意**

- ・スプリングピンがない場合や偏芯量 10 mm または 20 mm の場合は、「ドラム偏芯量調整方法」(→ P.74) の**3**を参照して偏芯量を合わせてください。
- ・組付け手順は「ドラム偏芯量調整方法」の**4** (→ p.74) を参照してください。

- 7** EX ローラ 2 個をボルト (M12) で取付け (締付けトルク 78 N・m)、スライドカバーを取付けます。

**ドラム偏芯量調整方法**

- 1** EX ローラを固定しているボルト 2 本 (2 か所) を取外し、スプリングピンを抜きます。



**2** ロックプレートのツバを曲げ、ドラムボス、ドラムスペーサを固定しているボルト4本を外します。

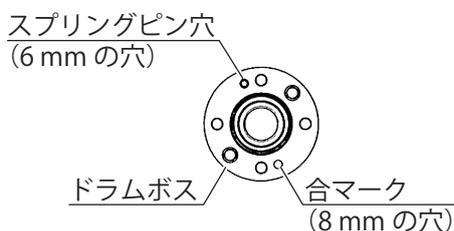
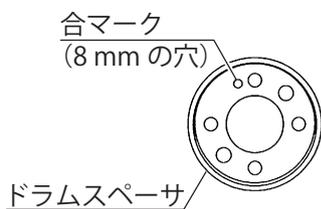
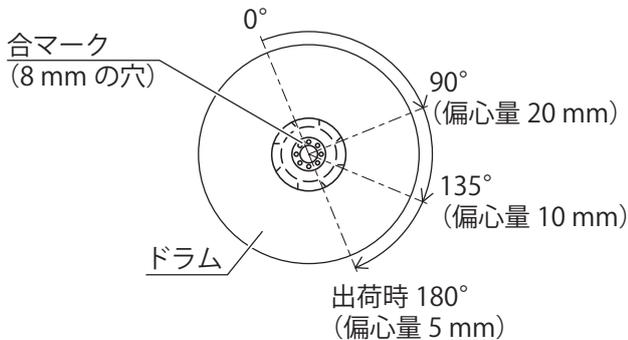
- ボルト4本を外すときはドラムが動かないようにしてから外してください。

**3** ドラムの合マーク（8 mm の穴）をドラムボスの合マーク（8 mm の穴）に対して表のようにドラムを回転させると偏心量が変わります。

**取扱上の注意**

- 合マーク位置 0°（偏心量 40 mm）、45°（偏心量 30 mm）は使用しないでください。ガイマチックに悪影響がでます。
- ドラムボスに打込むスプリングピンは偏心量 5 mm の時だけ使用します。偏心量 10 mm、偏心量 20 mm の場合は使用しません。

ドラム角度 (°)	偏心量 (mm)
90	20
135	10
180	5



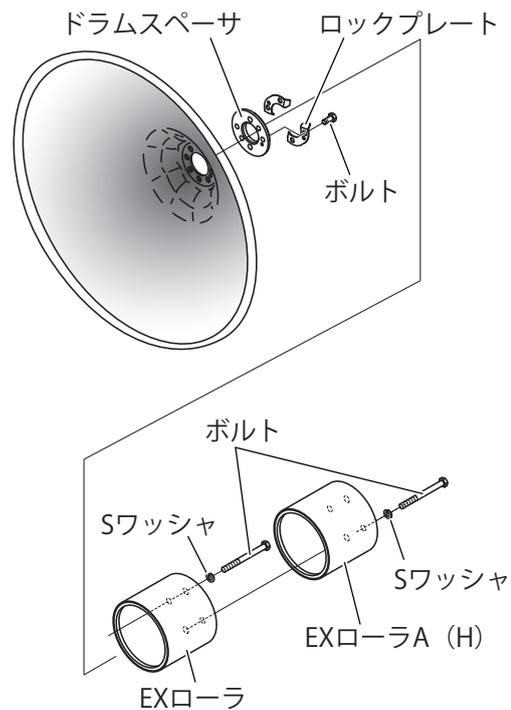
**4** 偏心量の調整ができれば、ドラムボス、ドラム、ドラムスペーサ、ロックプレートを4本のボルトで固定します。（締付けトルク 126 N・m）

**取扱上の注意**

- ドラムスペーサの取付け位置が違っていると EX ローラが振れて天場がうまく塗れず、破損の原因につながる恐れがあります。

**お知らせ**

- ドラムスペーサは取付け位置があります。ドラムスペーサの合マークとドラムボスのスプリングピン穴（6 mm の穴）の合マークは必ず合わせてから取付けてください。



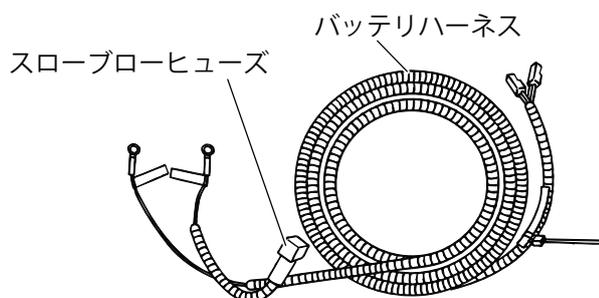
**5** ロックプレートのツバを曲げ、ボルトの頭を固定した後、EX ローラと EX ローラ A (H) を取付けます。（締付けトルク 78 N・m）

## スローブローヒューズ

- スローブローヒューズは、ショートした場合に配線を保護するためのものです。
- もし切れた場合は、速やかに購入された販売店に相談し、切れた原因の確認と処置を行ってください。
- 交換するときは、必ず純正部品を使用してください。

部品名	品目コード
スローブローヒューズ 規格 60 A	7662494

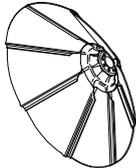
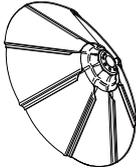
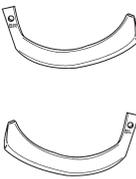
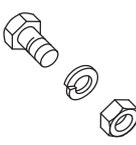
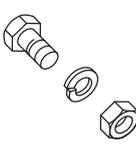
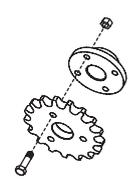
- ヒューズの交換は、必ずエンジンを停止し、コントローラの電源を切った上で行ってください。
- 交換後は元通りにカバーを閉じてください。

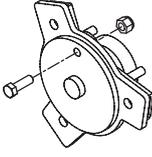


# 消耗品一覧

消耗部品は早めの交換をお勧めします。

当社では、お客様にご迷惑がからないよう消耗部品を用意しておりますが、シーズンによっては特定の部品が品薄になる場合がございます。シーズン到来前の準備として、消耗部品の事前確認をしていただき、早めの交換をお勧めします。

	部品名	ドラム 750	部品コード	7660859	1 台分個数	1
	備考	ドラム単品でドラム 750 からドラム 850 またはその逆の交換はできません。				
	部品名	ドラム 850	部品コード	7660934	1 台分個数	1
	備考	ドラム単品でドラム 750 からドラム 850 またはその逆の交換はできません。				
	部品名	ナタツメ BR3060ZR	部品コード	67811	1 台分個数	4
	部品名	ナタツメ BL3060ZL (アカ)	部品コード	68232	1 台分個数	2
	備考	ナタツメ BR3060ZR,L セットで、爪セットコード 8855S				
	部品名	M12 × 30 P1.5 8T ツメボルト	部品コード	0050059	1 台分個数	4
	部品名	M12 × 40 ツメボルト	部品コード	7560659	1 台分個数	2
	備考	ナタツメ BR3060ZR、BL3060ZL 用				
	部品名	スクレーパ	部品コード	7560655	1 台分個数	2
	備考					
	部品名	ツメ M24L	部品コード	60412	1 台分個数	3
	備考	天場用				
	部品名	M10 × 25 ボルト	部品コード	9011157	1 台分個数	3
	部品名	M10 S ワッシャ	部品コード	9210010	1 台分個数	3
	部品名	M10 ナット	部品コード	9140511	1 台分個数	3
	備考	ツメ M24L 用				
	部品名	シャーボルトキット RM (ホンタイ)	部品コード	7662957	1 台分個数	10 本セット
	備考	シャーボルトは必ずコバシ純正品を使用してください。				

	部品名	テンバコーウンジク用 シャーボルト	部品コード	7663109	1台分個数	10本セット
	備考	シャーボルトは必ずコバシ純正品を使用してください。				
	部品名	テンションプレート	部品コード	7662868	1台分個数	1
	備考					
	部品名	テンショナ	部品コード	7560693	1台分個数	1
	備考					
	部品名	ローラチェン				
		(メイン用)		9440239		1
		(ドラム用)	部品コード	9440198	1台分個数	1
		(天場用)		9440238		1
	備考					

# オプション一覧

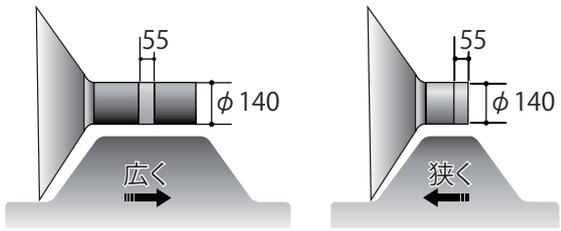
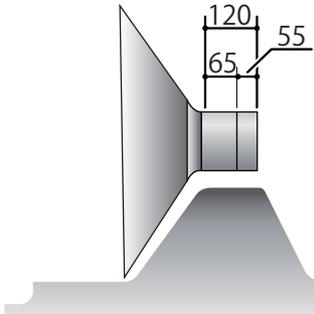
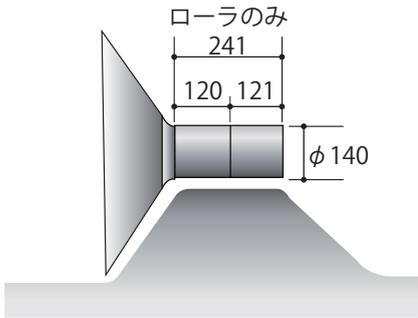
RM752、RM852 には以下のオプションがあります。

珪塗り作業を行う圃場条件に適したものをお選びください。(別途購入が必要になります)

詳しくは、販売店にご確認ください。

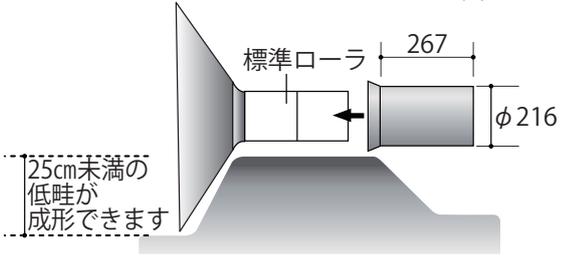
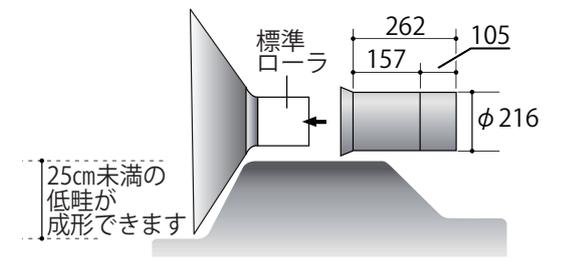
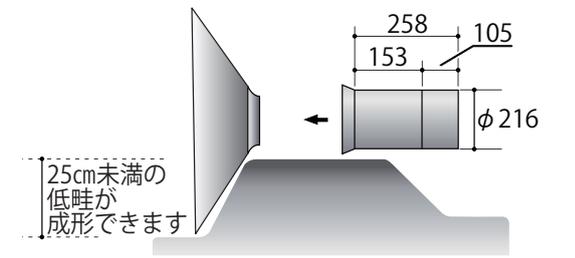
## 延長／分割ローラ

天場の幅が広い／狭い場合に延長／分割ローラを取付けます。天場の幅によってローラの長さを調節できます。

品名・形状	型式	仕様
ローラキット A 単位：mm 		成形したい天場の幅により、標準ローラに延長、または標準ローラを分割して取付けることができます。
ローラキット AS2 単位：mm 	RM752 RM852	標準ローラの延長、または標準ローラを分割して取付けることができます。
EX ローラキット AS 単位：mm 		標準ローラ 2 分割式タイプです。

## 大径ローラ

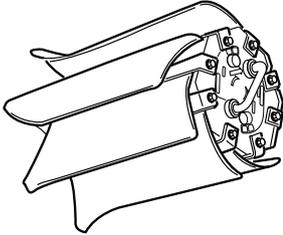
低畦対応用コーナー付大径ローラ。25cm以下の低畦を成形する場合に最適です。

品名・形状	型式	仕様
ローラキット BH 単位：mm  <p>標準ローラ 267 φ216</p> <p>25cm未満の低畦が成形できます</p>		標準ローラを取付けた状態で装着できます。工具レスでワンタッチ着脱タイプです。
ローラキット BS2 単位：mm  <p>標準ローラ 262 105 157 φ216</p> <p>25cm未満の低畦が成形できます</p>	RM752 RM852	分割式大径ローラ。標準ローラの外側ローラを取外してから装着します。
ローラキット CS2 単位：mm  <p>258 105 153 φ216</p> <p>25cm未満の低畦が成形できます</p>		標準ローラを取付けなくても装着できます。

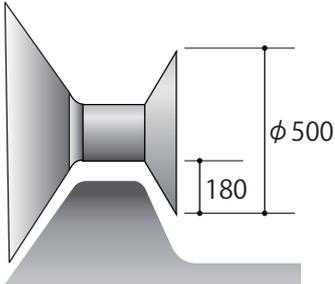
使  
い  
か  
た

オ  
プ  
シ  
ョ  
ン  
一  
覧

## 樹脂ローラキット H

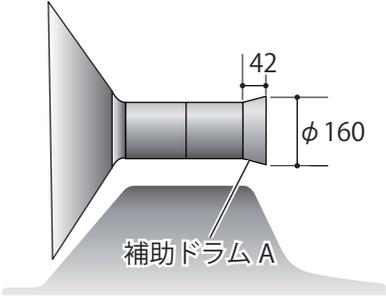
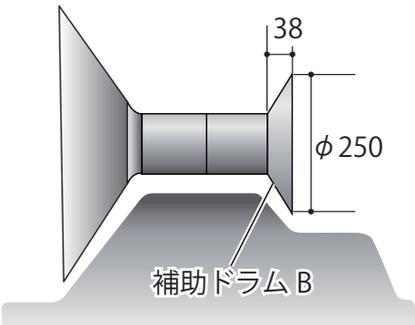
品名・形状	型式	仕様
	RM752 RM852	<p>天場成形後もローラへ土が付着しようとする火山灰土を、樹脂プレートが元の形に戻ろうとする張力により剥がし、天場の成形をきれいにします。</p> <p>標準ローラを取付けたまま装着できます。工具レスでワンタッチ着脱タイプです。</p>

## 中畦キット

品名・形状	型式	仕様
<p style="text-align: right;">単位：mm</p> 	RM752 RM852	<p>圃場の中に中畦を作ります。</p>

## 補助ドラムキット

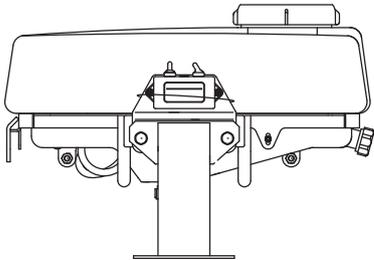
天場に供給された土で EX ローラからこぼれた土を塗るのに使用します。

品名・形状	型式	仕様
補助ドラムキット A 単位：mm  <p>補助ドラム A</p>	RM752 RM852	両側から珪塗作業ができます。
補助ドラムキット B 単位：mm  <p>補助ドラム B</p>		復路作業はできません。

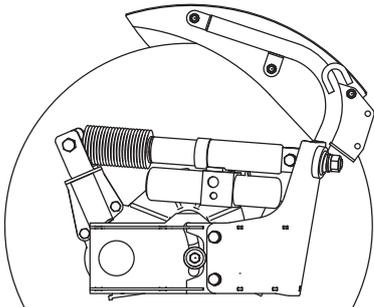
使いかた

オプション一覧

## 散水装置

品名・形状	型式	仕様
タンクキット2 / トリツケキットD 	RM752 RM852	粘土質で畦の法面が「むしれる」ようになる場合に、ドラムに水をかけることできれいに成形できます。また、除草剤を散水する場合にも使用できます。

## ドラムコウシンキット

品名・形状	型式	仕様
	RM752 RM852	電動シリンダを取付け、カルコンで土量の調整を行います。トラクタに乗った状態で調整ができます。

# 格納・運搬・保管

格納・運搬・保管するときは、作業機をきれいに清掃し、塗装できない箇所はサビ止めのためにグリスを塗ってください。

## 注意事項

### ⚠ 注意



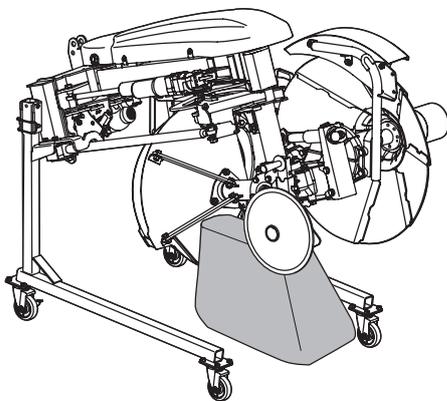
必ず実行

キャストおよびキャストスタンドが損傷している場合は、ただちに修理・交換を行ってください。

\* 作業機が転倒する恐れがあり危険です。

### 取扱上の注意

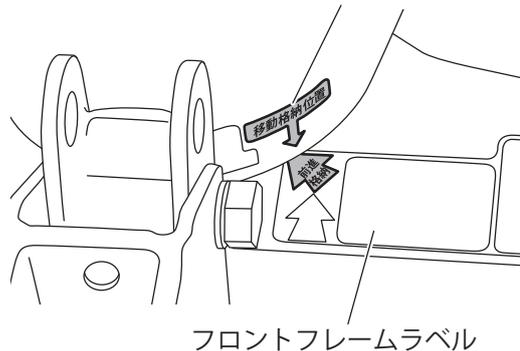
- ・キャストスタンドは、圃場内での使用や、圃場内への放置はしないでください。泥の侵入により回動しにくくなる場合があります。また、泥が侵入して回動しにくくなった場合は、よく洗浄してグリスを塗布してください。
- ・キャストスタンドを装着した状態で運搬はしないでください。破損の原因になります。やむを得ず、運搬する場合は、ドラムの下をウマなどで固定してキャストに負担がかからないようにしてください。



## 作業手順

- 1 フロントフレームラベルの「前進格納」矢印と、チェンカバーラベルの「移動格納位置」矢印が合っている状態にします。

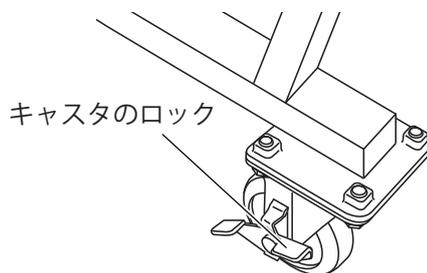
トラクタ側から見た図      チェンカバーラベル



### 取扱上の注意

- ・ズレている場合は、安全に装着することができないので、コントローラと電源を接続し、矢印を合わせてください。

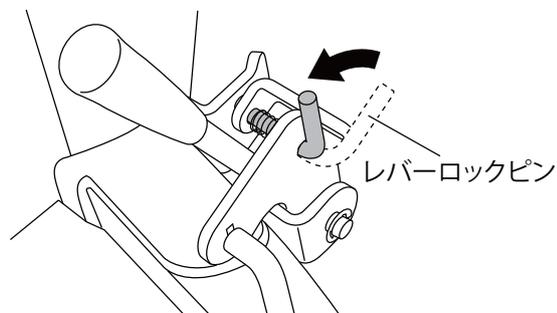
- 2 キャストスタンドで作業機を移動する際は、平坦な広い場所で、周囲に人がいないことを確認し、足元に注意して行います。
- 3 作業機は、平坦な地盤のしっかりした屋根のある場所に保管し、キャストのブレーキをロックします。



使いかた

格納・運搬・保管

- 4** オートヒッチを作業機に取付けて保管する場合は、レバーロックピンを操作してレバーをロックします。  
レバーロックピンは、不用意に作業機が外れないように確実にロックします。



- 5** 格納後はむやみに子供などが触れないような処置をします。
- 6** 必ず屋内に保管します。  
屋外での長期保管は作業機の寿命を低下させます。

# 主要諸元

ここでは各型式の主要諸元を紹介します。

型式		RM752FT-0S	RM752FT-4S	RM752FT-4SD	RM752F-1S
機体寸法	全長 (mm)	1740	1930	1930	1930
	全幅 (mm)	1130	1130	1130	1130
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		321	357	362	337
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1	18.4 ~ 37.5	27.2 ~ 44.1	18.4 ~ 44.1
	PS	25 ~ 60	25 ~ 51	37 ~ 60	25 ~ 60
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		6 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 標準 3P I 形			JIS 標準 3P I 形 直装
		0S	4S	4S	1S
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		20 ~ 30			
ドラム外径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		元畦追従方式 (耕深調整：ピン方式 7 段階調整)			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

必要に応じて

主要諸元

型式		RM752F-S	RM752F-T	RM752F-U	RM752F-MU
機体寸法	全長 (mm)	1950	1950	1940	1940
	全幅 (mm)	1130	1130	1130	1130
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		339	338	337	337
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1			
	PS	25 ~ 60			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		5 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 特殊 3P			
		A I 形	A II 形	B 形	三菱 B 形
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		20 ~ 30			
ドラム外径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		元畦追従方式 (耕深調整：ピン方式 7 段階調整)			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

型式		RM752FBT-0S	RM752FBT-4S	RM752FBT-4SD	RM752FB-1S
機体寸法	全長 (mm)	1740	1930	1930	1930
	全幅 (mm)	1140	1140	1140	1140
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		326	362	367	342
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1	18.4 ~ 37.5	27.2 ~ 44.1	18.4 ~ 44.1
	PS	25 ~ 60	25 ~ 51	37 ~ 60	25 ~ 60
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		6 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 標準 3P I 形			JIS 標準 3P I 形 直装
		0S	4S	4S	1S
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		15 ~ 25			
ドラム外径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		元畦追従方式 (耕深調整：ピン方式 7 段階調整)			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

必要に応じて

主要諸元

型式		RM752FB-S	RM752FB-T	RM752FB-U	RM752FB-MU
機体寸法	全長 (mm)	1950	1950	1940	1940
	全幅 (mm)	1140	1140	1140	1140
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		344	343	342	342
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1			
	PS	25 ~ 60			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		6 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 特殊 3P			
		A I 形	A II 形	B 形	三菱 B 形
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		15 ~ 25			
ドラム外径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		元畦追従方式 (耕深調整：ピン方式 7 段階調整)			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

型式		RM752HT-0S	RM752HT-4S	RM752HT-4SD	RM752H-1S
機体寸法	全長 (mm)	1740	1930	1930	1930
	全幅 (mm)	1130	1130	1130	1130
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		293	329	334	309
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1	18.4 ~ 37.5	27.2 ~ 44.1	18.4 ~ 44.1
	PS	25 ~ 60	25 ~ 51	37 ~ 60	25 ~ 60
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		6 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 標準 3P I 形			JIS 標準 3P I 形 直装
		0S	4S	4S	1S
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		20 ~ 30			
ドラム外径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		—			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

必要に応じて

主要諸元

型式		RM752H-S	RM752H-T	RM752H-U	RM752H-MU
機体寸法	全長 (mm)	1950	1950	1940	1940
	全幅 (mm)	1130	1130	1130	1130
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		311	310	309	309
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1			
	PS	25 ~ 60			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		6 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 特殊 3P			
		A I 形	A II 形	B 形	三菱 B 形
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		20 ~ 30			
ドラム外径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		—			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

型式		RM752HBT-0S	RM752HBT-4S	RM752HBT-4SD	RM752HB-1S
機体寸法	全長 (mm)	1740	1930	1930	1930
	全幅 (mm)	1140	1140	1140	1140
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		298	334	339	314
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1	18.4 ~ 37.5	27.2 ~ 44.1	18.4 ~ 44.1
	PS	25 ~ 60	25 ~ 51	37 ~ 60	25 ~ 60
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		6 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 標準 3P I 形			JIS 標準 3P I 形 直装
		0S	4S	4S	1S
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		15 ~ 25			
ドラム外径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		—			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

必要に応じて

主要諸元

型式		RM752HB-S	RM752HB-T	RM752HB-U	RM752HB-MU
機体寸法	全長 (mm)	1950	1950	1940	1940
	全幅 (mm)	1140	1140	1140	1140
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		316	315	314	314
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1			
	PS	25 ~ 60			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		6 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 特殊 3P			
		A I 形	A II 形	B 形	三菱 B 形
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		15 ~ 25			
ドラム外径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		—			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

型式		RM852FT-0S	RM852FT-4S	RM852FT-4SD	RM852F-1S
機体寸法	全長 (mm)	1750	1930	1930	1930
	全幅 (mm)	1170	1170	1170	1170
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		326	362	367	342
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1	18.4 ~ 37.5	27.2 ~ 44.1	18.4 ~ 44.1
	PS	25 ~ 60	25 ~ 51	37 ~ 60	25 ~ 60
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		6 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 標準 3P I 形			JIS 標準 3P I 形 直装
		0S	4S	4S	1S
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		25 ~ 35			
ドラム外径 (cm)		85 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		元畦追従方式 (耕深調整：ピン方式 7 段階調整)			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

必要に応じて

主要諸元

型式		RM852F-S	RM852F-T	RM852F-U	RM852F-MU
機体寸法	全長 (mm)	1960	1960	1940	1940
	全幅 (mm)	1170	1170	1170	1170
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		344	343	342	342
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1			
	PS	25 ~ 60			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		6 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 特殊 3P			
		A I 形	A II 形	B 形	三菱 B 形
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		25 ~ 35			
ドラム外径 (cm)		85 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		元畦追従方式 (耕深調整：ピン方式 7 段階調整)			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

型式		RM852HT-0S	RM852HT-4S	RM852HT-4SD	RM852H-1S
機体寸法	全長 (mm)	1750	1930	1930	1930
	全幅 (mm)	1170	1170	1170	1170
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		298	334	339	314
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1	18.4 ~ 37.5	27.2 ~ 44.1	18.4 ~ 44.1
	PS	25 ~ 60	25 ~ 51	37 ~ 60	25 ~ 60
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		6 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 標準 3P I 形			JIS 標準 3P I 形 直装
		0S	4S	4S	1S
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		25 ~ 35			
ドラム外径 (cm)		85 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		—			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

必要に応じて

主要諸元

型式		RM852H-S	RM852H-T	RM852H-U	RM852H-MU
機体寸法	全長 (mm)	1960	1960	1940	1940
	全幅 (mm)	1170	1170	1170	1170
	全高 (mm)	1430	1430	1430	1430
機体質量 (kg) 注 <sup>1</sup>		316	315	314	314
適応トラクタ 注 <sup>2</sup>	KW	18.4 ~ 44.1			
	PS	25 ~ 60			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		6 ~ 15			
駆動方法		チェーン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		400 ~ 600 (PTO 1 速 ~ 2 速)			
装着方法		JIS 特殊 3P			
		A I 形	A II 形	B 形	三菱 B 形
作業軸回転速度 (rpm)	耕うん軸	187 ~ 273			
	ドラム	62 ~ 91			
畦高さ (cm)		25 ~ 35			
ドラム外径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天場処理装置		—			
オフセット方法		電動式オフセット平行リンク機構 (前進側：500 mm 無段階調節 後進側：固定)			
最大オフセット量 (mm)		前進側：930 後進側：1000			
作業深さ調整		ゲージ輪ピン調節式 / ドラム上下ハンドル無段階調節式			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

注 1：スタンド 24 kg 含む。

注 2：トラクタはタイヤ外幅 1860 mm 以下に限る。

# トラクタ別装着表

この表はあくまで装着表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で使用してください。また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

## ⚠ 注意



必ず実行

装着表記載の寸法からトップリンク長など変更される場合は、作業機を上下させてジョイントの抜け・突きがないことを十分確認してから作業を行ってください。

\* ケガ・破損につながる恐れがあります。

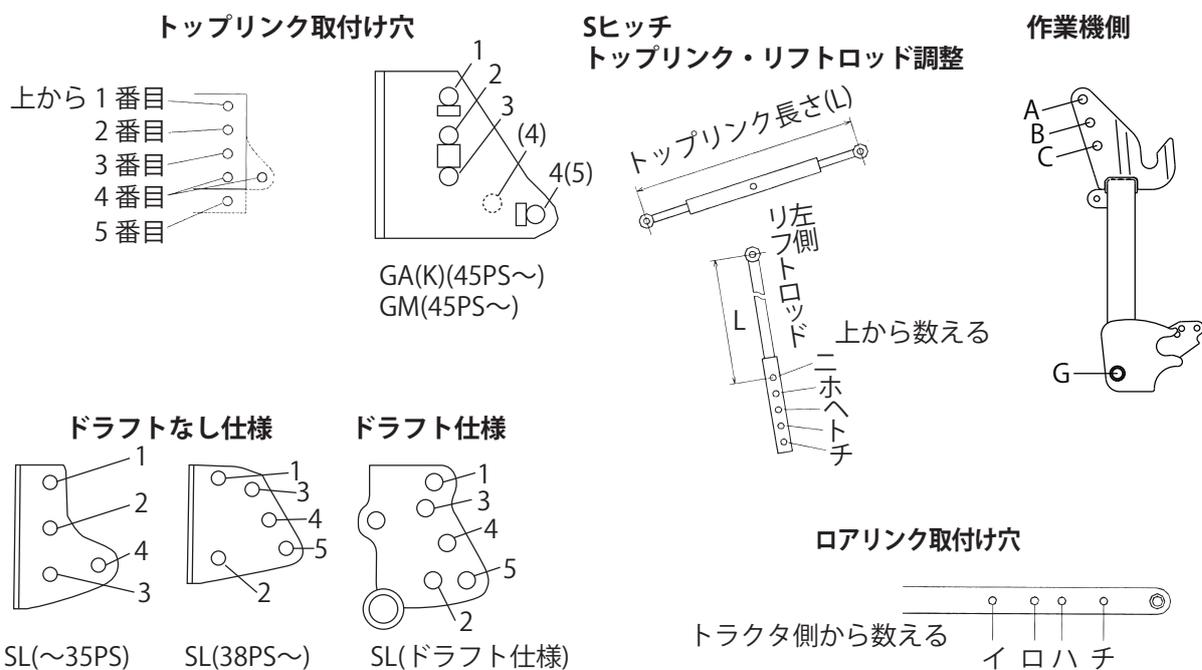


必ず実行

ジョイントの抜け・突きがある場合は、ジョイントの切断・交換などして作業してください。

\* ケガ・破損につながる恐れがあります。

## S ヒッチ (4S)



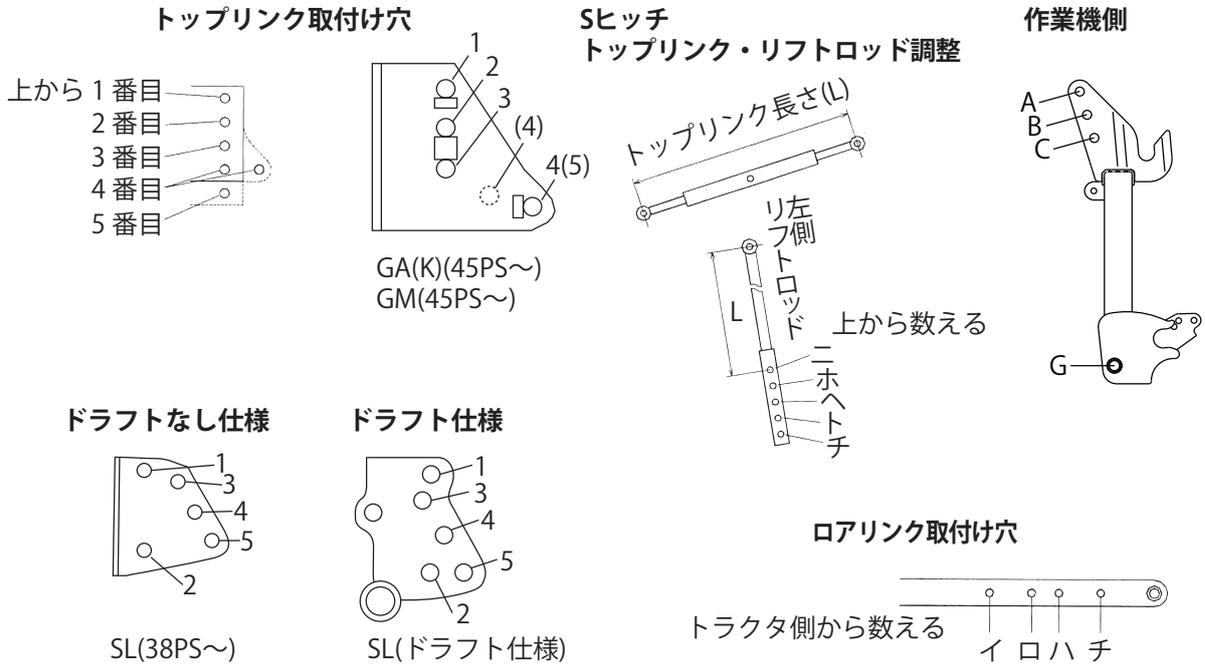
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴	T-4S	
							TC71M	
SL280	2	イ	へ	650	C	G		ジョイント 異音時 PTO 切
SL280PC・320PC	2	ロ	へ	670	C	G		
SL320・350	2	イ	へ	710	C	G		ジョイント 異音時 PTO 切
SL350PC	4	ロ	へ	670	A	G	TC84M に交換	
SL350PC (ドラフト)	5	ロ	ト	630	A	G	TC84M に交換	
SL380・410・450	5	イ	へ	670	A	G		

必要に応じて

トラクタ別装着表

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備 考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴	T-4S	
							TC71M	
SL380PC・410PC・450PC	5	イ	へ	660	A	G		
SL480	5	イ	ホ	690	A	G		
SL480PC	5	イ	ホ	680	A	G		
YT330A・333A	3	イ	ホ	610	A	G		
YT333AD	3	イ	ホ	580	A	G		
YT338A・345A	3	イ	ホ	620	A	G		
YT338AD・345AD	3	イ	ホ	570	A	G		
NTA253 NT253	3	イ	ホ	520	C	G		
NTA283 NT283 N30(NTA303)	3	イ	ホ	580	A	G		
NTA313・343 NT313・343	3	イ	ホ	570	A	G		
NTA313A・343A NT313A・343A	3	イ	ホ	520	C	G		A: ショートホイ ルベース仕様
NTA283C・343C NT253C・343C	3	イ	ホ	550	A	G		
NTA403 NT433	4	イ	ホ	650	A	G		
NTA453・503 NT483	4	イ	ホ	640	A	G		
NTA403C・453C・503C NT433C・483C	4	イ	ホ	630	A	G		
GA301・331・361 GA300・330・360	2	イ	ホ	670	A	G	TC74M に交換	
GA451・501 GA450・500	3	イ	ニ	650	A	G	TC74M に交換	
GAK331・361 GAK330・360	2	イ	へ	650	A	G	TC74M に交換	
GAK451・501 GAK450・500	3	イ	ホ	630	A	G	TC74M に交換	
GM301・331・361 GM300・330・360	3	イ	ホ	690	A	G		
GM330W GOE25	3	イ	ホ	700	A	G		
GM451・501 (ET) GM450・500 (ET)	4 (5)	イ (口)	ニ	500	A	G		トップリンク穴は 4つ穴の場合…4 5つ穴の場合…5 ロアリンク穴は 2つ穴の場合…イ 3つ穴の場合…口
T2.35	2	イ	へ	710	C	G		ジョイント 異音時 PTO 切 クボタ OEM SL35
T2.45	5	イ	へ	670	A	G		クボタ OEM SL45

# S ヒッチ (4SD)



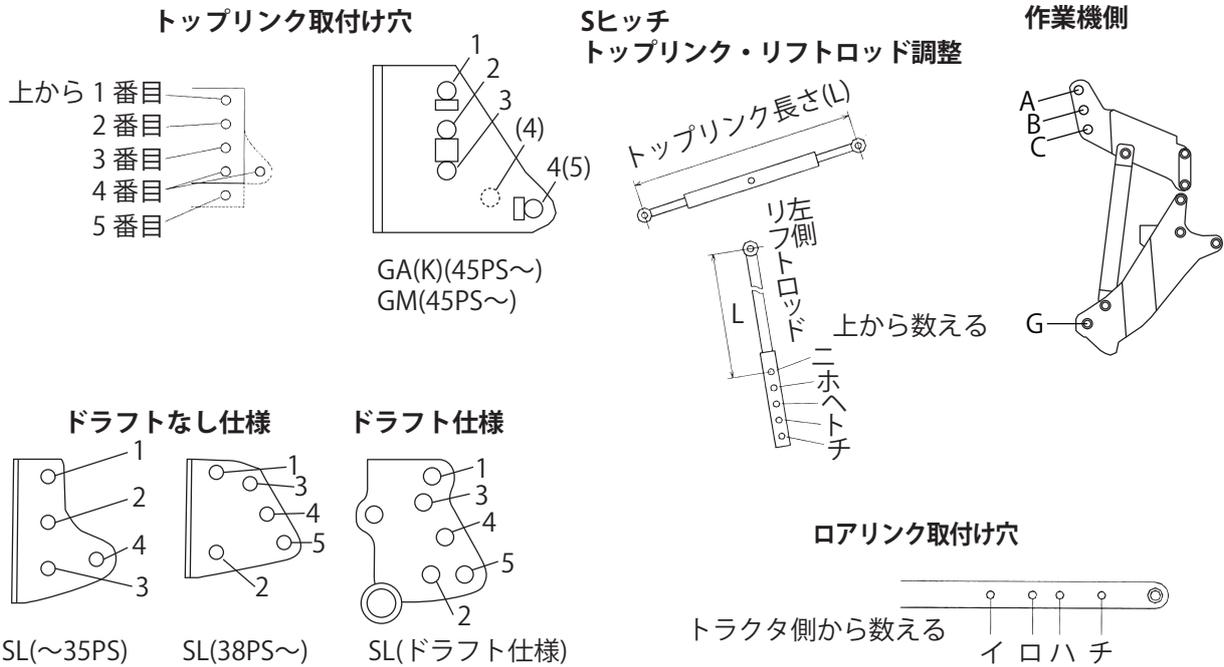
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴		
							T-4SD	
SL380・410・450	5	イ	へ	670	A	G		
SL380PC・410PC・450PC	5	イ	へ	660	A	G		
SL480・540・600	5	イ	ホ	690	A	G		
SL480PC・540PC・600PC	5	イ	ホ	680	A	G		
YT338A・345A・ 352A・357A	3	イ	ホ	620	A	G		
YT338AD・345AD・357AD	3	イ	ホ	570	A	G	50	
NTA403 NT433	4	イ	ホ	650	A	G	30	
NTA453・503・543・603 NT483・543・603(E)	4	イ	ホ	640	A	G	30	
NTA403C・453C・503C・ 543C・603C NT433C・483C・543C	4	イ	ホ	630	A	G	30	
GA451・501・551 GA450・500・550	3	イ	二	650	A	G		
GAK451・501・551 GAK450・500・550	3	イ	ホ	630	A	G		

必要に応じて

トラクタ別装着表

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備 考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴	T-4SD	
							KHC79M	
GM451・501 (ET) ・551 GM450・500 (ET) ・550	4 (5)	イ (口)	ニ	500	A	G	70	トップリンク穴は 4つ穴の場合…4 5つ穴の場合…5 ロalink穴は 2つ穴の場合…イ 3つ穴の場合…口
MF1755E MF1765M	4	イ	ホ	640	A	G	30	井関農機 OEM NT543 NTA603
T2.45	5	イ	へ	670	A	G		クボタ OEM SL45

# 直装 (1S)



トラクタ型式	トラクタ部の調整			作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ (mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	1S	
							TC69	
SL280	2	イ	へ	650	C	G		ジョイント異音時 PTO 切
SL280PC・320PC	2	ロ	へ	670	C	G		
SL320・350	2	イ	へ	710	C	G		ジョイント異音時 PTO 切
SL350PC	4	ロ	へ	670	A	G	TC74 に交換	
SL350PC (ドラフト)	5	ロ	ト	630	A	G	TC74 に交換	
SL380・410・450	5	イ	へ	670	A	G		
SL380PC・410PC・450PC	5	イ	へ	660	A	G		
SL480・540・600	5	イ	ホ	690	A	G		
SL480PC・540PC・600PC	5	イ	ホ	680	A	G		
YT330A・333A	3	イ	ホ	610	A	G		
YT333AD	3	イ	ホ	580	A	G		
YT338A・345A・352A・357A	3	イ	ホ	620	A	G		
YT338AD・345AD・357AD	3	イ	ホ	570	A	G		
NTA253 NT253	3	イ	ホ	520	C	G		
NTA283 NT283 N30 (NTA303)	3	イ	ホ	580	A	G		

必要に応じて

トラクタ別装着表

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備 考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴	1S	
							TC69	
NTA313・343 NT313・343	3	イ	ホ	570	A	G		
NTA313A・343A NT313A・343A	3	イ	ホ	520	C	G		A: ショートホイ ルベース仕様
NTA283C・343C NT253C・343C	3	イ	ホ	550	A	G		
NTA403 NT433	4	イ	ホ	650	A	G		
NTA453・503・543・603 NT483・543・603 (E)	4	イ	ホ	640	A	G		
NTA403C・453C・503C・ 543C・603C NT433C・483C・543C	4	イ	ホ	630	A	G		
GA301・331・361 GA300・330・360	2	イ	ホ	670	A	G	TC74 に交換	
GA451・501・551 GA450・500・550	3	イ	ニ	650	A	G	TC74 に交換	
GAK331・361 GAK330・360	2	イ	へ	650	A	G	TC74 に交換	
GAK451・501・551 GAK450・500・550	3	イ	ホ	630	A	G	TC74 に交換	
GM301・331・361 GM300・330・360	3	イ	ホ	690	A	G	TC74 に交換	
GM330W GOE25	3	イ	ホ	700	A	G	TC74 に交換	
GM451・501 (ET) ・551 GM450・500 (ET) ・550	4 (5)	イ (口)	ニ	500	A	G		トップリンク穴は 4つ穴の場合…4 5つ穴の場合…5 ロアリンク穴は 2つ穴の場合…イ 3つ穴の場合…口
MF1755E MF1765M	4	イ	ホ	640	A	G		井関農機 OEM NT543 NTA603
T2.35	2	イ	へ	710	C	G		ジョイント 異音時 PTO 切 クボタ OEM SL35
T2.45	5	イ	へ	670	A	G		クボタ OEM SL45

# フロントウエイト装着表

作業機装着の際、トラクタ型式および装着方式によりフロントウエイトが必要になります。

必ず、必要枚数、および重量をご確認の上、ご購入先にご相談ください。

枚数はキャビン仕様のフロントウエイト枚数を示します。ロプス仕様は（）内を参照してください。

※トラクタ型式によっては、オプションウエイト台が必要になります。詳しくはご購入先にご相談ください。

トラクタ型式 KUBOTA (ホイールトラクタ)		ウエイト必要枚数					
		特殊 3P A フレーム			W3P A フレーム		
		SL280	SL320	SL350	SL280	SL320	SL350
RM752H (B)	-U	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)
	T-OS				25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)
	1S						
RM752F (B)	-U	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)
	T-OS				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)
	1S						
RM852H	-U	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)
	T-OS				25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)
	1S						
RM852F	-U	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)
	T-OS				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)
	1S						

必要に応じて

フロントウエイト装着表

トラクタ型式 KUBOTA (ホイルトラクタ)		ウエイト必要枚数					
		小橋 S ヒッチ			直装		
		SL280	SL320	SL350	SL280	SL320	SL350
RM752H (B)	-U						
	T-OS	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)			
	1S				25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)
RM752F (B)	-U						
	T-OS	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)			
	1S				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)
RM852H	-U						
	T-OS	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)			
	1S				25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)
RM852F	-U						
	T-OS	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)			
	1S				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)

トラクタ型式 KUBOTA (ホイルトラクタ)		ウエイト必要枚数					
		特殊 3P A フレーム			W3P A フレーム		
		SL280PC	SL320PC	SL350PC	SL280PC	SL320PC	SL350PC
RM752H (B)	-U	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)
	T-OS				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)
	1S						
RM752F (B)	-U	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)	25kg × 4 (25kg × 4)	25kg × 4 (25kg × 4)	25kg × 3 (25kg × 4)
	T-OS				25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)
	1S						
RM852H	-U	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)
	T-OS				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)
	1S						
RM852F	-U	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)	25kg × 4 (25kg × 4)	25kg × 4 (25kg × 4)	25kg × 3 (25kg × 4)
	T-OS				25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)
	1S						

トラクタ型式 KUBOTA (ホイルトラクタ)		ウエイト必要枚数					
		小橋Sヒッチ			直装		
		SL280PC	SL320PC	SL350PC	SL280PC	SL320PC	SL350PC
RM752H (B)	-U						
	T-OS	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)			
	1S				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)
RM752F (B)	-U						
	T-OS	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)			
	1S				25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)
RM852H	-U						
	T-OS	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)			
	1S				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)
RM852F	-U						
	T-OS	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)			
	1S				25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 3)

トラクタ型式 YANMAR (ホイルトラクタ)		ウエイト必要枚数							
		特殊 3P クイック		標準 3P クイック		小橋Sヒッチ		直装	
		YT330A	YT333A	YT330A	YT333A	YT330A	YT333A	YT330A	YT333A
RM752H (B)	-T	— (30kg × 2)	— (30kg × 2)						
	T-OS			— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 2)	— (30kg × 2)		
	1S							— (30kg × 1)	— (30kg × 1)
RM752F (B)	-T	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)						
	T-OS			30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 3)	30kg × 1 (30kg × 3)		
	1S							30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)
RM852H	-T	— (30kg × 2)	— (30kg × 2)						
	T-OS			— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 2)	— (30kg × 2)		
	1S							— (30kg × 1)	— (30kg × 1)
RM852F	-T	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)						
	T-OS			30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 3)	30kg × 1 (30kg × 3)		
	1S							30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)

必要に応じて

フロントウエイト装着表

トラクタ型式 YANMAR (デルタトラクタ)		ウエイト必要枚数			
		特殊 3P クイック	標準 3P クイック	小橋 S ヒッチ	直装
		YT333AD	YT333AD	YT333AD	YT333AD
RM752H (B)	-T	30 kg × 3 (30 kg × 3)			
	T-OS		30 kg × 2 (30 kg × 3)	30 kg × 3 (30 kg × 3)	
	1S				30 kg × 2 (30 kg × 3)
RM752F (B)	-T	30 kg × 4 (30 kg × 4)			
	T-OS		30 kg × 3 (30 kg × 4)	30 kg × 4 (30 kg × 4)	
	1S				30 kg × 3 (30 kg × 4)
RM852H	-T	30 kg × 3 (30 kg × 3)			
	T-OS		30 kg × 2 (30 kg × 3)	30 kg × 3 (30 kg × 3)	
	1S				30 kg × 2 (30 kg × 3)
RM852F	-T	30 kg × 4 (30 kg × 4)			
	T-OS		30 kg × 3 (30 kg × 4)	30 kg × 4 (30 kg × 4)	
	1S				30 kg × 3 (30 kg × 4)

トラクタ型式 YANMAR (デルタトラクタ)		ウエイト必要枚数								
		標準 3P クイック			小橋 S ヒッチ			直装		
		YT338AD	YT345AD	YT357AD	YT338AD	YT345AD	YT357AD	YT338AD	YT345AD	YT357AD
RM752H (B)	T-OS	30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)	—	30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)	—			
	1S							30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)	—
RM752F (B)	T-OS	30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)	—	30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)	—			
	1S							30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)	—
RM852H	T-OS	30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)	—	30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)	—			
	1S							30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)	—
RM852F	T-OS	30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)	—	30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)	—			
	1S							30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)	—

トラクタ型式 ISEKI (ホイールトラクタ)	ウエイト必要枚数									
	特殊 3PD ヒッチ			標準 3PD ヒッチ 小橋 S ヒッチ			直装			
	NTA253	NTA283	NTA313 NTA343	NTA253	NTA283	NTA313 NTA343	NTA253	NTA283	NTA313 NTA343	
RM752H (B)	-S	—	—	—						
	T-OS				25kg × 1 (25kg × 1)	— (25kg × 1)	—			
	1S						25kg × 1 (25kg × 1)	— (25kg × 1)	—	
RM752F (B)	-S	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	—						
	T-OS				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	— (25kg × 1)			
	1S						25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 1)	
RM852H	-S	—	—	—						
	T-OS				25kg × 1 (25kg × 1)	— (25kg × 1)	—			
	1S						25kg × 1 (25kg × 1)	— (25kg × 1)	—	
RM852F	-S	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	—						
	T-OS				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 1)			
	1S						25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 1)	

必要に応じて

フロントウエイト装着表

トラクタ型式 ISEKI (ホイルトラクタ)		ウエイト必要枚数								
		特殊 3PD ヒッチ			標準 3PPD ヒッチ 小橋 S ヒッチ			直装		
		NT253	NT283	NT313 NT343	NT253	NT283	NT313 NT343	NT253	NT283	NT313 NT343
RM752H (B)	-S	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	— (25kg × 1)						
	T-OS				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 1)			
	1S							25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 1)
RM752F (B)	-S	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)						
	T-OS				25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 2)			
	1S							25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 2)
RM852H	-S	25kg × 1 (25kg × 1)	25kg × 1 (25kg × 1)	— (25kg × 1)						
	T-OS				25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 1)			
	1S							25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 1)
RM852F	-S	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 2 (25kg × 2)	25kg × 1 (25kg × 2)						
	T-OS				25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 2)			
	1S							25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 2 (25kg × 2)

トラクタ型式 ISEKI (セミクローラクタ)		ウエイト必要枚数			
		特殊 3PD ヒッチ			
		NTA283C	NTA343C	NT253C	NT313C NT343C
RM752H (B)	-S	25kg × 2 (25kg × 4)	25kg × 2 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 4)	25kg × 3 (25kg × 4)
	T-0S				
	1S				
RM752F (B)	-S	25kg × 3 (25kg × 5)	25kg × 3 (25kg × 4)	25kg × 4 (25kg × 5)	25kg × 4 (25kg × 5)
	T-0S				
	1S				
RM852H	-S	25kg × 2 (25kg × 4)	25kg × 2 (25kg × 3)	25kg × 3 (25kg × 4)	25kg × 3 (25kg × 4)
	T-0S				
	1S				
RM852F	-S	25kg × 3 (25kg × 5)	25kg × 3 (25kg × 4)	25kg × 4 (25kg × 5)	25kg × 4 (25kg × 5)
	T-0S				
	1S				

必要に応じて

フロントウエイト装着表

トラクタ型式 ISEKI (セミクロトラクタ)		ウエイト必要枚数			
		標準 3PPD ヒッチ 小橋 S ヒッチ			
		NTA283C	NTA343C	NT253C	NT313C NT343C
RM752H (B)	-S				
	T-OS	25kg × 3 (25kg × 4)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 4 (25kg × 4)	25kg × 4 (25kg × 4)
	1S				
RM752F (B)	-S				
	T-OS	25kg × 4 (25kg × 5)	25kg × 4 (25kg × 4)	25kg × 5 (25kg × 5)	25kg × 5 (25kg × 5)
	1S				
RM852H	-S				
	T-OS	25kg × 3 (25kg × 4)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 4 (25kg × 5)	25kg × 4 (25kg × 5)
	1S				
RM852F	-S				
	T-OS	25kg × 4 (25kg × 5)	25kg × 4 (25kg × 4)	25kg × 5 (25kg × 5)	25kg × 5 (25kg × 5)
	1S				

トラクタ型式 ISEKI (セミクローラクタ)		ウエイト必要枚数			
		直装			
		NTA283C	NTA343C	NT253C	NT313C NT343C
RM752H (B)	-S				
	T-OS				
	1S	25kg × 3 (25kg × 4)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 4 (25kg × 4)	25kg × 4 (25kg × 4)
RM752F (B)	-S				
	T-OS				
	1S	25kg × 4 (25kg × 5)	25kg × 4 (25kg × 4)	25kg × 5 (25kg × 5)	25kg × 5 (25kg × 5)
RM852H	-S				
	T-OS				
	1S	25kg × 3 (25kg × 4)	25kg × 3 (25kg × 3)	25kg × 4 (25kg × 4)	25kg × 4 (25kg × 4)
RM852F	-S				
	T-OS				
	1S	25kg × 4 (25kg × 5)	25kg × 4 (25kg × 4)	25kg × 5 (25kg × 5)	25kg × 5 (25kg × 5)

必要に応じて

フロントウエイト装着表

トラクタ型式 MITSUBISHI MAHINDRA (ホイルトラクタ)		ウエイト必要枚数					
		特殊 3P スーパーヒッチ			デュアルヒッチ		
		GA301	GA331	GA361	GA301	GA331	GA361
RM752H (B)	-MU	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	—	30kg × 1 (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)
	T-OS				— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)
	1S						
RM752F (B)	-MU	30kg × 1 (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)
	T-OS				30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)
	1S						
RM852H	-MU	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	—	30kg × 1 (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)
	T-OS				— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)
	1S						
RM852F	-MU	30kg × 1 (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)
	T-OS				30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)
	1S						

トラクタ型式 MITSUBISHI MAHINDRA (ホイルトラクタ)		ウエイト必要枚数					
		小橋 S ヒッチ			直装		
		GA301	GA331	GA361	GA301	GA331	GA361
RM752H (B)	-MU						
	T-OS	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)			
	1S				— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)
RM752F (B)	-MU						
	T-OS	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)			
	1S				30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)
RM852H	-MU						
	T-OS	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)			
	1S				— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)
RM852F	-MU						
	T-OS	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)			
	1S				30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)

トラクタ型式 MITSUBISHI MAHINDRA (ハーブクロラ トラクタ)		ウエイト必要枚数					
		特殊 3P スーパーヒッチ		小橋 S ヒッチ		直装	
		GAK331	GAK361	GAK331	GAK361	GAK331	GAK361
RM752H (B)	-MU	30kg × 3 (30kg × 3)	30kg × 3 (30kg × 3)				
	T-OS			30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)		
	1S					30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)
RM752F (B)	-MU	30kg × 4 (30kg × 4)	30kg × 4 (30kg × 4)				
	T-OS			30kg × 3 (30kg × 3)	30kg × 3 (30kg × 3)		
	1S					30kg × 3 (30kg × 3)	30kg × 3 (30kg × 3)
RM852H	-MU	30kg × 3 (30kg × 3)	30kg × 3 (30kg × 3)				
	T-OS			30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)		
	1S					30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)
RM852F	-MU	30kg × 4 (30kg × 4)	30kg × 4 (30kg × 4)				
	T-OS			30kg × 3 (30kg × 3)	30kg × 3 (30kg × 3)		
	1S					30kg × 3 (30kg × 3)	30kg × 3 (30kg × 3)

必要に応じて

フロントウエイト装着表

トラクタ型式 MITSUBISHI MAHINDRA (ホイルトラクタ)		ウエイト必要枚数					
		特殊 3P スーパーヒッチ			デュアルヒッチ		
		GM301	GM331	GM361	GM301	GM331	GM361
RM752H (B)	-MU	— (30kg × 1)	—	—	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)
	T-OS				30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)
	1S						
RM752F (B)	-MU	30kg × 1 (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	30kg × 2 (30kg × 3)	30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)
	T-OS				30kg × 2 (30kg × 3)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)
	1S						
RM852H	-MU	— (30kg × 1)	—	—	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)
	T-OS				30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)
	1S						
RM852F	-MU	30kg × 1 (30kg × 1)	— (30kg × 1)	— (30kg × 1)	30kg × 2 (30kg × 3)	30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)
	T-OS				30kg × 2 (30kg × 3)	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 2)
	1S						

トラクタ型式 MITSUBISHI MAHINDRA (ホイルトラクタ)		ウエイト必要枚数					
		小橋 S ヒッチ			直装		
		GM301	GM331	GM361	GM301	GM331	GM361
RM752H (B)	-MU						
	T-OS	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)			
	1S				30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)
RM752F (B)	-MU						
	T-OS	30kg × 2 (30kg × 3)	30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)			
	1S				30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)
RM852H	-MU						
	T-OS	30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)			
	1S				30kg × 1 (30kg × 2)	30kg × 1 (30kg × 1)	30kg × 1 (30kg × 1)
RM852F	-MU						
	T-OS	30kg × 2 (30kg × 3)	30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)			
	1S				30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)	30kg × 2 (30kg × 2)

# 異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、ただちに対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対 策
ギヤーケース	異音の発生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ギヤーの損傷	ギヤー交換
		ベベルギヤーの噛み合い不良	シムで調節
	オイル漏れ	オイルシール、Oリングの劣化、損傷	オイルシール、Oリング交換
		ケース取付けボルトの緩み	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
ベアリングの損傷		ベアリング交換	
チェンケース	異音の発生	チェンの緩みによるカバーとの干渉	テンショナ調節、チェン交換
		チェンテンショナの破損	テンショナ交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ベアリングの油切れ	ベアリングへの注油
		チェンの油切れ	チェンへの注油 (→ p.62)
耕うん軸	異音の発生	軸受け部のベアリングの損傷	ベアリング交換
		耕うん爪取付けボルトの緩み	ボルト増し締め
		耕うん爪の変形によるカバーとの干渉	耕うん爪交換
	振動の発生	耕うん爪軸の曲がり	耕うん爪軸交換
		耕うん爪、爪軸へのワラ、草などのかかり	ワラ、草などの除去
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
	軸回転不良	ギヤーの損傷	ギヤーの交換
		チェンの折損	チェンの交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
	土の溜まりすぎ	耕深が深い	耕深を浅く
ドラム	振動の発生	爪の耕深よりドラムが下がりすぎ	ドラムを上げる
	回転不良	ドラム取付けボルトの緩み	ボルト増し締め
		チェンの折損	チェン交換
フレーム	振動の発生	駆動軸の折損	駆動軸交換
		カバール取付けボルトの緩み	ボルト増し締め
	オフセット・旋回作動不良	グリス切れ	グリス注入
		ハーネスの断線または結合部、端子外れ	ハーネスまたは端子・コネクタの交換
		コントローラの故障	コントローラの交換
バッテリーの消耗		バッテリーの充電または交換	
各支点部および摺動部の油切れ	支点部および摺動部への注油 (→ p.62)		

必要に応じて

異常診断一覧表

本体各部	症 状	原 因	対 策
ジョイント	異音発生	グリス切れ	グリス注入
		ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の矯正
		作業機の上げすぎ	リフト量の規制
	たわみ発生	シャフトの噛み合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部の ガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

# カルコンのトラブルシューティング

症状	確認事項	対応方法
コントローラの電源が入らない (電源ランプが点灯しない)	電池の+/-が正しく挿入されていない	正しく接続してください。
	電池が消耗している	新しいものと交換してください。
操作中に電源ランプが切れる	電池が消耗している	新しいものに交換してください。
コントローラの電源ボタンを押しても制御ボックスから「ピ、ピ」と音がしてスタンバイ状態にならない	コントローラを間違えている	作業機に付属のコントローラを使用してください。
	制御ボックスの電源が入っていない	電源を入れてください。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラクタの外部電源ヒューズが切れている</li> <li>配線が間違っている</li> <li>バッテリーハーネス ASSY のヒューズが切れている</li> </ul>	配線を確認してください。
	バッテリーの+/-が正しく接続されていない	正しく接続してください。
	バッテリーが消耗している	新しいものと交換してください。
	カブラの挿入不良	再度、挿入してください。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>制御ボックスと離れている</li> <li>途中に障害物がある</li> </ul>	制御ボックスにコントローラを近づけてください。
操作中に止まる。	通信エラーが発生している (電源ランプが点滅している)	制御ボックスに近づけて、再操作してください。
	以下のものが近くにある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>同様の作業機</li> <li>強い電波を出す設備 (テレビ塔、空港、工場、無線設備、ホビー用ラジコンなど)</li> </ul>	電波の干渉を受けています。場所を変えるか、時間を置いて再操作してください。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>制御ボックスのブレーカが切れている (「ピー：連続音」がしている)</li> <li>モータなどのブレーカが切れている</li> </ul>	自動復帰します。ショートなどの故障がないか確認して、再操作してください。
	以下の操作をしている <ul style="list-style-type: none"> <li>ボタンを2か所以上同時に押す</li> <li>同じ操作ボタンを1分以上押す</li> <li>前進/後進：1分</li> <li>ドラム上下：30秒</li> </ul>	自動的に出力がストップします。再操作してください。
エンジンをかけ直すと制御ボックスから「ピピピ…」と警報音がする	キーが「入」の位置でエンジンをかけずに、コントローラを使用しているときにエンジンをかけた	トラクタにより、外部電源が一時的に切れる場合があります。コントローラの電源を再投入してください。
「前進」ボタンで旋回中に、一瞬シリンダが縮む	作業機の上げすぎ	ポジションコントロールレバーで作業機が動くところまで下げてください。

必要に応じて

カルコンの  
トラブルシューティング

症状	確認事項	対応方法
「ピ、ピ」と音がしてスタンバイ状態になったが操作ボタンを押しても作動しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく接続されていない</li> <li>バッテリーの+接続が不十分である</li> </ul> <p><b>取扱上の注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発電機などに接続せず、バッテリーに接続してください。</li> </ul>	バッテリーへの取付け、カプラなどの配線を確認してください。
	バッテリーが消耗し、作業機を動かす電力が不足している	新しいものに交換してください。
後進作業状態から前進ボタンを押しても作業機が前進作業方向に動かない	作業機がロックされている	<p>「前進」ボタンを3秒以上押し続けてください。</p> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業機はロックを解除するために、一度後進作業方向へ作動します。ロックが解除されると、前進作業方向へ動き始めます。</li> </ul>
ロックが開かない ロックが3秒程度遅れて作動する	バッテリーが劣化している	<p>新しいものに交換してください。</p> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トラクタの発電機の容量が小さい場合に作業機を動かすと、電圧が落ち込み発生しやすくなります。作動は遅れますが故障ではありません。</li> </ul>

# 廃棄について

廃棄物などの不適切な処理は、法律により処罰されることがあります。保守時に発生した廃棄物の処置は、適切な処理をしてください。

## 注意事項

本作業機やその保守時に発生する廃棄物の処分は、国、または地方行政の法令の規制対象となるものがあります。

廃棄する際は、国または地方行政の法令に従い産業廃棄物処理業者に依頼するなど適切な処理をしてください。

### ⚠ 注意



必ず実行

本作業機やその保守時に発生した廃棄物を廃棄するときは、国または地方行政の法令に従ってください。

\* 間違った廃棄を行うと、作業機からオイルが漏れ、川・海に流れだし汚染することがあります。

# 用語解説

ここでは用語について解説します。

## アタッチメント

作業機に後付けする部品

## オートヒッチ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

## クリーブ

超低速の作業速度

## 耕深

耕うんする深さ

## 3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

## チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

## トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

## 揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

## ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

## リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアリンクと連結しているアーム

## ロアリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで、左右1本ずつある

## ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

必要に応じて

廃棄について  
／用語解説

# KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

<http://www.kobashiindustries.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202